平成23年度

# キャリア意識調査報告書

お茶の水女子大学

2012年３月

# はじめに

お茶の水女子大学は、このほどはじめて、学生たちのキャリア意識を主題とした調査研究を実施した。

学生たちに幅広い教養と深い専門性を身に付けさせることは、高等教育機関が負う普遍的使命の一つであって変わるところはないが、いま、さまざまな今日的状況の中で、そのあり方が問われはじめている。その中で最も大きな要請が、学生の就業力育成に資するための教育、あるいは学生たちの社会的、職業的自立を促すための教育であろう。その本質は、アカデミズムに依拠した伝統型の大学教育を否定するものではまったくないが、大学教育の編み変えや新たな仕組みの追加が必要になっていることは否定できない。大学教員の中にはこうした変化を受け付けない向きもないわけではないけれども、「時代の先駆け」たる大学がいまなにをしなければならないのかを考えたとき、私たちがなすべきことは多々あるように思われる。

本学のキャリア教育支援体制は、いまようやくその整備がはじまったところであり、その第一歩として、学生の声を聞くこのキャリア意識調査を実施した。

学生たちの声は、彼女たちの直面する現実に正直であり、大学への批判はある部分痛烈ですらある。すべてを受け入れることはできないけれども、学生支援、キャリア支援の体制整備が不可欠であることを教えている。調査結果を受け止め、本学のキャリア支援体制、さらには教育体制の革新に向けて活かしていきたい。

回答してくれた学生諸君に感謝するとともに、関係各位に活用されることを期待している。

教育機構長（理事・副学長）　耳塚寛明

# 目次

はじめに

目次

調査の概要……1

第１章.「キャリア意識調査」の結果報告 ……3
⑴キャリア行動について……3
⑵キャリア意識について……9
⑶本学のキャリア支援・教育の活用状況について……18
⑷本学のキャリア支援・教育に関する意見・希望について……24

第２章. 経済・生活支援の利用とキャリア支援の利用との関連……25
－　利用状況と有益性、評価の観点からみて　－
⑴経済・生活支援の利用状況……25
⑵奨学金制度の利用とキャリア支援の利用の関連……27
⑶授業料免除制度の利用状況とキャリア支援の利用状況の関連……32
⑷学生寮の利用状況とキャリア支援の利用状況の関連……36
⑸おわりに……42

第３章. キャリア関連科目受講状況とキャリア形成・キャリア支援との関連……44
⑴キャリア関連科目とは……44
⑵キャリア関連科目の受講状況……46
⑶キャリア関連科目の役立ち度について……50
⑷キャリア関連科目の受講とキャリア支援の利用について……53
⑸キャリア関連科目の受講状況とキャリア形成について……55
⑹おわりに……60

第４章. 大学生活および経済・生活支援とキャリア行動、キャリア意識との関連……61
⑴大学生活、学業成績とキャリア支援の利用との関連……61
⑵経済・生活支援とキャリア意識との関連……70

# 執筆担当者

耳塚　寛明（副学長・教育機構長、学生支援センター長）　担当：はじめに
望月　由起（学生支援センター　准教授）　担当：第２章
桂　　瑠以（学生支援センター　講師）　担当：調査の概要、第１章、第４章
中越　　綾（キャリア支援センター　リサーチ・フェロー）　担当：第３章

## 調査の概要

**・調査目的：**

学生の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とする。具体的には、下記４点を中心とする。

１．本学の学生のキャリア意識・キャリア行動の特徴を把握し、キャリア意識を高めるためにどのような支援を行ったらよいか検討する。
２．奨学金受給者、授業料免除者、寮生のキャリア意識･キャリア行動の特徴を把握し、どのような支援を行ったらよいか検討する。
３．本学のキャリア関連授業がどの程度浸透しているかを明らかにし、今後どのように授業運営を行っていったらよいか検討する。
４．大学生活および経済・生活支援とキャリア意識・キャリア行動との関連を把握し、大学生活の送り方や経済・生活支援の違いにより、キャリア意識、キャリア行動に違いが見られるかを検討する。

**・調査時期：**

2011年10月～11月

**・調査方法：**

お茶の水女子大学学生ポータルサイトを用いたウェブ調査

**・調査協力依頼：**

お茶の水女子大学ホームページ、学生支援センターホームページ、学内掲示版、OchaML、教員向けMLでの告知、図書館および情報基盤センターのTV画面への調査実施依頼の掲載、学内でのチラシ配布等により、学生への調査協力依頼を行った。

**・調査分析対象：**

本学学部１年生～４年生2,091名および、大学院前期課程生546名。
有効回答数799名（30.2％）。文教育学部288名（30.2％）、理学部176名（31.5％）、生活科学部175名（30.2％）、大学院前期課程156名（28.6％）。詳細は以下参照。

**学部・学科別回収率**

| | 対象者数 | 回収数 | 回収率(%) |
|---|---|---|---|
| 合計 | 2637 | 799 | 30.2 |
| 文教育学部 | 953 | 288 | 30.2 |
| 人文科学科 | 259 | 93 | 35.9 |
| 言語文化学科 | 382 | 92 | 24.1 |
| 人間社会科学科 | 196 | 74 | 37.8 |
| 芸術・表現行動学科 | 116 | 29 | 25.0 |
| 理学部 | 559 | 176 | 31.5 |
| 数学科 | 93 | 34 | 36.6 |
| 物理学科 | 99 | 29 | 29.3 |
| 化学科 | 88 | 27 | 30.7 |
| 生物学科 | 109 | 46 | 42.2 |
| 情報科学科 | 170 | 40 | 23.5 |
| 生活科学部 | 579 | 175 | 30.2 |
| 食物栄養学科 | 157 | 39 | 24.8 |
| 人間・環境科学科 | 107 | 37 | 34.6 |
| 人間生活学科 | 315 | 99 | 31.4 |
| 大学院前期課程 | 546 | 156 | 28.6 |
| 比較社会文化学 | 154 | 44 | 28.6 |
| 人間発達科学 | 70 | 18 | 25.7 |
| ジェンダー社会科学 | 48 | 9 | 18.8 |
| ライフサイエンス | 116 | 39 | 33.6 |
| 理学 | 158 | 46 | 29.1 |
| 無回答 | － | 4 | － |

学年別回収率

| | 対象者数 | 回収数 | 回収率(%) |
|---|---|---|---|
| 1年生 | 484 | 173 | 35.7 |
| 2年生 | 480 | 130 | 27.1 |
| 3年生 | 519 | 203 | 39.1 |
| 4年生 | 608 | 127 | 20.9 |
| 大学院前期課程1年生 | 277 | 98 | 35.4 |
| 大学院前期課程2年生 | 269 | 64 | 23.8 |
| 無回答 | − | 4 | − |

**・実施主体：**

国立大学法人 お茶の水女子大学 学生支援センター

「文部科学省特別経費プロジェクト・統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」

詳細は、http://www.ocha.ac.jp/gss/index.htmlを参照。

**・個人情報について：**

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めている（詳細は、http://www.ocha.ac.jp/plaza/info_public/individual/index.html参照）。

**・参考とした調査・報告書：**


Benesse教育研究開発センター （2005）「進路選択に関する振り返り調査」
http://benesse.jp/berd/center/open/report/shinrosentaku/2005/pdf/shinrosentaku04.pdf

Benesse教育研究開発センター （2008）「大学生の学習・生活実態調査」
http://benesse.jp/berd/center/open/report/daigaku_jittai/hon/pdf/data_10.pdf

厚生労働省・文部科学省 （2011）
「平成23年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査」
http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001vbzs-att/2r9852000001vc1i.pdf

マイコミ （2010）「2011年卒マイコミ大学生就職意識調査」
http://saponet.mynavi.jp/enq_gakusei/ishiki/data/syuusyokuisiki_2012.pdf

日本学生支援機構「平成20年度学生生活調査」
http://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/documents/data08_all.pdf

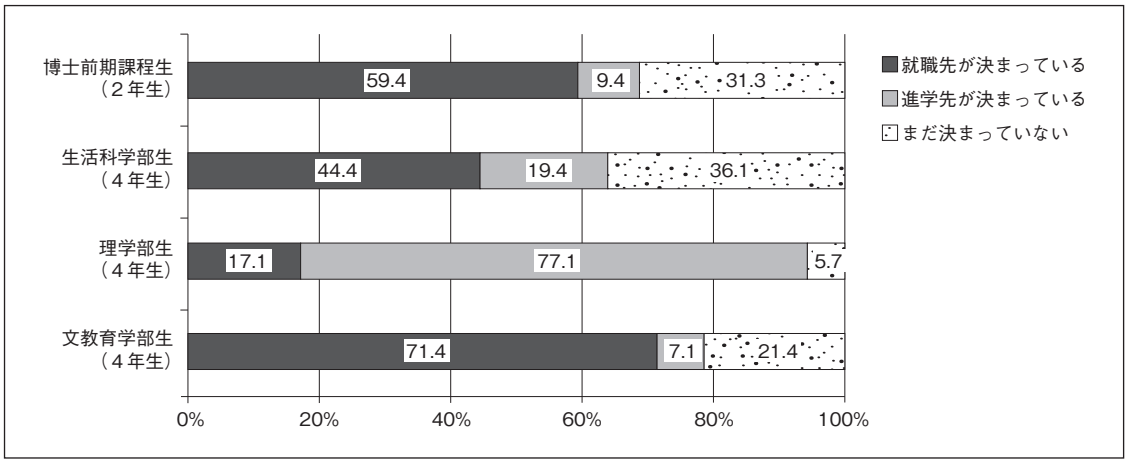
お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター （2010）
「お茶の水女子大学卒業生のライフコース－卒業生アンケート調査に基づいて－」
文部科学省特別研究経費「女性リーダー育成プログラム」

お茶の水女子大学 （2011）
「平成22年度 お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」

リクルート（2009）「大学生の就職企業希望ランキング」
http://www.recruit.jp/news_data/data/job/J20090408/docfile.pdf

産業能率大学（2008）「全国1000人の大学生キャリア意識調査」
http://www.fgn.jp/mpac/sample/_data/impacter/pdf/200803_13.pdf

図表1-2　就職・進学先の決定状況（学部・専攻別）



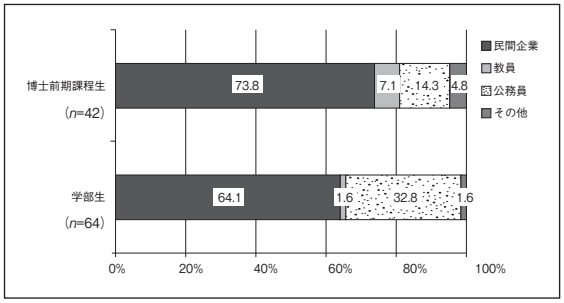

学部、専攻別では、就職先が決まっていると回答した者は、文教育学部生71.4％、理学部生17.1％、生活科学部生44.4％、博士前期課程生59.4％であった。進学先が決まっていると回答した者は、文教育学部生7.1％、理学部生77.1％、生活科学部生19.4％、博士前期課程生9.4％であった。まだ決まっていないと回答した者は、文教育学部生21.4％、理学部生5.7％、生活科学部生36.1％、博士前期課程生31.3％であった。このことから、学部、専攻別に見ると、文教育学部生では就職先が決まっている割合が７割程度と高く、理学部生では進学先が決まっている割合が８割程度と高い一方、生活科学部生、博士前期課程生では「就職先が決まっている」、「進学先が決まっている」を合わせても７割程度と低い傾向が示された。

文部科学、厚生労働省によれば、2011年10月時点の大学生の就職内定率（就職希望者に占める内定取得者の割合）は、全体では59.9％、国公立では67.4％、女子では57.7％となっている。上述した本学の結果は、全体における内定者の割合であり、就職希望者に占める割合ではないものの、本学の内定者の割合は、学部、専攻間で大きく違いが見られ、その割合は、総じて高いとはいえないと考えられる。

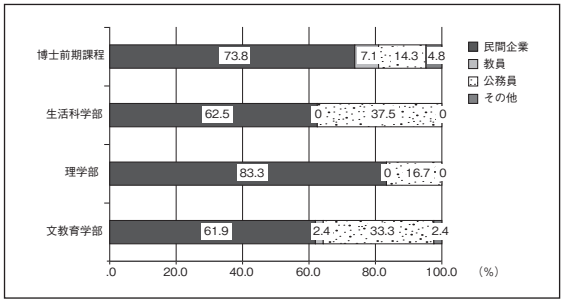
次に、就職先が決まっていると回答した者のみを対象に、就職先の内訳を「１ 民間企業」「２ 教員」「３ 公務員」「４ その他」の４肢択一で回答を求めた。結果を図表1-2に示す。

さらに、進学先が決まっていると回答した者のみを対象に、進学先を「１ お茶の水女子大学」「２ お茶の水女子大学以外」の２肢択一で回答を求めた。結果を図表1-3～6に示す。

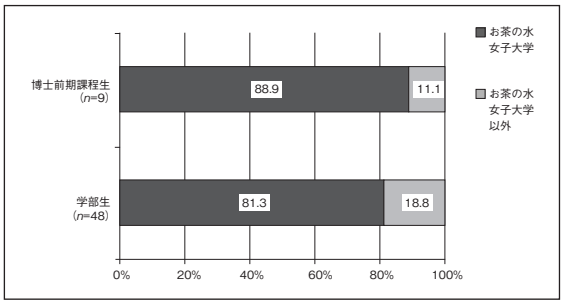
図表1-3　就職先の内訳（学部全体・専攻別）



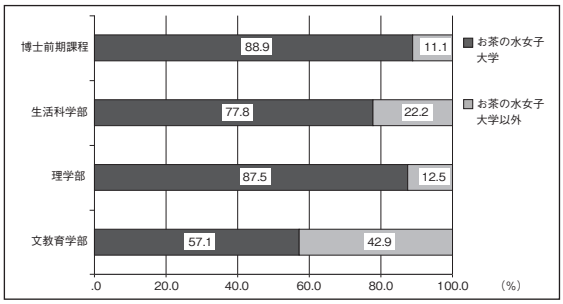

図表1-4　就職先の内訳（学部・専攻別）



図表1-5　進学先の内訳（学部全体・専攻別）




図表1-6　進学先の内訳（学部・専攻別）




就職先について、学部生全体では、民間企業64.1％、教員1.6％、公務員32.8％、その他1.6％であり、博士前期課程生では、民間企業73.8％、教員7.1％、公務員14.3％、その他4.8％であった。

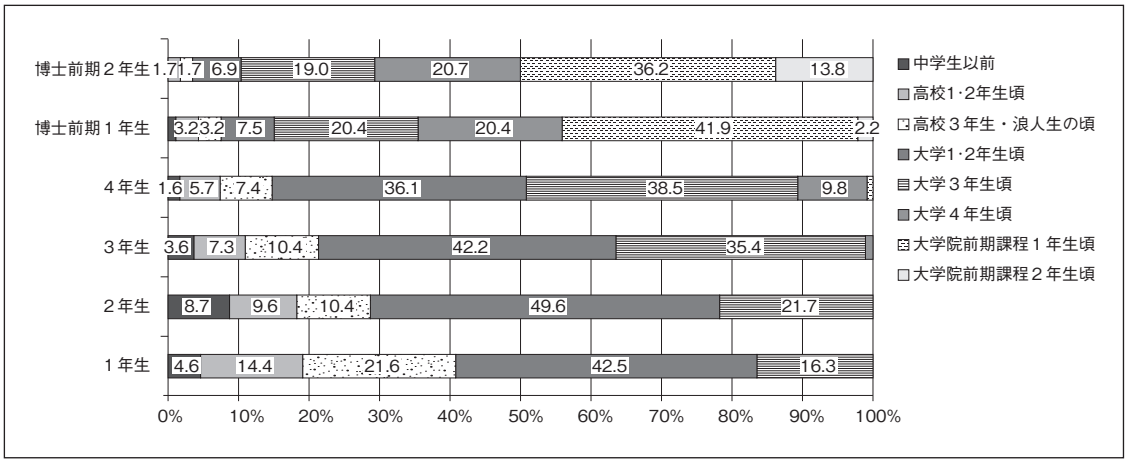
Benesse教育研究開発センター（2005）の全国の学部生を対象とした調査によれば、女子では、民間企業45％、教員9.3％、公務員11.1％、進学9.5％、その他8.7％であり、本学の学部生は、公務員の比率が高く、博士前期課程生は民間企業の比率が高いことがわかる。

また、進学について、学部生全体では、お茶の水女子大学への進学81.3％、お茶の水女子大学以外への進学18.8％であり、博士前期課程生では、それぞれ88.9％、11.1％であった。これらの結果から、学部生、博士前期課程生共に、お茶の水女子大学への進学率が圧倒的に高いといえる。

### ２）進路を考え始めた時期

大学卒業後（大学院前期課程生は、前期課程修了後）の進路を、いつ頃から考え始めたかについて、「１ 中学生以前」「２ 高校１・２年生頃」「３ 高校３年生・浪人生の頃」「４ 大学１・２年生頃」「５ 大学３年生頃」「６ 大学４年生頃」「７ 大学院前期課程１年生頃」「８ 大学院前期課程２年生頃」「９ それ以降」の９肢択一で回答を求めた。結果を図表1-7に示す。

図表1-7　進路を考え始めた時期（学年別）



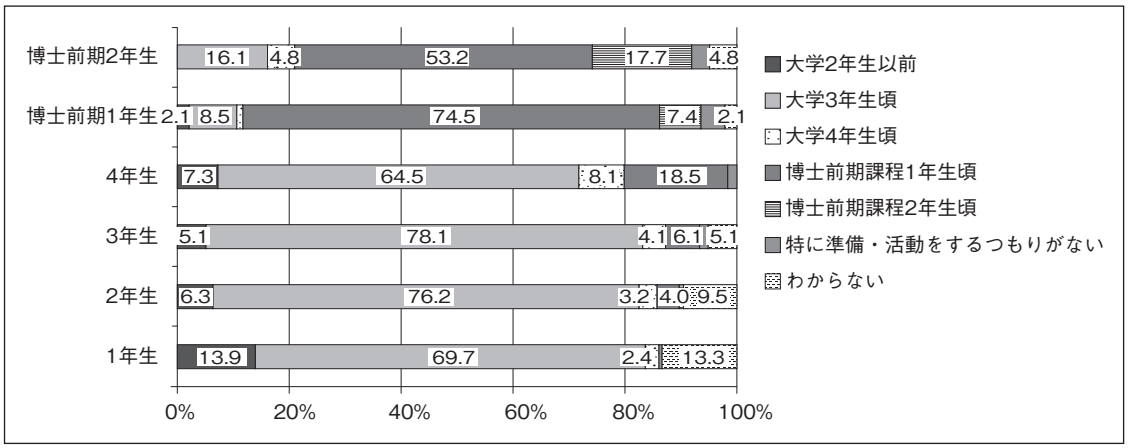

学部生では、いずれの学年でも大学１・２年生頃が最も多い。博士前期課程生では、大学院前期課程１年生頃が多いが、次いで、大学４年生頃、大学３年生頃も多く、学部卒業にあたり進路を考えたのち、博士前期課程において、再度進路について考えている様子がうかがえる。

Benesse教育研究開発センター（2008）の学部生を対象とした調査によれば、進路を考え始めた時期は、大学１・２年生が32.2％で最も多く、次いで、大学３年生頃25.9％、高校３年生頃16.0％となっており、本学の学部生の結果と同様の傾向といえる。

### ３）進路に向けた準備・活動を始めた時期

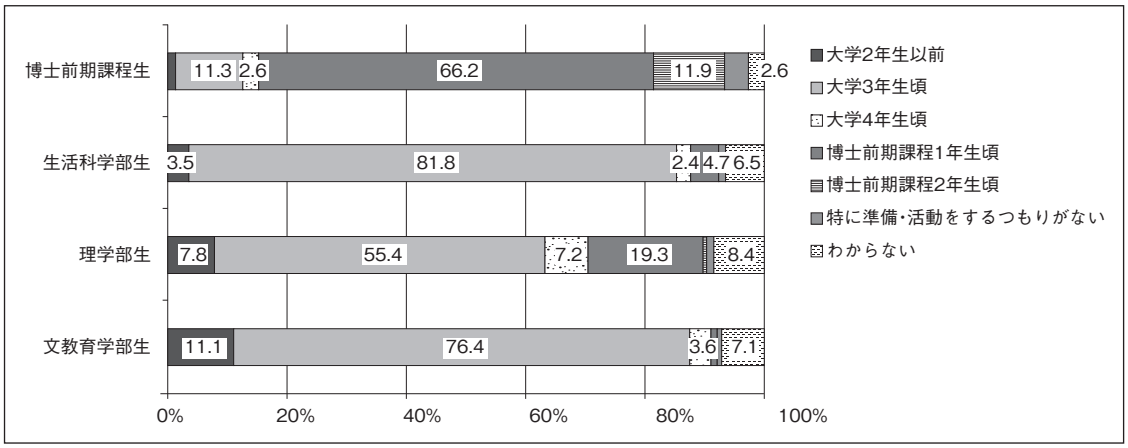
大学卒業後（大学院前期課程生は、前期課程修了後）の進路に向けた準備・活動（就職ガイダンスなどへの参加ではなく、企業訪問やOG訪問など、自分で積極的に動く活動）をいつ頃から始めるかについて、「１ 大学２年生以前」「２ 大学３年生の前期」「３ 大学３年生の夏休み」「４ 大学３年生の後期」「５ 大学４年生の前期」「６ 大学４年生の夏休み」「７ 大学４年生の後期」「８ 大学院前期課程１年生の前期」「９ 大学院前期課程１年生の夏休み」「10 大学院前期課程１年生の後期」「11 大学院前期課程２年生の前期」「12 大学院前期課程２年生の夏休み以降」「13 特に準備・活動をするつもりがない」「14 わからない」の14肢択一で回答を求めた。選択肢が多いため、選択肢を合成し、「１ 大学２年生以前」「２ 大学３年生頃」「３ 大学４年生頃」「４ 大学院前期課程１年生頃」「５ 大学院前期課程２年生頃」「６ 特に準備・活動をするつもりがない」「７ わからない」として、結果を図表1-8に示す。

**図表1-8　進路に向けた準備・活動を始めた時期（学年別）**




学部生では、いずれの学年でも大学３年生頃が最も多く、博士前期課程生では、博士前期課程１年生頃が多い。Benesse教育研究開発センター（2008）の学部生を対象とした全国調査によれば、大学３年生頃が65.1％と最も多く、本学の学部生の結果と同様の傾向といえる。次に、学部、専攻別に結果を示す。

**図表1-9　進路に向けた準備・活動を始めた時期（学部・専攻別）**

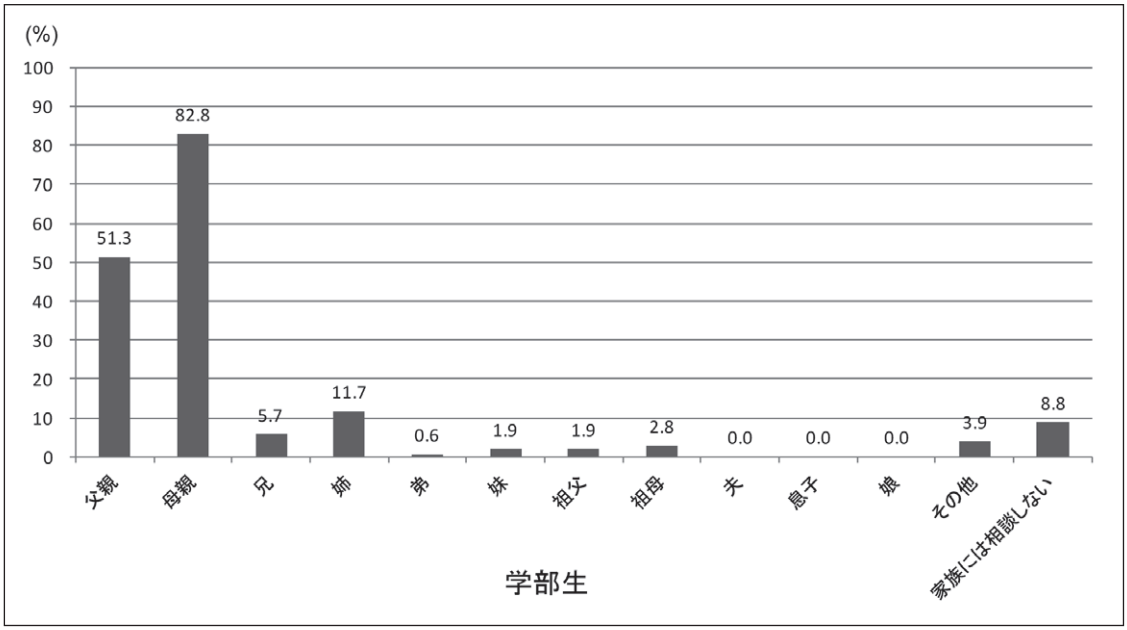


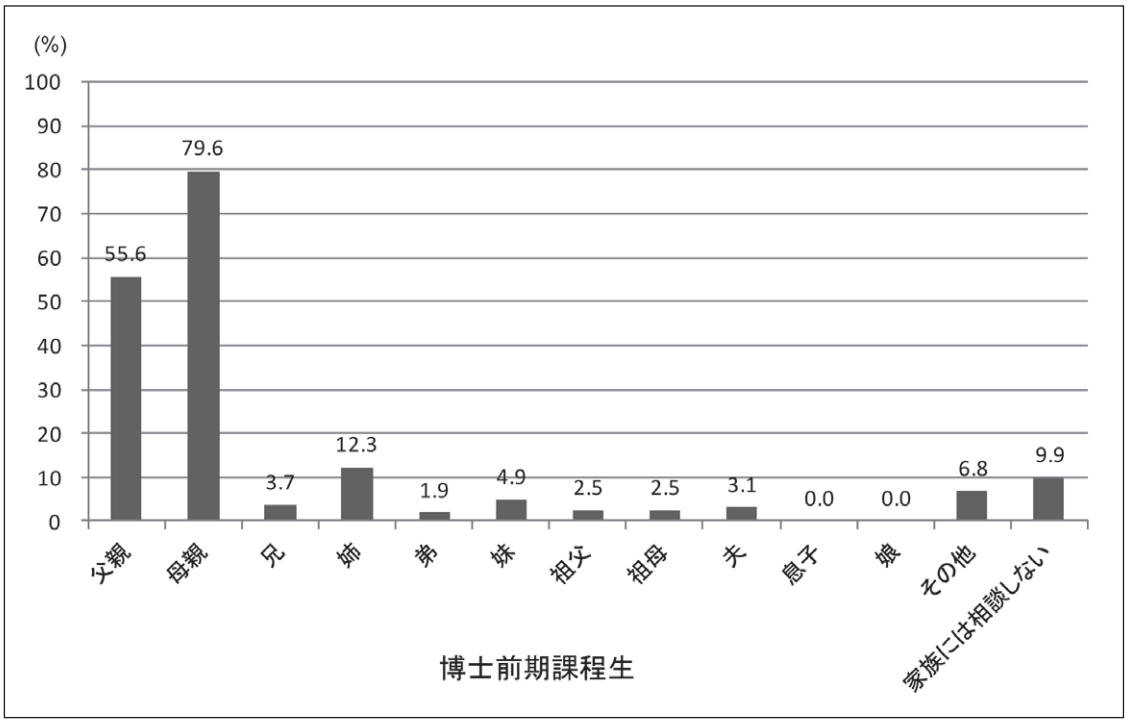

学部、専攻別でも同様の結果であり、学部生では大学３年生頃がもっとも多く、博士前期課程生では、博士前期課程１年生頃がもっとも多い。なお、理学部生では、博士前期課程１年生頃も19.3％と多いが、これは、理学部生では博士前期課程生へ進学する割合が多いためと考えられる。

### 4）キャリアについて家族の誰に相談するか

就職・進学などのキャリアについて、家族の中で、誰に相談するかについて、「1 父親」「2 母親」「3 兄」「4 姉」「5 弟」「6 妹」「7 祖父」「8 祖母」「9 夫」「10 息子」「11 娘」「12 その他」「13 家族には相談しない」の13肢の中から複数回答可として回答を求めた。結果を図表1-10に示す。

図表1-10　キャリアについて家族の誰に相談するか




学部生、博士前期課程生とも、母親が最も多く（それぞれ82.8％、79.6％）、次いで父親が多かった（それぞれ51.3％、55.6％）。一方、家族には相談しないというものも学部生で8.8％、博士前期課程生で9.9％いることが示された。

お茶の水女子大学の「新入生の生活に関する調査」（2010）によれば、就職や将来のことに関する父親の関与は49.2％、母親の関与は60.1％となっている。このことから、大学入学時期の保護者の関与は、大学入学後も継続しており、大学在学中に就職や将来のことがより現実問題として見えてくる中で、保護者の関与も増える傾向が示されている。

また、産業能率大学（2008）の大学生を対象とした全国調査によれば、自分の進路（受験、就職活動）を決める際の相談相手として、母親は22.8％、父親は11.7％となっている。本学の結果と比較すると、本学の保護者は、子どもの就職・進学などのキャリアについての関心が非常に高いといえる。したがって、今後は、学生への支援にあわせて、保護者への支援（例えば、就職状況や、本学のキャリア支援についての情報提供を行うなど）も行っていくことが求められているといえよう。

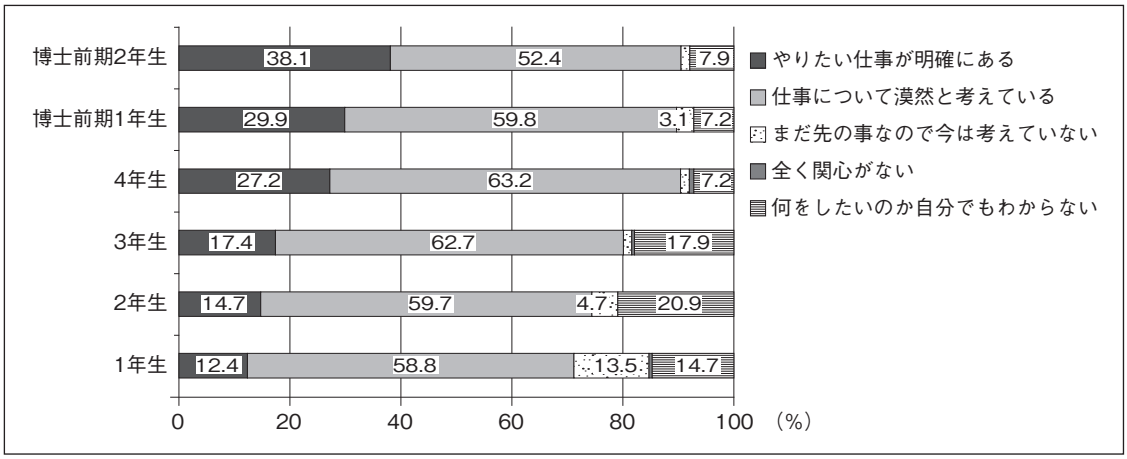
## ⑵キャリア意識について

本節では、①将来のキャリアに対する意識、②希望する進路、③希望する産業、④希望する就業形態、⑤企業規模の志向、⑥就職先を決めるとき重視すること、⑦自分や職業に対する意識、⑧結婚と仕事への価値観を示す。

### 1）将来のキャリアに対する意識

将来の職業などのキャリアについて、「1 やりたい仕事が明確にある」「2 仕事について漠然と考えている」「3 まだ先の事なので今は考えていない」「4 全く関心がない」「5 何をしたいのか自分でもわからない」の５肢択一で回答を求めた。結果を図表1-11に示す。

**図表1-11　将来のキャリアに対する意識（学年別）**

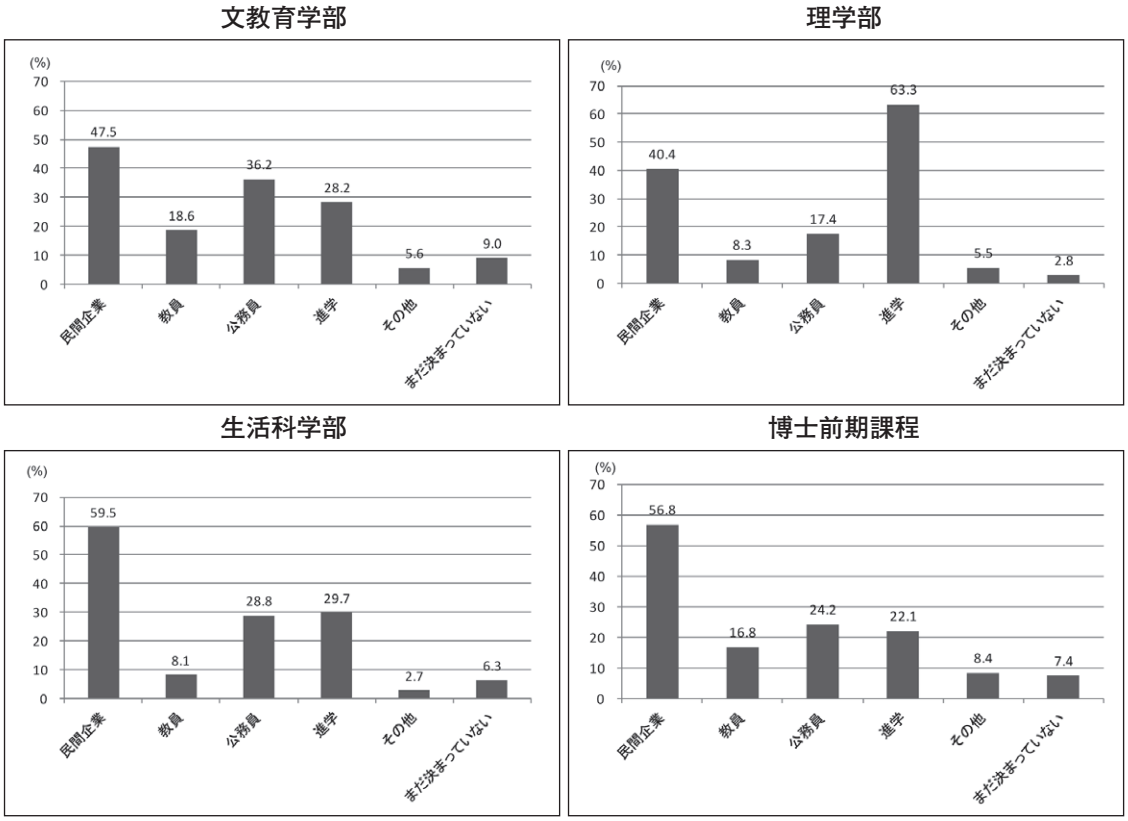



学年別に見ると、学部生、博士前期課程生共に、学年が上がるにつれ、「やりたい仕事が明確にある」の比率が高くなっており、将来のキャリアがより明確になっていくものと考えられる。ただし、全ての学年で、「仕事について漠然と考えている」が最も多いことから、学部４年生や博士前期課程２年生で内定が出ている学生でも、仕事についての明確なイメージがもてない場合も多いと考えられる。産業能率大学（2008）の大学生を対象とした全国調査によれば、やりたい仕事が明確にある」30.3％、「仕事について漠然と考えている」50.7％であり、本学の学部生の結果と比較すると、本学の学部生のほうが「やりたい仕事が明確にある」の割合が低い。このことから、本学の学生は、やりたい仕事のイメージが明確にもてない学生の比率が多いことがうかがえる。このことは、就職活動の出足の悪さや積極性を阻む要因となる可能性も考えられる。したがって、キャリア教育を行う際には、各業種の具体的な職種や仕事内容などがイメージできるような取り組みも必要ではないだろうか。

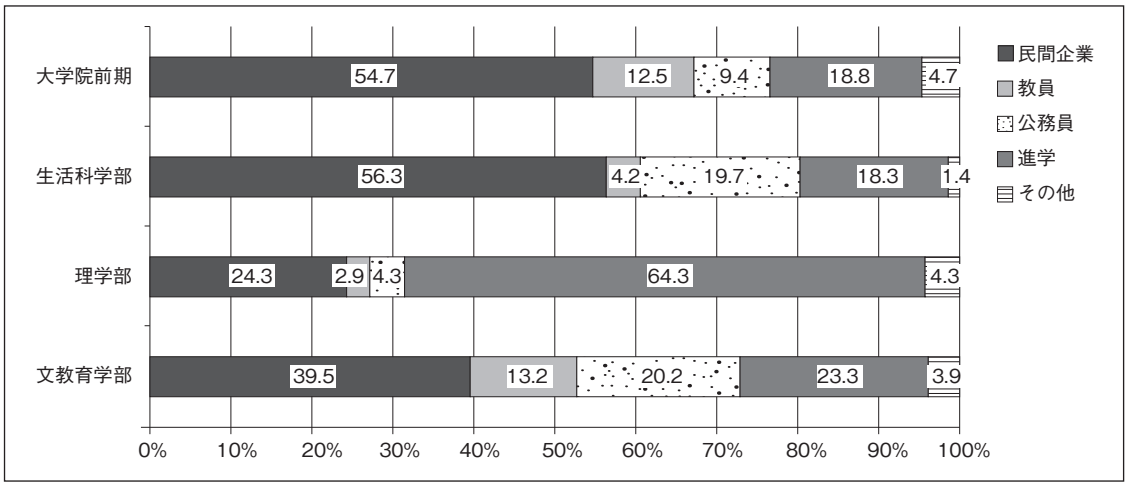
### 2）希望する進路

まだ就職・進学先が決まっていない人を対象に、大学卒業後の希望進路を「1 民間企業」「2 教員」「3 公務員」「4 進学」「5 その他」「6 まだ決まっていない」から、あてはまるものを複数回答可として回答を求めた。さらに、一番希望するものを一つ尋ねた。結果を図表1-12、1-13に示す。

図表1-12　希望する進路（学部・専攻別）




図表1-13　一番希望する進路（学部・専攻別）



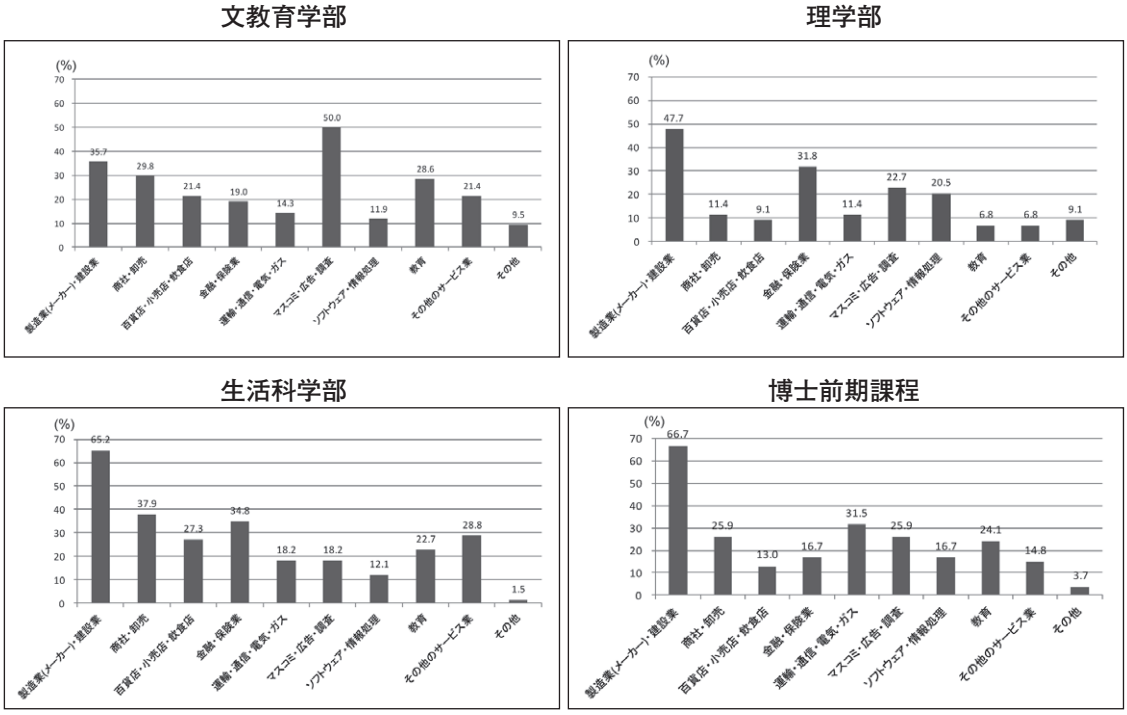

最も希望が多い進路を学部・専攻別に見ると、文教育学部生では民間企業（47.5％）、理学部生では進学（63.3％）、生活科学部生では民間企業（59.5％）、博士前期課程生では民間企業（56.8％）であった。一番希望する進路も、同様の傾向が見られた。

Benesse教育研究開発センター（2005）の全国の学部生を対象とした調査によれば、女子の希望進路では、民間企業45％、教員9.3％、公務員11.1％、進学9.5％、その他8.7％であり、本学の学部生の結果と比較すると、本学では、内定者の結果（「１）就職・進学先の決定状況」p4～5参照）と同様に、公務員や進学を希望する割合が高いことがわかる。特に、理学部では進学を希望する割合が圧倒的に高いことも、本学の特徴の一つといえる。

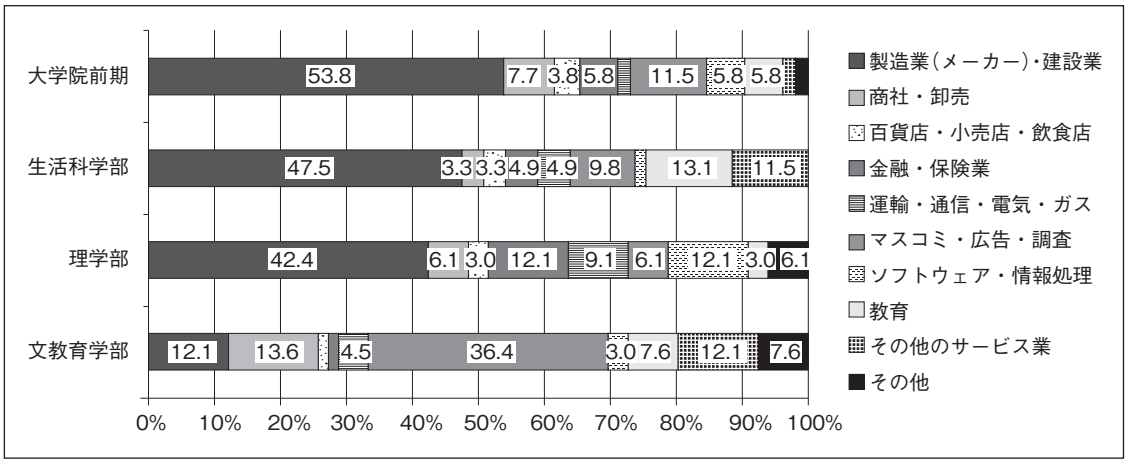
### 3）希望する産業

先述した2）で「1 民間企業」を選んだ人を対象に、どんな産業に進みたいかについて、「1 製造業（メーカー）・建設業」「2 商社・卸売」「3 百貨店・小売店・飲食店」「4 金融・保険業」「5 運輸・通信・電気・ガス」「6 マスコミ・広告・調査」「7 ソフトウェア・情報処理」「8 教育」「9 その他のサービス業」「10 その他」から、あてはまるものを複数回答可として回答を求めた。さらに、一番希望するものを一つ尋ねた。結果を図表1-14、1-15に示す。

図表1-14　希望する産業（学部・専攻別）




図表1-15　一番希望する産業（学部・専攻別）




最も希望が多い産業を学部・専攻別に見ると、文教育学部ではマスコミ・広告・調査（50.0％）、理学部では製造業・建設業（47.7％）、生活科学部では製造業・建設業（65.2％）、博士前期課程では製造業・建設業（66.7％）であった。一番希望する進路も、同様の結果であった。

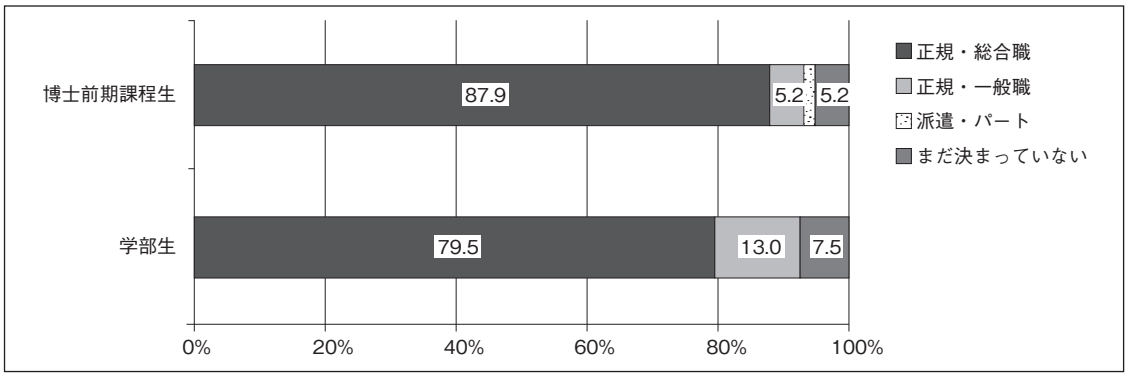
Benesse教育研究開発センター（2005）の全国の学部生を対象とした調査によれば、女子の希望業種では、製造業・建設業35.9％、情報通信業（電話、放送、出版、新聞、情報サービス、本調査のマスコミ・広告・調査にあたる）23.4％の順に高く、本学の調査結果と同様の傾向が認められる。また、本学の特徴として、理学部では金融・保険業の比率が高く、

理学部以外では、教育の比率が高いことも挙げられる。

### 4）希望する就業形態

先述した２）で「１ 民間企業」を選んだ人を対象に、どのような就業形態で働くことを希望しているかについて、「１ 正規・総合職」「２ 正規・一般職」「３ 派遣・パート」「４ まだ決まっていない」の４肢択一で回答を求めた。結果を図表1-16に示す。

図表1-16　希望する就業形態



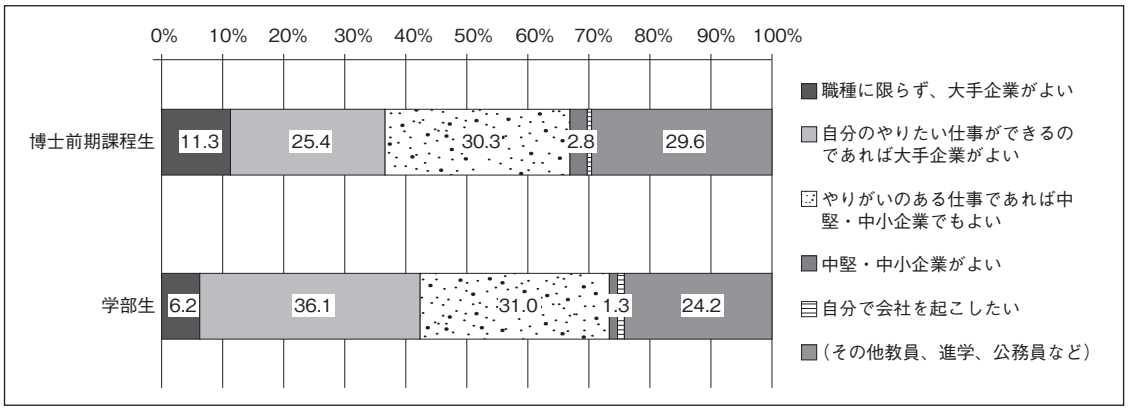

学部生、博士前期課程生共に、正規・総合職（それぞれ79.5％、87.9％）を希望する割合が圧倒的に高いことが示された。

リクルート（2009）の全国調査によれば、女子では総合職希望59.2％、一般職希望55.7％（複数回答可）となっており、本学の結果を見ると、総合職を希望する割合が大きく上回っているといえる。

### 5）企業規模の志向

どのような規模の企業で働くことを希望しているかについて、「１ 職種に限らず、大手企業がよい」「２ 自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」「３ やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」「４ 中堅・中小企業がよい」「５ 自分で会社を興したい」「６ その他（教員、進学、公務員など）」の６肢択一で回答を求めた。結果を図表1-17に示す。

図表1-17　企業規模の志向




学部生、博士前期課程生共に、「自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」36.1％、25.4％、「やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」31.0％、30.3％、「その他」24.2％、29.6％が多いことが示された。

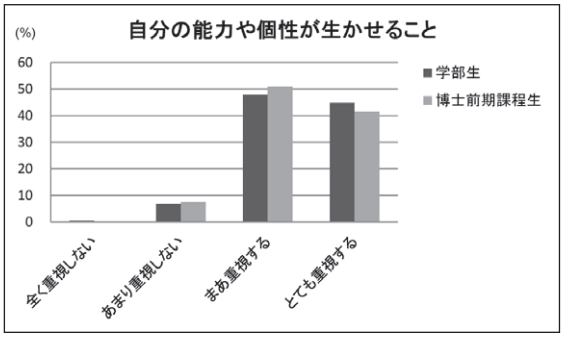
マイコミ（2010）の全国調査によれば、「大手企業がよい」7.8％、「自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」39.2％、「やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」43.4％、「中堅・中小企業がよい」4.2％、「自分で会社を起こしたい」0.7％、「その他」4.8％となっている。本学の結果と比較すると、大手企業、中小企業志向に大き

な違いは見られないが、本学では、「その他」の割合が多く、教員、進学、公務員などを希望する割合が高いといえる。したがって、民間企業への就職支援にあわせて、こうした進路を希望する学生への支援も行っていく必要があると考えられる。

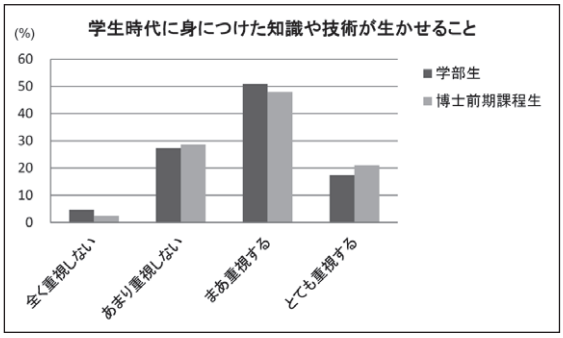
### 6）就職先を決めるとき重視すること

就職先を決めるとき、次のようなことをどの程度重視するかについて、「1 全く重視しない」「2 あまり重視しない」「3 まあ重視する」「4 とても重視する」の4肢択一で回答を求めた。結果を図表1-18～35に示す。

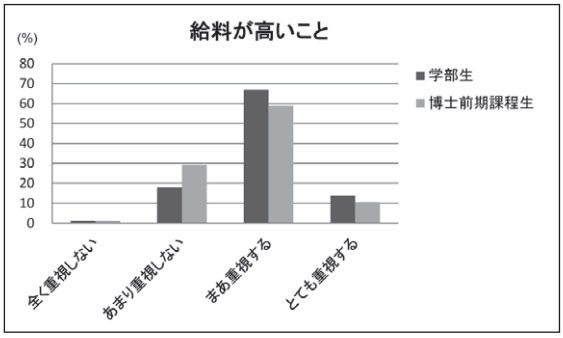
図表1-18



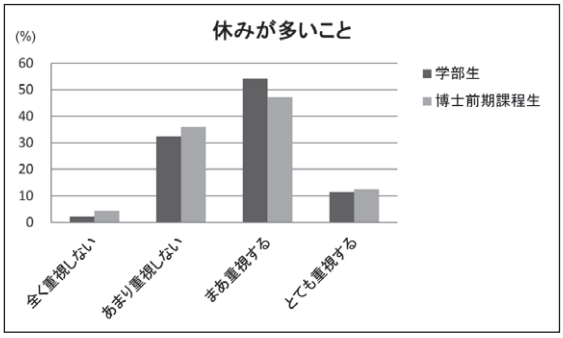

図表1-19



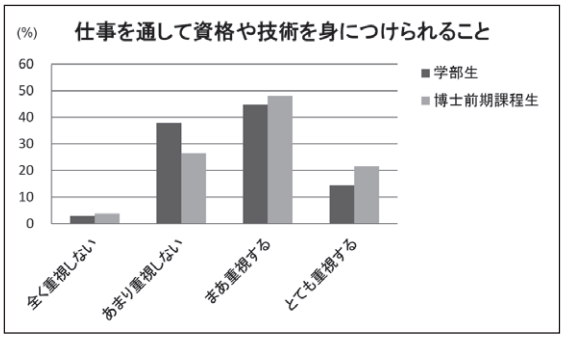

図表1-20



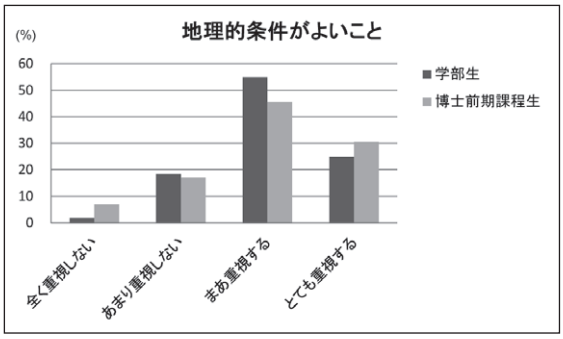

図表1-21



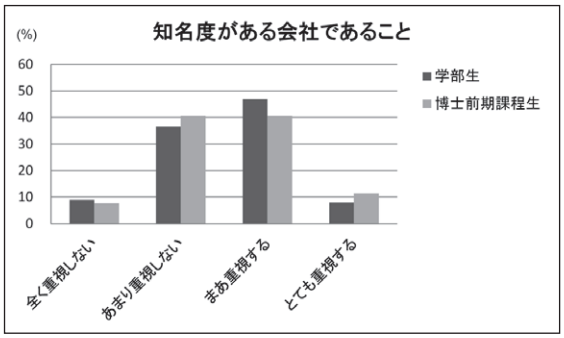

図表1-22



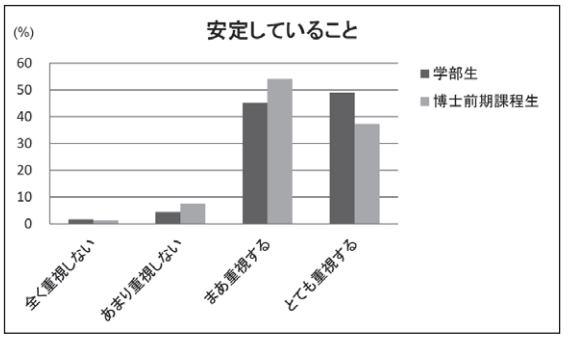

図表1-23



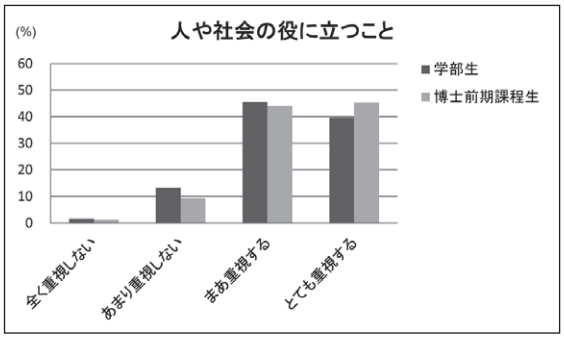
図表1-24



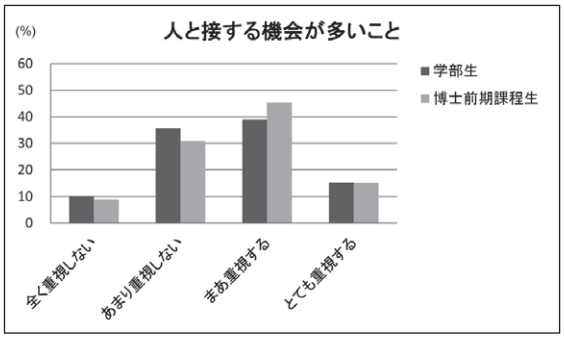

図表1-25



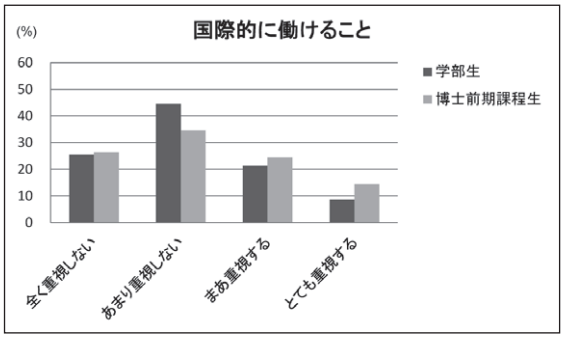

図表1-26



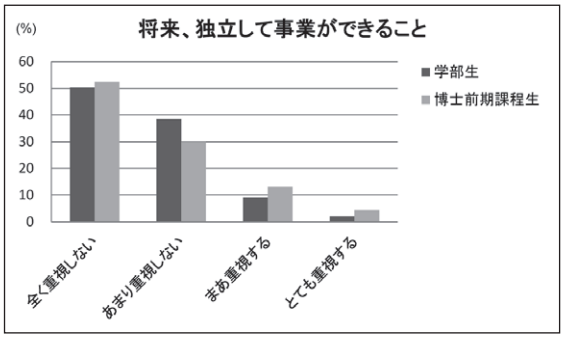

図表1-27



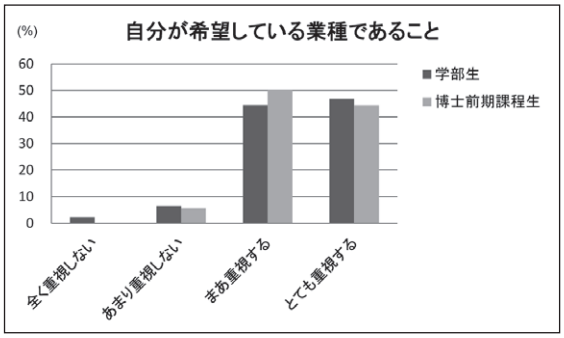

図表1-28



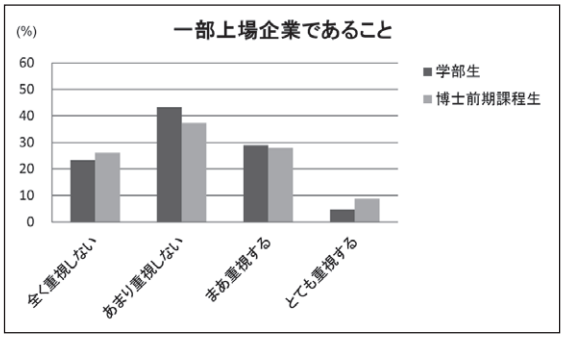

図表1-29



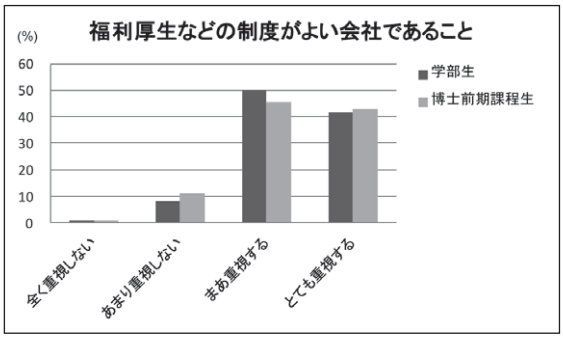

図表1-30



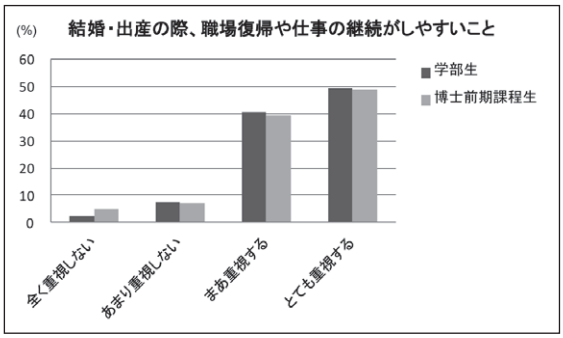

図表1-31



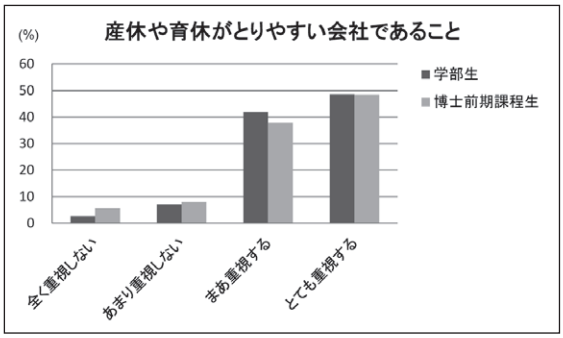
図表1-32



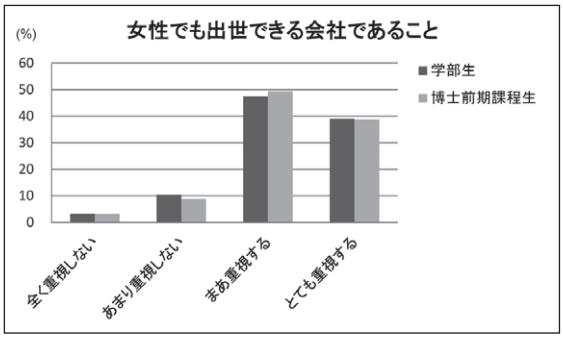

図表1-33




図表1-34




図表1-35




学部生、博士前期課程生を比較すると、両者に大きな差異はなく、同様の傾向があるといえる。

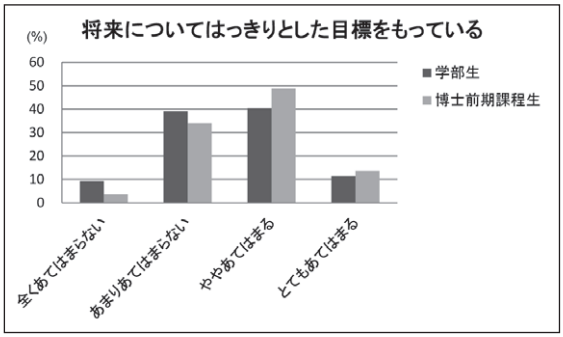
「まあ重視する」「とても重視する」を合わせて90％以上の項目は、「自分の能力や個性が生かせること」、「安定していること」、「自分が希望している業種であること」、「結婚・出産の際、職場復帰や仕事の継続がしやすいこと」であった。このことから、これらの項目は、就職先を決める際、特に重要性が高いものと考えられる。一方、「全く重視しない」「あまり重視しない」が50％以上の項目は、「国際的に働けること」「将来独立して事業ができること」であった。このことから、これらの項目については、本学の学生の関心が比較的低いものと考えられる。

Benesse教育研究開発センター（2005）の全国の学部生を対象とした調査の結果でも、本学の結果と同様の傾向が認められている。したがって、学生が就職先を検討する際に、こうした企業の情報を入手できるよう、ガイダンスやセミナー、就職情報資料室での情報提供を行っていくことが望ましいだろう。

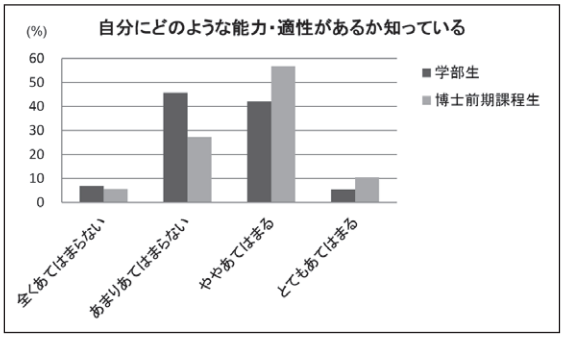
### 7）自分や職業に対する意識

自分や職業に対する意識について、「1　全くあてはまらない」「2　あまりあてはまらない」「3　ややあてはまる」「4　とてもあてはまる」の４肢択一で回答を求めた。結果を図表1-36～41に示す。

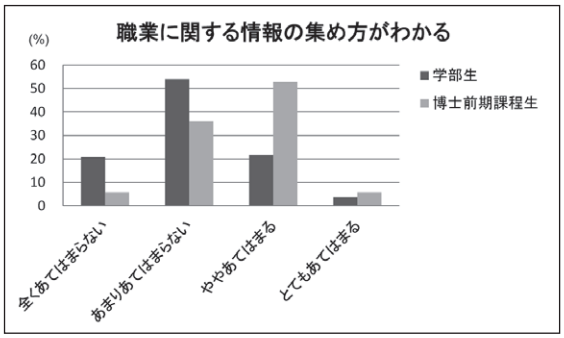
図表1-36



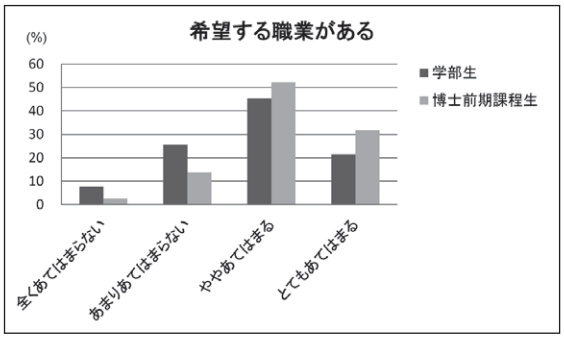

図表1-37



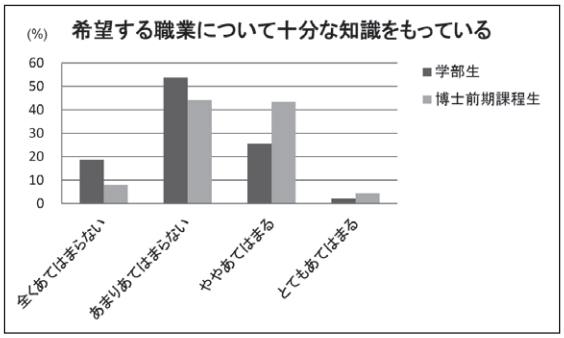
図表1-38



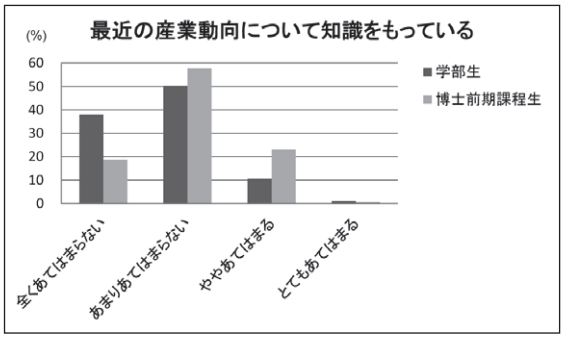

図表1-39




図表1-40




図表1-41



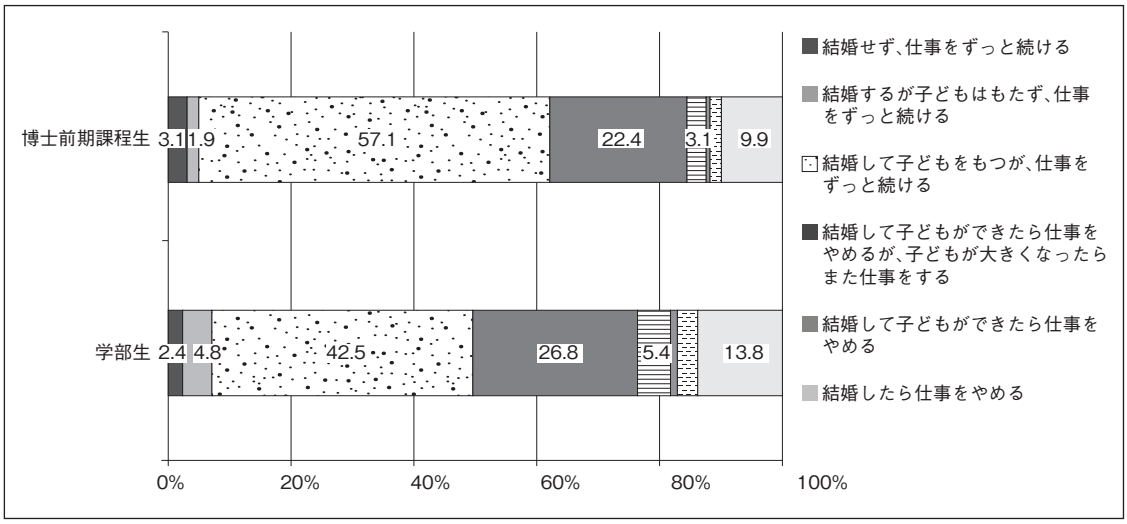

「全くあてはまらない」「あまりあてはまらない」の合計得点と「ややあてはまる」「とてもあてはまる」の合計得点を算出し、学部生と博士前期課程生の得点を比較した。その結果、差異が認められた項目は、「自分にどのような能力･適性があるか知っている」、「職業に関する情報の集め方がわかる」、「希望する職業がある」であり、全ての項目で、博士前期課程生より学部生のほうが、あてはまる割合が低かった。

Benesse教育研究開発センター（2005）の調査結果と本学の学部生の結果を比較すると、「職業に関する情報の集め方がわかる」、「希望する職業について十分な知識をもっている」で差異が見られ、どちらも全国調査より本学の学部生のほうが、あてはまる割合が低かった。この結果は、一概に能力の差異とは断定できないものの、本学の学生が、自身のこうした能力に自信をもっていないということはいえるだろう。したがって、こうした支援を行うことで、学生に自信をもたせ、キャリアに関する活動の意欲を高めていくことも必要であろう。

### ８）結婚と仕事への価値観

結婚と仕事への価値観について、「１　結婚せず、仕事をずっと続ける」「２　結婚するが子どもはもたず、仕事をずっと続ける」「３　結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける」「４　結婚して子どもができたら仕事をいったんやめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする」「５　結婚して子どもができたら仕事をやめる」「６　結婚したら仕事をやめる」「７　結婚するつもりはない」「８　結婚について、まだ考えていない」の８肢択一で回答を求めた。結果を図表1-42に示す。

図表1-42　結婚と仕事への価値観




学部生、博士前期課程生共に、「結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける」（それぞれ42.5％、57.1％）が最も多く、次いで「結婚して子どもができたら仕事をいったんやめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする」（それぞれ26.8％、22.4％）であった。

お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター（2010）のお茶大の卒業生を対象とした調査によれば、結婚と仕事への価値観として、「結婚して子どもをもつが、仕事も一生続ける」が最も多いことが示されている。このような結婚も仕事も子育てもという志向は、お茶大生のキャリア意識の特徴の一つといえるだろう。

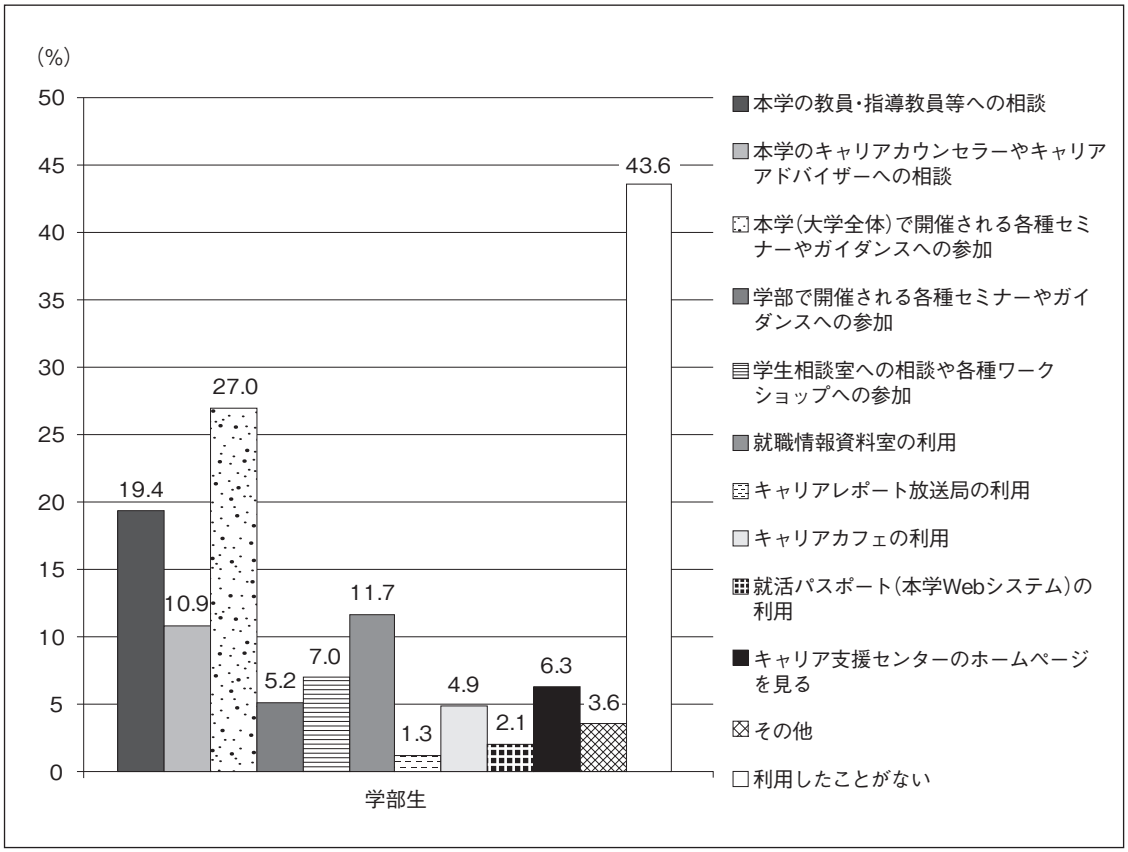
## ⑶本学のキャリア支援・教育の活用状況について

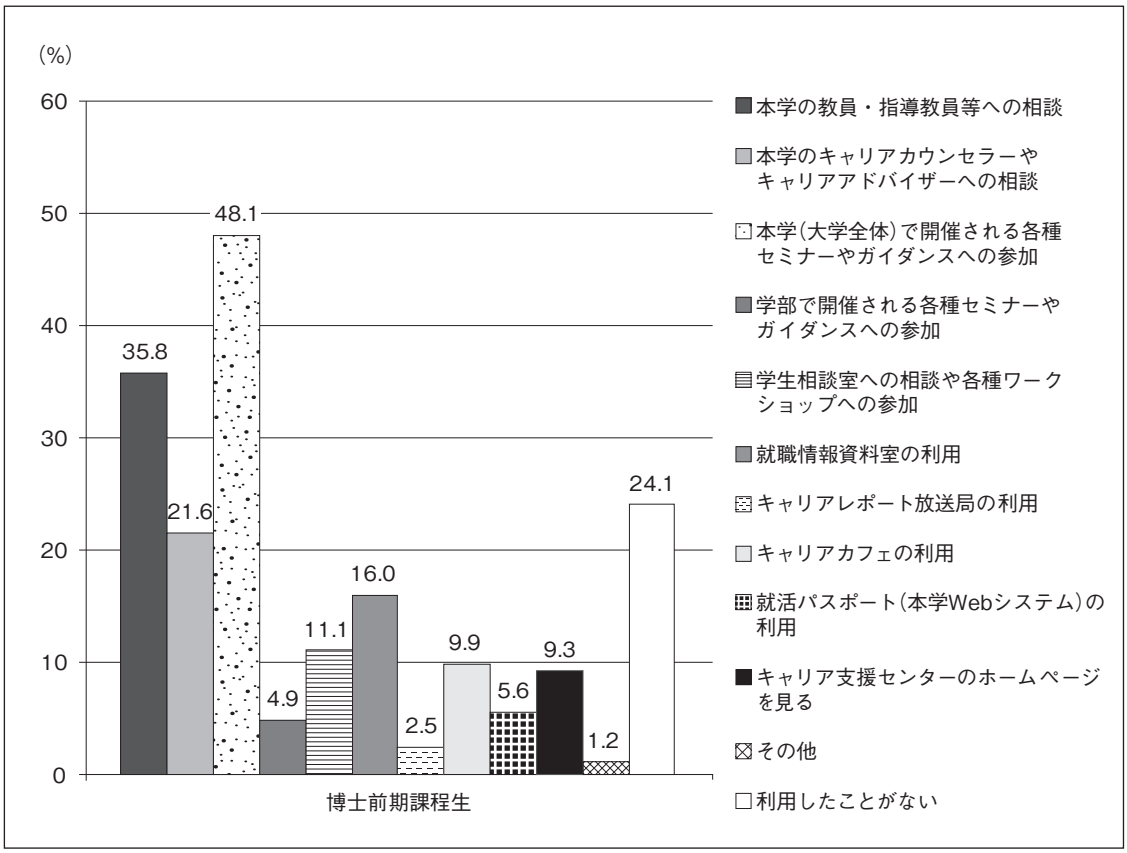
本節では、①本学のキャリア支援の利用状況、②本学のキャリア支援で役立ったもの、③本学のキャリア支援の充実度、④キャリア関連の授業の受講率、⑤受講授業の内訳、⑥キャリア関連の授業の役立ち度を示す。

### 1）本学のキャリア支援の利用状況

本学の就職・進学のためのキャリア支援の中で利用したことがあるものについて、「1 本学の教員・指導教員等への相談」「2 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」「3 本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「4 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「5 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加」「6 就職情報資料室の利用」「7 キャリアレポート放送局の利用」「8 キャリアカフェの利用」「9 就活パスポート（本学Webシステム）の利用」「10 キャリア支援センターのホームページを見る」「11 その他」「12 利用したことがない」の12肢の中から複数回答可として回答を求めた。結果を図表1-43に示す。

図表1-43　本学のキャリア支援の利用状況



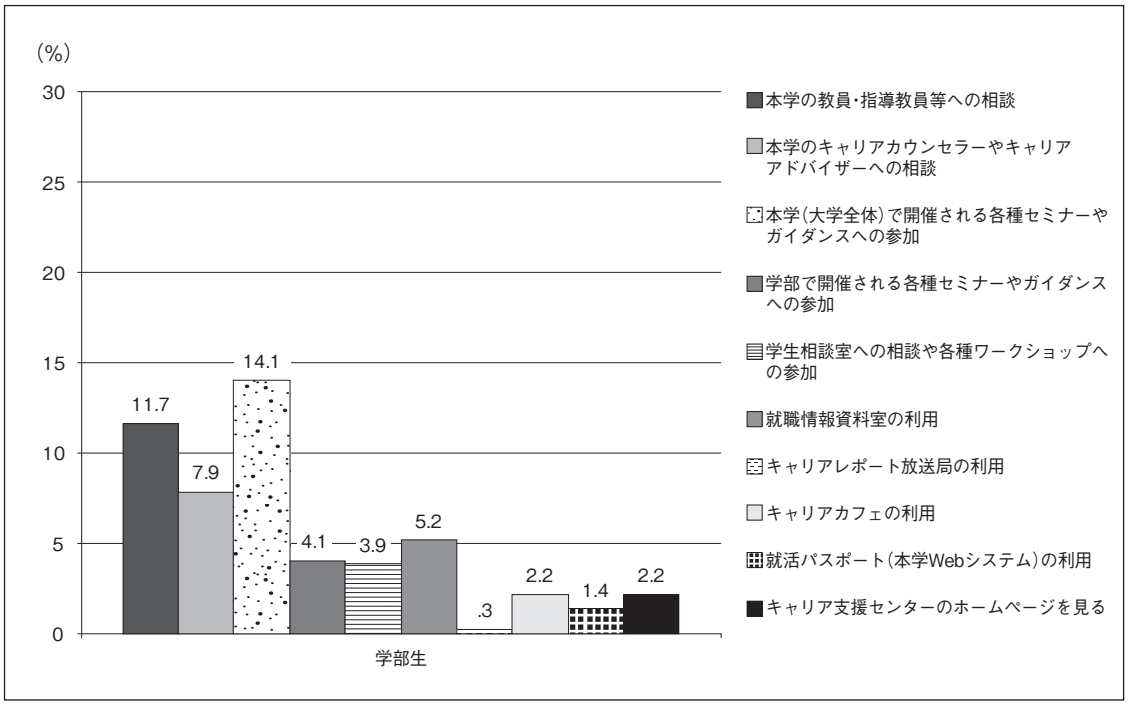


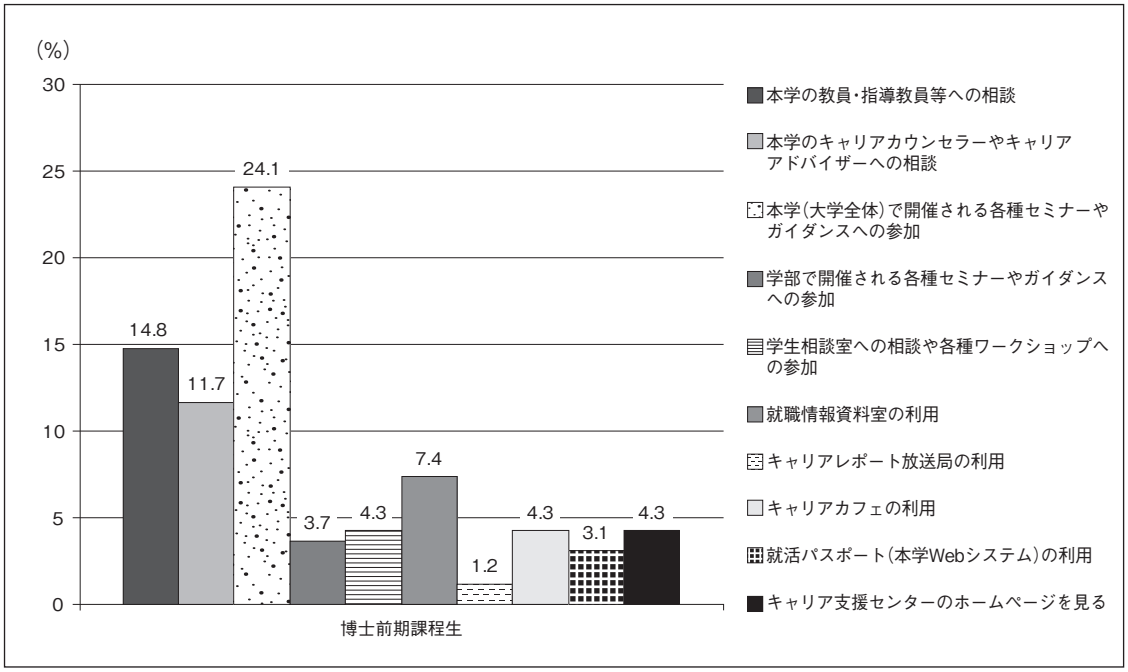

学部生では「利用したことがない」が最も多く（43.6％）、博士前期課程生では、「本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」が最も多かった（48.1％）。このことから、特に学部生は本学のキャリア支援の利用が半数程度に留まっており、学部生へのキャリア支援の利用の呼びかけをより一層行っていく必要があると考えられる。

### 2）本学のキャリア支援で役立ったもの

本学の就職・進学のためのキャリア支援の中で利用して役立ったものについて、「1 本学の教員･指導教員等への相談」「2 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」「3 本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「4 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「5 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加」「6 就職情報資料室の利用」「7 キャリアレポート放送局の利用」「8 キャリアカフェの利用」「9 就活パスポート（本学Webシステム）の利用」「10 キャリア支援センターのホームページを見る」の10肢の中から複数回答可として回答を求めた。結果を図表1-44に示す。

図表1-44　本学のキャリア支援で役立ったもの



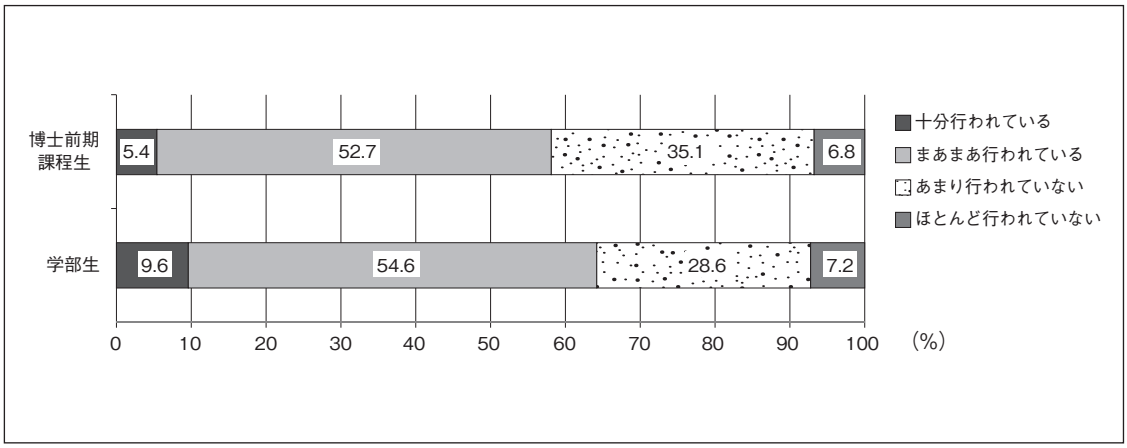




学部生、博士前期課程生共に、「本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」が、それぞれ14.1％、24.1％で最も多く、次いで、「本学の教員・指導教員等への相談」、「本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」の順に高いことが示された。この結果は、先述した本学のキャリア支援の利用状況に沿った結果であり、役立つキャリア支援は、利用率も高い傾向があるといえる。

### 3）本学のキャリア支援の充実度

本学の就職・進学のためのキャリア支援は、十分行われているかについて、「1　十分行われている」「2　まあまあ行われている」「3　あまり行われていない」「4　ほとんど行われていない」の４肢択一で回答を求めた。結果を図表1-45に示す。

図表1-45　本学のキャリア支援の充実度

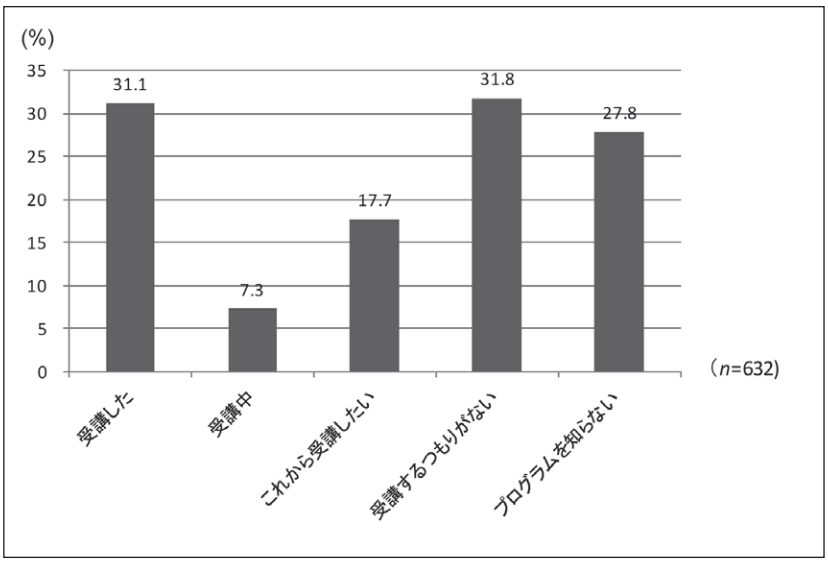



学部生、博士前期課程生共に、「まあまあ行われている」が、それぞれ54.6％、52.7％で最も多く、次いで、「あまり行われていない」が、それぞれ28.6％、35.1％であった。本学の在学生を対象とした「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」（2010）では、本学の学生支援活動で足りないものとして「就職支援」「進路相談」の高さが示されている。これらのことからも、本学のキャリア支援が十分とは言えず、今後力を入れることが求められているといえるだろう。

### 4）キャリア関連の授業の受講率

学部生を対象に、本学のキャリア関連の授業を受講したことがあるかについて、「1　受講した」「2　受講中」「3　これから受講したい」「4　受講するつもりがない」「5　プログラムを知らない」の中から複数回答可で回答を求めた。結果を図表1-46に示す。

図表1-46　キャリア関連の授業の受講率

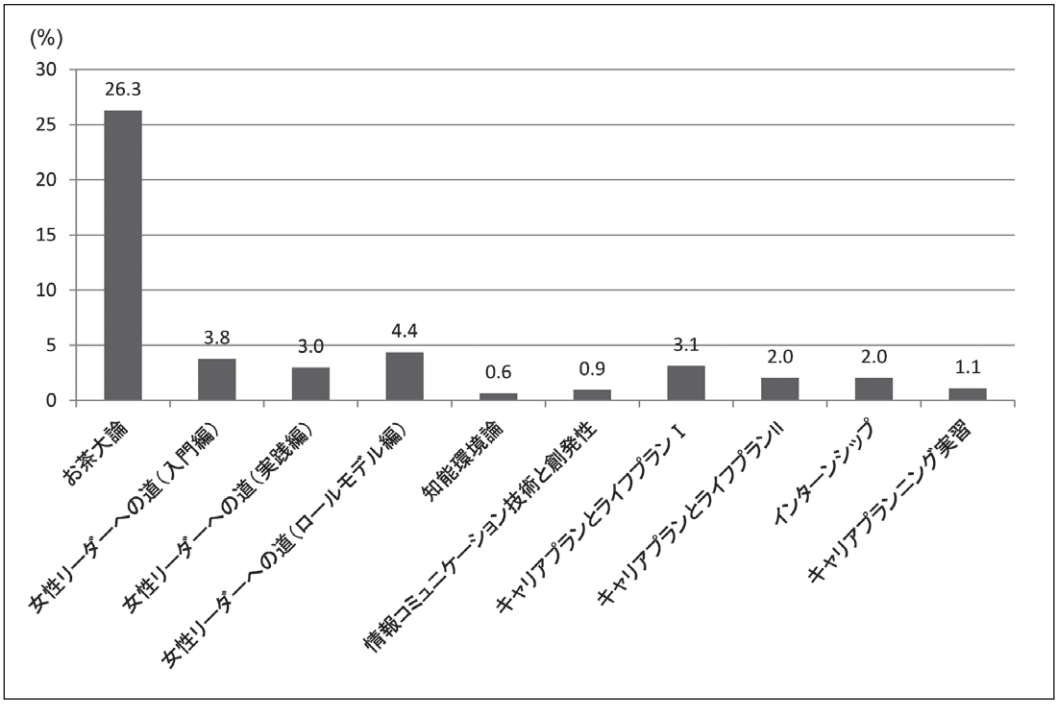



学部生のうち、「受講した」は31.1％、「受講中」は7.3％、「これから受講したい」は17.7％、「受講するつもりがない」は31.8％、「プログラムを知らない」は27.8％であった。複数回答ではあるものの、「受講した」と「受講中」を合わせると受講経験のある学部生は４割近くになることから、キャリア関連の授業の受講率は、それなりに高いといえる。一方、「受講するつもりがない」や「プログラムを知らない」と回答した学部生も、それぞれ３割程度いることから、キャリア関連の授業についての情報提供をさらに行っていくこと、その際に、授業の内容を示すだけでなく、授業が将来の就職活動や進学にどのように役立つかを併せて説明し、授業の意義を呼びかけることが今後の課題と考えられる。

### 5）受講授業の内訳

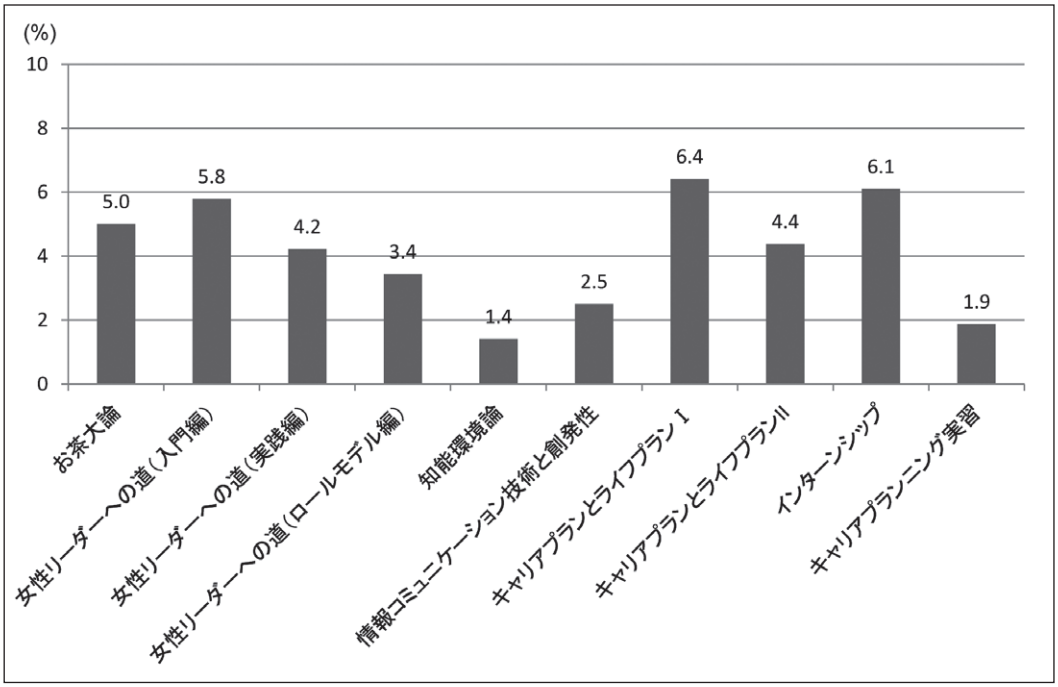
上記の授業のうち、「受講した・受講中」「受講したい」の内訳を図表1-47～48に示す。

図表1-47　受講した・受講中の授業




「受講した」「受講中」をあわせると、お茶の水女子大学論が26.3％でもっとも多かった。その他の授業の受講率は５％以下であった。

図表1-48　受講したい授業

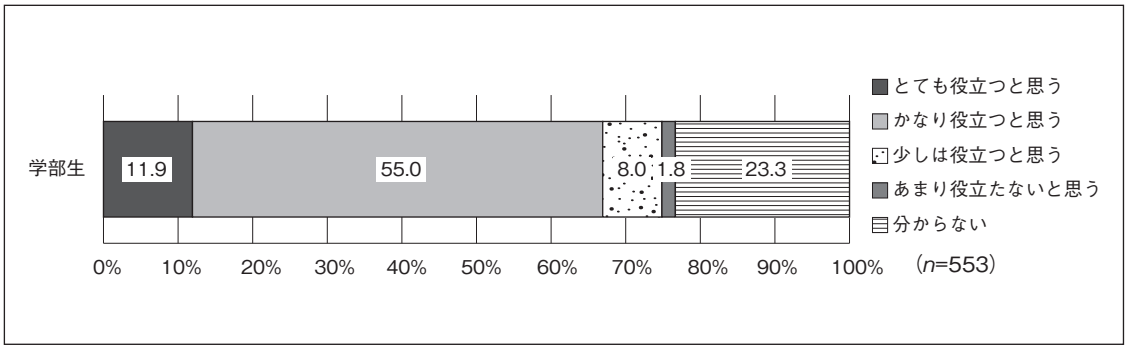



今後受講したい授業では、「キャリアプランとライフプランⅠ」6.4％、「インターンシップ」6.1％、女性リーダーへの道（入門編）5.8％であり、その他の授業は５％以下であった。

### ６）キャリア関連の授業の役立ち度

学部生を対象に、本学のキャリア関連の授業が役立つかについて、「１ とても役立つと思う」「２ かなり役立つと思う」「３ 少しは役立つと思う」「４ あまり役立たないと思う」「５ 分からない」の５肢択一で回答を求めた。結果を図表1-49に示す。

**図表1-49　キャリア関連の授業の役立ち度**




学部生のうち、「とても役立つと思う」は11.9％、「かなり役立つと思う」は55.0％、「少しは役立つと思う」は8.0％、「あまり役立たないと思う」は1.8％、「分からない」は23.3％であった。「とても役立つと思う」と「かなり役立つと思う」を合わせると66.9％であり、７割程度の学部生に役立つと感じられている様子が窺える。

一方、「分からない」という回答も23.3％となっており、授業の意義が分からない、授業の内容が将来のキャリア形成に結び付くのか分からないという学部生もいるものと考えられる。したがって、３）で先述したように、授業の意義を学生に分かりやすいかたちで示していくことで、授業を自分のキャリア形成に役立てていけるようにすることが必要と考えられる。

# 第１章　「キャリア意識調査」の結果報告

本章では、キャリア意識調査の集計結果を示し、本学の学生のキャリア行動、キャリア意識の特徴をとらえ、今後、より効率的な支援を行うための示唆を得ることを目的とする。

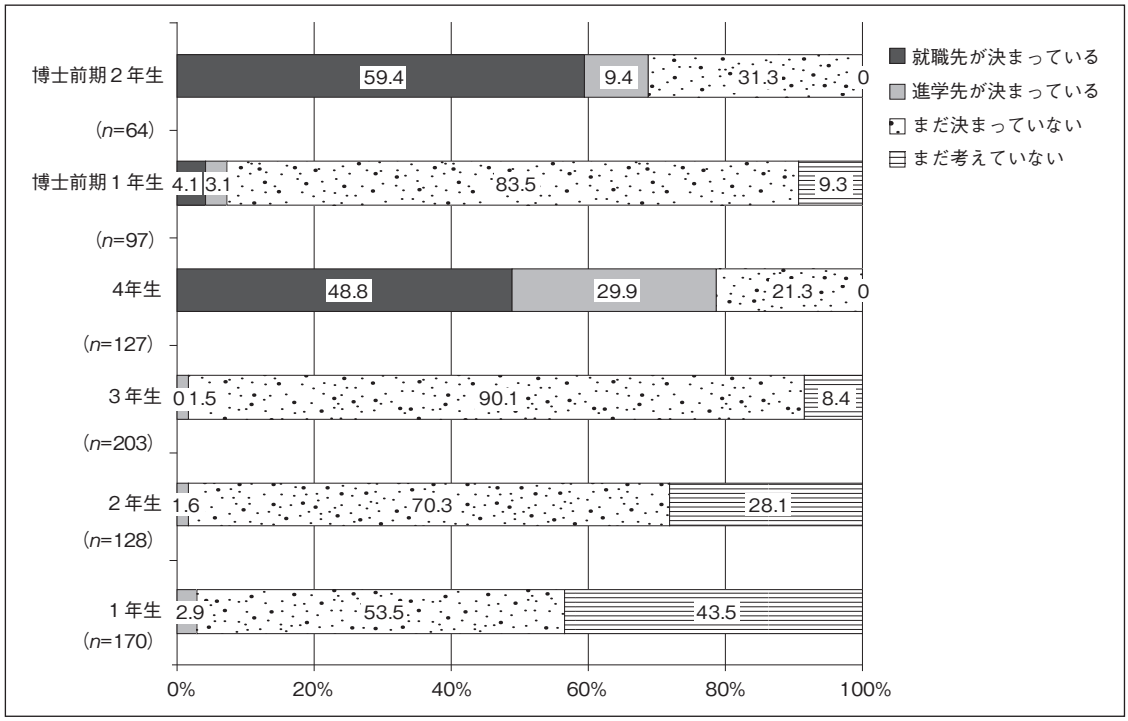
## ⑴キャリア行動について

本節では、①就職･進学先の決定状況、②進路を考え始めた時期、③進路に向けた準備･活動を始めた時期、④キャリアについて家族の誰に相談するかを示す。

### １）就職・進学先の決定状況

現在、就職・進学先が決まっているか（内定が出ているか）について、「１　就職先が決まっている」「２　進学先が決まっている」「３　まだ決まっていない」「４　まだ考えていない」の４肢択一で回答を求めた。結果を図表1-1に示す。

**図表1-1　就職・進学先の決定状況（学年別）**




調査実施時である10月～11月時点で、就職先が決まっているものは、学部４年生では48.8％、博士前期課程２年生では59.4％であり、その他の学年では、ほとんどなかった。また、進学先が決まっているものは、学部４年生では29.9％、博士前期課程２年生では9.4％であり、その他の学年では、ほとんどなかった。中小企業を中心に、今後採用を進める企業も多いため、内定率は年度末に向けて上昇する見込みだが、学部４年生の21.3％、博士前期課程２年生の31.3％がまだ決まっていないと回答しており、こうした学生への個別的支援も継続して行う必要があると考えられる。

次に、学部４年生と博士前期課程２年生のみを対象とし、学部、専攻別に結果を示す。

### ⑷本学のキャリア支援・教育に関する意見・希望について

最後に、「本学のキャリア教育に対する意見、希望があれば、ご意見をお聞かせください。」「本学の教育全般に関して、意見、希望があれば、ご意見をお聞かせください。」として、自由記述で回答を求めた。分析の結果、本学のキャリア教育の強化のポイントとして、以下の４点が挙げられた。

**①　学生への広報強化**

学内での説明会やガイダンスなどの広報活動を強化する必要性が挙げられた。さらに、就職活動の仕方や就職活動に必要な情報なども、より広く公表してもらいたいといった要望も挙げられた。

**②　進学希望者、大学院生、留学生への支援強化**

民間企業への就職支援にあわせて、博士前期課程や後期課程への進学の支援なども、より充実させてほしいといった要望が挙げられた。また、留学生を募集している企業等の情報を公表するなど、留学生への就職支援も、より充実させてほしいという要望も挙げられた。

**③　キャリアガイダンスの質・量に関する改善**

キャリアガイダンスで民間企業のガイダンスが多数行われているが、それにあわせて、公務員や教職、専門職などのガイダンスや説明会がもっとあるといいといった要望が挙げられた。

**④　OGとの関わりの強化**

OG懇談会やOG訪問など、OGとの関わりをもつ機会がより多く得られるよう、支援してほしいといった要望が挙げられた。

これらの結果をまとめると、本学のキャリア支援・教育の課題として、①学生への広報や情報提供を効果的に行うこと、②企業への就職支援にあわせて、進学希望者、大学院生、留学生への支援も強化していくこと、③キャリアガイダンスの内容や回数を見直し、改善すること、④学内外でOGと関わる機会をより多く設けていくことなどが課題として挙げられる。

# 第２章　経済・生活支援の利用とキャリア支援の利用との関連
## －　利用状況と有益性、評価の観点からみて　－

希望する全ての人々が高等教育を受けられるよう、教育費負担を軽減するため、奨学金制度や授業料減免制度の拡充が推し進められている。

本章では、本学の学生（本調査の回答者）の経済・生活支援の利用状況を概観したうえで、その利用状況と、本学で行っている就職・進学のためのキャリア支援の利用状況との関連について、キャリア支援を利用している者に対する有益性にも目を向けながら示すとともに、キャリア支援に対する評価との関連についても捉えていく。

その結果に基づき、経済・生活支援やキャリア支援を有効に、かつ、統合的に行うための示唆を得ることとしたい。

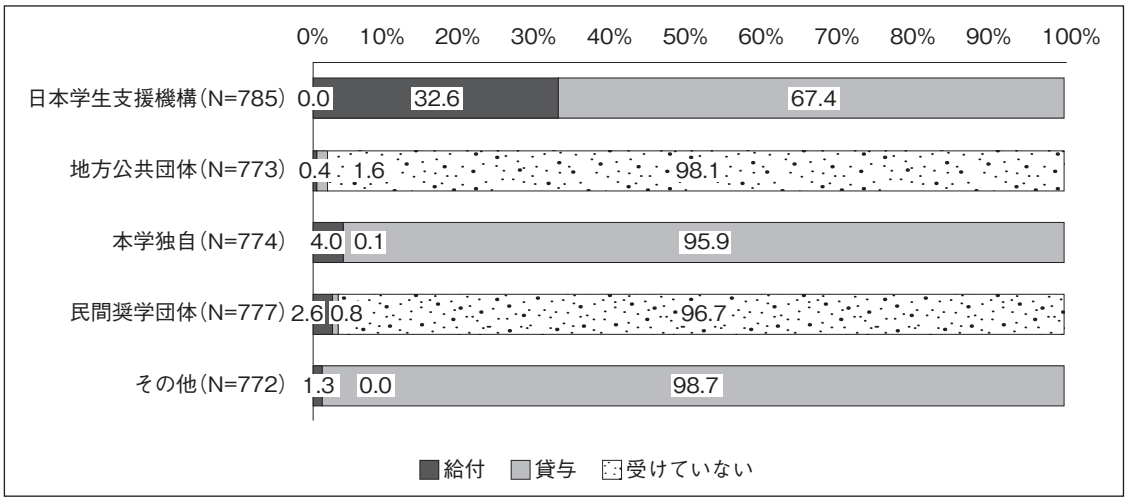
### ⑴経済・生活支援の利用状況

まず本節では、本学の学生の経済・生活支援の利用状況として、「奨学金制度」「授業料免除制度」「学生寮」の利用状況に着目して概観していく。

#### １）奨学金制度の利用状況

奨学金制度は、経済的支援として大きな役割を担っている。本学では、日本学生支援機構、地方公共団体や民間団体等からの奨学金のほかにも、大学独自の奨学金を多数用意している。これらの奨学金制度の利用状況について、「給付」「貸与」「受けていない」別に示したものが図表2-1である。

図表2-1　奨学金制度の利用状況



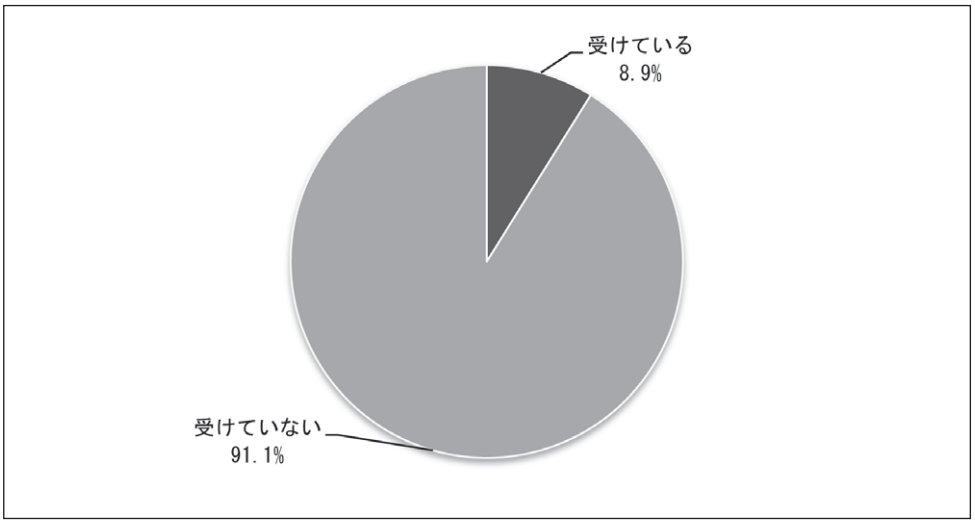

その結果、日本学生支援機構以外の奨学金制度を利用している者は、いずれも５％未満に留まっていることがわかる。この点をふまえ、次節以降の分析では、奨学金制度の利用状況として、日本学生支援機構の奨学金の利用状況に焦点をあてて進めることとする。

#### ２）授業料免除制度の利用状況

国立大学における授業料免除制度は、経済的な理由によって授業料の納付が困難、かつ、学業優秀と認められる者等にその納付を免除することにより、修学継続を容易にするもので、学生に対する奨学援護の一環として重要な役割を果たしている。

図表2-2は、授業料免除制度の利用状況について、「受けている」「受けていない」別に示したものである。その結果、本学では、授業料免除制度を利用している者は全体の8.9％であることがわかる。

図表2-2　授業料免除制度の利用状況

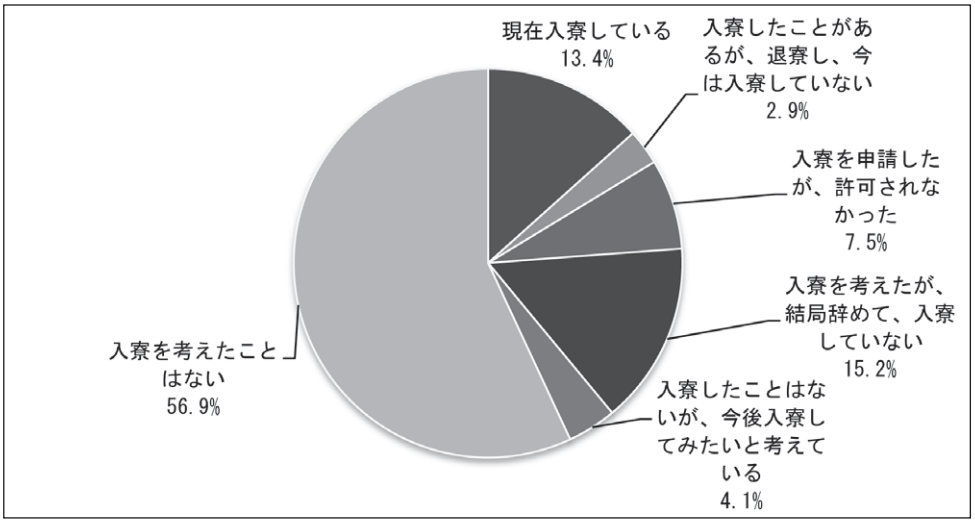



### ３）学生寮の利用状況

本学では、学部学生および留学生を対象とした「国際学生宿舎」、大学院生を対象とした「小石川寮」、学部１・２年生を対象とした「お茶大SCC（Students Community Commons）」の３つの学生寮を運営している。これらの寮は、入寮対象の学年が異なる以外にもそれぞれに特徴があり機能分化がなされているが、いずれも、住居を低価格で提供することにより、本学の経済・生活支援としての大きな役割を担っている。

図表2-3は、本学の３つの学生寮への入寮および申請、検討状況について、「現在入寮している」「入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」「入寮を申請したが、許可されなかった」「入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない」「入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている」「入寮を考えたことがない」別に示したものである。

図表2-3　学生寮の利用状況




その結果、入寮を考えたことはない者は56.9％であり、４割以上の者は、現在入寮していたり、入寮の申請や検討をしていた（している）ことがわかる。こうしたことから、本学における経済・生活支援の充実は多くの学生にとって意味のあるものであり、支援に関する情報をうまく伝えていくことも求められるだろう。

## ⑵奨学金制度の利用とキャリア支援の利用の関連

続いて本節では、日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況と本学のキャリア支援の利用状況との関連について、キャリア支援を利用している者に対する有益性にも目を向けながら示すとともに、キャリア支援に対する評価（本学のキャリア支援が十分に行われていると感じているのか）との関連についても捉えていく。

本学のキャリア支援としては、「本学の教員・指導教員等への相談」「本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」「本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加」「就職情報資料室の利用」「キャリアレポート放送局の利用」「キャリアカフェの利用」「就活パスポート（本学Webシステム）の利用」「キャリア支援センターのホームページを見る」を挙げ、その利用状況を複数回答可として尋ねた結果とともに、「利用したことがない」との回答結果についても着目していく。

### １）両支援の利用状況、キャリア支援の有益性との関連

図表2-4は、日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況と、本学のいずれのキャリア支援も「利用したことがない」との関連をクロス表で示したものである。

**図表2-4　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×**
**キャリア支援を「利用したことがない」**

| | 利用したことがない | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 貸与 | 161 | 95 | 256 |
| | 62.9% | 37.1% | 100.0% |
| 受けていない | 313 | 216 | 529 |
| | 59.2% | 40.8% | 100.0% |
| | 474 | 311 | 785 |
| | 60.4% | 39.6% | 100.0% |

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、本学のキャリア支援を利用したことがない者はおよそ４割に及んでおり、有意差もみられない結果となった。

では、本学のそれぞれのキャリア支援の利用状況と日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況には関連がみられるのであろうか。

両者の関連をクロス表で示したものが図表2-5から図表2-14である。両者の関連を示すとともに、それぞれのキャリア支援を利用している者への有益性（「役立った」との回答率）についても目を向けていく。

**図表2-5　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×**
**本学の教員・指導教員への相談**

| | 本学の教員・指導教員等への相談 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 貸与 | 201 | 55 | 256 |
| | 78.5% | 21.5% | 100.0% |
| 受けていない | 405 | 124 | 529 |
| | 76.6% | 23.4% | 100.0% |
| | 606 | 179 | 785 |
| | 77.2% | 22.8% | 100.0% |

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、本学の教員・指導教員等への相談をした者は２割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では38.2％、非利用者では60.5％と、両者で20％以上の違いが示されている。

**図表2-6　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×**
**本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談**

| | 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 貸与 | 219 | 37 | 256 |
| | 85.5% | 14.5% | 100.0% |
| 受けていない | 463 | 66 | 529 |
| | 87.5% | 12.5% | 100.0% |
| | 682 | 103 | 785 |
| | 86.9% | 13.1% | 100.0% |

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者は１割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では62.2％、利用者では68.5％と、両者ともに６割を超える結果となっている。

**図表2-7　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×**
**本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加**

| | 本学(大学全体)で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 貸与 | 168 | 88 | 256 |
| | 65.6% | 34.4% | 100.0% |
| 受けていない | 370 | 159 | 529 |
| | 69.9% | 30.1% | 100.0% |
| | 538 | 247 | 785 |
| | 68.5% | 31.5% | 100.0% |

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、本学の本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者は３割程度にすぎず､有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性さは、奨学金制度利用者では47.7％、非利用者では53.5％と、両者ともに５割程度の結果となっている。

**図表2-8　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×**
**学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加**

| | 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 貸与 | 245 | 11 | 256 |
| | 95.7% | 4.3% | 100.0% |
| 受けていない | 499 | 30 | 529 |
| | 94.3% | 5.7% | 100.0% |
| | 744 | 41 | 785 |
| | 94.8% | 5.2% | 100.0% |

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、学部で開催される各種セミナーやガイダンスへ

の参加をした者は５％程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では81.8％、非利用者では73.3％と、両者ともに非常に高い結果となっている。

**図表2-9　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×**
**学生相談室の相談や各種ワークショップへの参加**

| | 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 貸与 | 234 | 22 | 256 |
| | 91.4% | 8.6% | 100.0% |
| 受けていない | 491 | 38 | 529 |
| | 92.8% | 7.2% | 100.0% |
| | 725 | 60 | 785 |
| | 92.4% | 7.6% | 100.0% |

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加をした者は１割に満たず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では40.9％、非利用者では55.3％と、両者で15％ほどの違いが示されている。

**図表2-10　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×**
**就職情報資料室の利用**

| | 就職情報資料室の利用 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 貸与 | 223 | 33 | 256 |
| | 87.1% | 12.9% | 100.0% |
| 受けていない | 462 | 67 | 529 |
| | 87.3% | 12.7% | 100.0% |
| | 685 | 100 | 785 |
| | 87.3% | 12.7% | 100.0% |

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、就職情報資料室の利用をした者は１割程度に過ぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金利用者では36.4％、非利用者では47.8％と、両者で10％以上の違いが示されている。

**図表2-11　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×**
**キャリアレポート放送局の利用**

| | キャリアレポート放送局の利用 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 貸与 | 251 | 5 | 256 |
| | 98.0% | 2.0% | 100.0% |
| 受けていない | 523 | 6 | 529 |
| | 98.9% | 1.1% | 100.0% |
| | 774 | 11 | 785 |
| | 98.6% | 1.4% | 100.0% |

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、キャリアレポート放送局の利用をした者は１～２％に過ぎず、有意差もみられなかった。利用者は極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では20.0％、非利用者では33.3％であった。

図表2-12　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
キャリアカフェの利用

| | キャリアカフェの利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 貸与 | 239 | 17 | 256 |
| | 93.4% | 6.6% | 100.0% |
| 受けていない | 500 | 29 | 529 |
| | 94.5% | 5.5% | 100.0% |
| | 739 | 46 | 785 |
| | 94.1% | 5.9% | 100.0% |

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、キャリアカフェの利用をした者は５～６％に過ぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金利用者では41.2％、非利用者では44.8％と、両者ともに４割程度の結果となっている。

図表2-13　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
就活パスポート（本学Webシステム）の利用

| | 就活パスポート(本学Webシステム)の利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 貸与 | 246 | 10 | 256 |
| | 96.1% | 3.9% | 100.0% |
| 受けていない | 517 | 12 | 529 |
| | 97.7% | 2.3% | 100.0% |
| | 763 | 22 | 785 |
| | 97.2% | 2.8% | 100.0% |

奨学金の利用の有無にかかわらず、就活パスポート（本学Webシステム）の利用をした者は５％に満たず、有意差もみられなかった。利用者は少ないが、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では40.0％、非利用者では66.7％であった。

図表2-14　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 ×
キャリア支援センターのホームページを見る

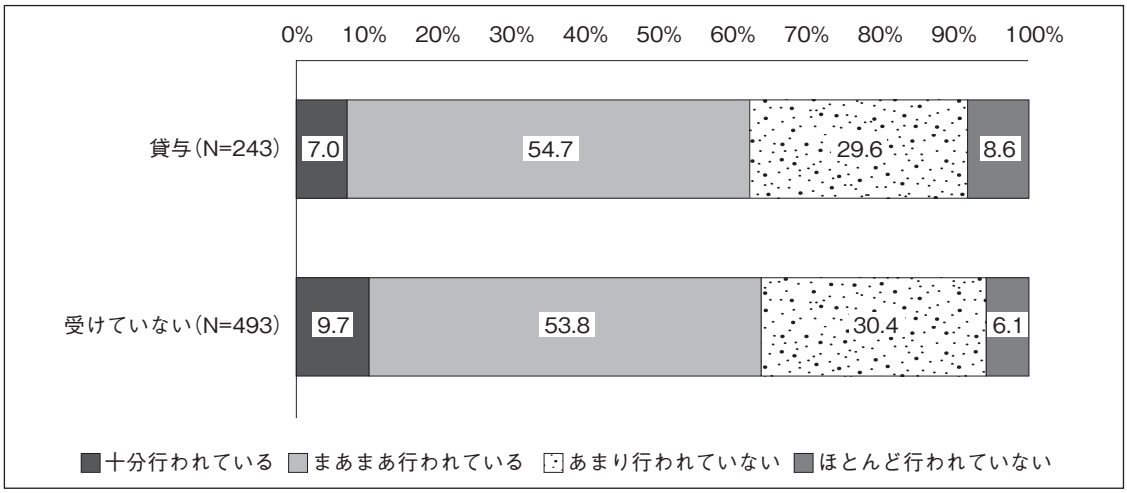
| | キャリア支援センターのホームページを見る | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 貸与 | 238 | 18 | 256 |
| | 93.0% | 7.0% | 100.0% |
| 受けていない | 494 | 35 | 529 |
| | 93.4% | 6.6% | 100.0% |
| | 732 | 53 | 785 |
| | 93.2% | 6.8% | 100.0% |

奨学金制度の利用の有無にかかわらず、キャリア支援センターのホームページを見る者は７％程度に過ぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、奨学金制度利用者では44.4％、非利用者では37.1％と、両者ともに４割程度の結果となっている。

### ２）奨学金制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

では、本学のキャリア支援全体に対する評価と、少なからずの学生が利用している日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況には関連がみられるのであろうか。両者の関連を示したものが図表2-15である。

図表2-15　奨学金制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連




その結果、本学のキャリア支援の評価率（「十分行われている」+「まあまあ行われている」）は、奨学金制度利用者では61.7％、非利用者では63.5％と、両者ともに６割以上であり、有意差も示されなかった。

ただし、先に言及したように、本学の教員・指導教員等への相談をした者、学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加をした者､就職情報資料室の利用をした者などは、それぞれのキャリア支援の有益性からみると、奨学金制度の利用状況による違いが示されており、いずれの場合でも、奨学金制度利用者が非利用者よりも有益であると感じていないことを看過してはいけないだろう。

## ⑶授業料免除制度の利用状況とキャリア支援の利用状況の関連

続いて本節では、授業料免除制度の利用状況と本学のキャリア支援の利用状況との関連について、前節同様に示していく。

### １）両支援の利用状況、キャリア支援の有益性との関連

図表2-16は、授業料免除制度の利用状況と、本学のいずれのキャリア支援も「利用したことがない」との関連をクロス表で示したものである。

**図表2-16　授業料免除制度の利用 ×**
**キャリア支援を「利用したことがない」**

| | 利用したことがない | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 受けている | 42 | 27 | 69 |
| | 60.9% | 39.1% | 100.0% |
| 受けていない | 426 | 279 | 705 |
| | 60.4% | 39.6% | 100.0% |
| | 468 | 306 | 774 |
| | 60.5% | 39.5% | 100.0% |

奨学金制度同様、授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、本学のキャリア支援を利用したことがない者はおよそ４割に及んでおり、有意差もみられない結果となった。

では、本学のそれぞれのキャリア支援の利用状況と授業料免除制度の利用状況にはいかなる関連がみられるのであろうか。

両者の利用状況の関連をクロス表で示したものが、図表2-17から図表2-26である。それぞれのキャリア支援を利用している者に対する有益性についても目を向けていく。

**図表2-17　授業料免除制度の利用 ×**
**本学の教員・指導教員への相談**

| | 本学の教員・指導教員等への相談 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 受けている | 55 | 14 | 69 |
| | 79.7% | 20.3% | 100.0% |
| 受けていない | 541 | 164 | 705 |
| | 76.7% | 23.3% | 100.0% |
| | 596 | 178 | 774 |
| | 77.0% | 23.0% | 100.0% |

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、本学の教員・指導教員等への相談をした者は２割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では42.9%、非利用者では54.9%と、両者で10%以上の違いが示されている。

**図表2-18　授業料免除制度の利用 ×**
**本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談**

| | 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 受けている | 58 | 11 | 69 |
| | 84.1% | 15.9% | 100.0% |
| 受けていない | 615 | 90 | 705 |
| | 87.2% | 12.8% | 100.0% |
| | 673 | 101 | 774 |
| | 87.0% | 13.0% | 100.0% |

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者は１割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では54.6％、非利用者では68.9％と、両者で10％以上の違いが示されている。

**図表2-19　授業料免除制度の利用 ×**
**本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加**

| | 本学(大学全体)で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 受けている | 51 | 18 | 69 |
| | 73.9% | 26.1% | 100.0% |
| 受けていない | 477 | 228 | 705 |
| | 67.7% | 32.3% | 100.0% |
| | 528 | 246 | 774 |
| | 68.2% | 31.8% | 100.0% |

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず､本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者は３割程度にすぎず、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では66.7％、非利用者では50.4％と、両者で15％以上の違いが示されている。

**図表2-20　授業料免除制度の利用 ×**
**学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加**

| | 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 受けている | 68 | 1 | 69 |
| | 98.6% | 1.4% | 100.0% |
| 受けていない | 665 | 40 | 705 |
| | 94.3% | 5.7% | 100.0% |
| | 733 | 41 | 774 |
| | 94.7% | 5.3% | 100.0% |

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者は極めて少なく、有意差もみられなかった。両支援利用者が極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では０％、非利用者では80.0％であった。

**図表2-21　授業料免除制度の利用 ×**
**学生相談室の相談や各種ワークショップへの参加**

| | 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 受けている | 62 | 7 | 69 |
| | 89.9% | 10.1% | 100.0% |
| 受けていない | 652 | 53 | 705 |
| | 92.5% | 7.5% | 100.0% |
| | 714 | 60 | 774 |
| | 92.2% | 7.8% | 100.0% |

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加をした者は１割程度であり、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では42.9％、非利用者では52.8％と、両者で10％程度の違いが示されている。

図表2-22　授業料免除制度の利用 × 就職情報資料室の利用

| | 就職情報資料室の利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 受けている | 56 | 13 | 69 |
| | 81.2% | 18.8% | 100.0% |
| 受けていない | 620 | 85 | 705 |
| | 87.9% | 12.1% | 100.0% |
| | 676 | 98 | 774 |
| | 87.3% | 12.7% | 100.0% |

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、就職情報資料室の利用をした者は１～２割程度であり、有意差もみられなかった。なお、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では23.1％、非利用者では48.2％と、両者で25％以上もの違いが示されている。

図表2-23　授業料免除制度の利用 × キャリアレポート放送局の利用

| | キャリアレポート放送局の利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 受けている | 68 | 1 | 69 |
| | 98.6% | 1.4% | 100.0% |
| 受けていない | 694 | 11 | 705 |
| | 98.4% | 1.6% | 100.0% |
| | 762 | 12 | 774 |
| | 98.4% | 1.6% | 100.0% |

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、キャリアレポート放送局の利用をした者は１～２％に過ぎず、有意差もみられなかった。利用者が極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では０％、非利用者では27.3％であった。

図表2-24　授業料免除制度の利用 × キャリアカフェの利用

| | キャリアカフェの利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 受けている | 64 | 5 | 69 |
| | 92.8% | 7.2% | 100.0% |
| 受けていない | 664 | 41 | 705 |
| | 94.2% | 5.8% | 100.0% |
| | 728 | 46 | 774 |
| | 94.1% | 5.9% | 100.0% |

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、キャリアカフェの利用をした者は１割に満たず、有意差もみられなかった。両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では20.0％、非利用者では46.3％と、両者で25％以上もの違いがみられた。

図表2-25　授業料免除制度の利用 × 就活パスポート（本学Webシステム）の利用

| | 就活パスポート（本学Webシステム）の利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 受けている | 66 | 3 | 69 |
| | 95.7% | 4.3% | 100.0% |
| 受けていない | 687 | 18 | 705 |
| | 97.4% | 2.6% | 100.0% |
| | 753 | 21 | 774 |
| | 97.3% | 2.7% | 100.0% |

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、就活パスポート（本学Webシステム）の利用をした者は５％に満たず、有意差もみられなかった。両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では100.0％、非利用者では55.6％であった。

**図表2-26　授業料免除制度の利用 ×**
**キャリア支援センターのホームページを見る**

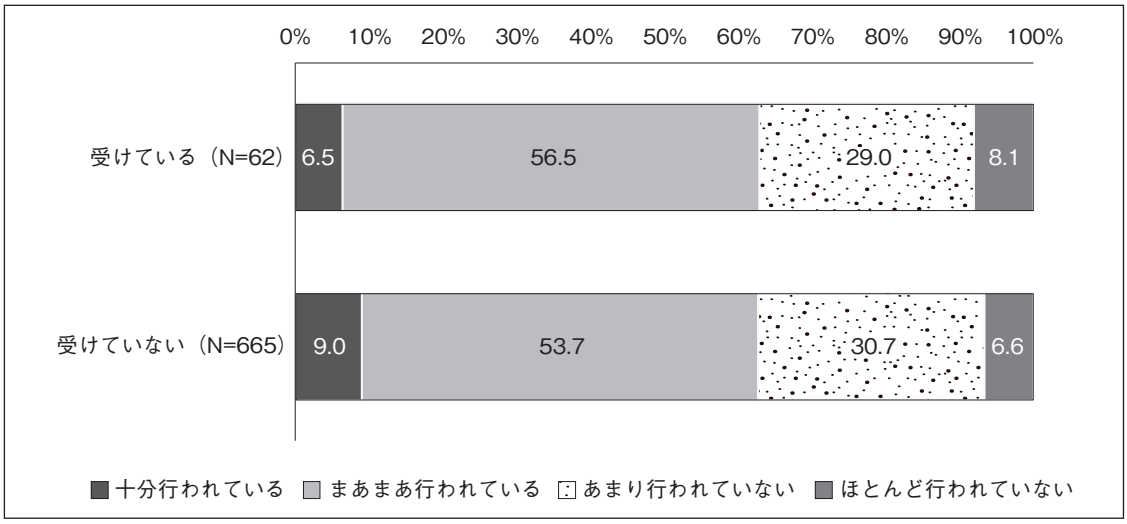
| | キャリア支援センターのホームページを見る | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 受けている | 64 | 5 | 69 |
| | 92.8% | 7.2% | 100.0% |
| 受けていない | 656 | 49 | 705 |
| | 93.0% | 7.0% | 100.0% |
| | 720 | 54 | 774 |
| | 93.0% | 7.0% | 100.0% |

授業料免除制度の利用の有無にかかわらず、キャリア支援センターのホームページを見る者は７％程度に過ぎず、有意差もみられなかった。両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、授業料免除制度利用者では80.0％、非利用者では34.7％と、大きな違いがみられた。

### ２）授業料免除制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

では、本学のキャリア支援全体に対する評価と授業料免除制度の利用状況には関連がみられるのであろうか。両者の関連を示したものが図表2-27である。

**図表2-27　授業料免除制度の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連**




その結果、本学のキャリア支援の評価率（「十分行われている」＋「まあまあ行われている」）は、授業料免除制度利用者では63.0％、非利用者では62.7％と、両者ともに６割以上であり、有意差も示されなかった。

ただし、先に言及したように、就職情報資料室の利用をした者、本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者、本学の教員・指導教員等への相談をした者､本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者などは、それぞれのキャリア支援の有益性からみると、授業料免除制度の利用状況による違いが示されている。奨学金制度の際とは異なり、必ずしも利用者が非利用者よりも有益であると感じていないわけではない点も考慮して、両支援のあり方を検討する必要があるだろう。

## ⑷学生寮の利用状況とキャリア支援の利用状況の関連

最後に本節では、本学の学生寮の利用状況と本学のキャリア支援の利用状況の関連について、これまで同様に示していく。

### 1）両支援の利用状況、キャリア支援の有益性との関連

図表2-28は、学生寮の利用状況と、本学のいずれのキャリア支援も「利用したことがない」との関連をクロス表で示したものである。

**図表2-28　学生寮の利用 × キャリア支援を「利用したことがない」**

| | 利用したことがない | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 現在入寮している | 58 | 47 | 105 |
| | 55.2% | 44.8% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 13 | 10 | 23 |
| | 56.5% | 43.5% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 40 | 19 | 59 |
| | 67.8% | 32.2% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 71 | 48 | 119 |
| | 59.7% | 40.3% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 19 | 13 | 32 |
| | 59.4% | 40.6% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 273 | 174 | 447 |
| | 61.1% | 38.9% | 100.0% |
| | 474 | 311 | 785 |
| | 60.4% | 39.6% | 100.0% |

学生寮の利用の有無にかかわらず、本学のキャリア支援を利用したことがない者はおよそ３～４割に及んでおり、有意差もみられない結果となった。

では、本学のそれぞれのキャリア支援の利用状況と学生寮の利用状況には関連がみられるのであろうか。

両者の関連をクロス表で示したものが図表2-29から図表2-38である。それぞれのキャリア支援を利用する者への有益性についても目を向けていく。

**図表2-29　学生寮の利用 × 本学の教員・指導教員への相談**

| | 本学の教員・指導教員等への相談 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 現在入寮している | 89 | 16 | 105 |
| | 84.8% | 15.2% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 18 | 5 | 23 |
| | 78.3% | 21.7% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 45 | 14 | 59 |
| | 76.3% | 23.7% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 90 | 29 | 119 |
| | 75.6% | 24.4% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 25 | 7 | 32 |
| | 78.1% | 21.9% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 340 | 107 | 447 |
| | 76.1% | 23.9% | 100.0% |
| | 607 | 178 | 785 |
| | 77.3% | 22.7% | 100.0% |

有意差はみられないが、「現在入寮している」者の利用は15％程度と他の者に比べて低いことがうかがえる。なお、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では81.3％と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では49.5％であった。

図表2-30　学生寮の利用 ×
本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談

| | 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 現在入寮している | 93 | 12 | 105 |
| | 88.6% | 11.4% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 14 | 9 | 23 |
| | 60.9% | 39.1% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 52 | 7 | 59 |
| | 88.1% | 11.9% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 101 | 18 | 119 |
| | 84.9% | 15.1% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 28 | 4 | 32 |
| | 87.5% | 12.5% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 393 | 54 | 447 |
| | 87.9% | 12.1% | 100.0% |
| | 681 | 104 | 785 |
| | 86.8% | 13.2% | 100.0% |

学生寮の利用状況により、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者には有意差が示された（$p<.05$）。「入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」者の利用がおよそ４割であるのに対し、その他の者は１～２割にすぎないことがみてとれる。その一因としては、キャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談が他に比べて多く示された「入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」者は、上級生（１年生でこうしたケースは少ないため）であることが考えられる。上級生ほど、特に大学卒業後に就職することを予定している学生ほど、キャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーに相談をする可能性が高いことは容易に想像できるものである。

なお、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では75.0％と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では55.6％であった。

図表2-31　学生寮の利用 × 本学（大学全体）で開催される
各種セミナーやガイダンスへの参加

| | 本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 現在入寮している | 75 | 30 | 105 |
| | 71.4% | 28.6% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 13 | 10 | 23 |
| | 56.5% | 43.5% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 36 | 23 | 59 |
| | 61.0% | 39.0% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 81 | 38 | 119 |
| | 68.1% | 31.9% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 25 | 7 | 32 |
| | 78.1% | 21.9% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 307 | 140 | 447 |
| | 68.7% | 31.3% | 100.0% |
| | 537 | 248 | 785 |
| | 68.4% | 31.6% | 100.0% |

有意差はみられないが、「入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている」者や「現在入寮している」者の利用は２割台と他の者と比べると低く、これに対して、「入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」者の利用は４割をこえる高さである。

なお、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では83.3％と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では44.3％であった。

**図表2-32　学生寮の利用 ×**
**学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加**

| | 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 現在入寮している | 103 | 2 | 105 |
| | 98.1% | 1.9% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 23 | 0 | 23 |
| | 100.0% | .0% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 52 | 7 | 59 |
| | 88.1% | 11.9% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 114 | 5 | 119 |
| | 95.8% | 4.2% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 30 | 2 | 32 |
| | 93.8% | 6.3% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 423 | 24 | 447 |
| | 94.6% | 5.4% | 100.0% |
| | 745 | 40 | 785 |
| | 94.9% | 5.1% | 100.0% |

学生寮の利用状況にかかわらず、学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者は少なく、有意差はみられなかった。

両支援利用者が極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では50.0％と低い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では79.2％であった。

**図表2-33　学生寮の利用 × 学生相談室の相談や各種ワークショップへの参加**

| | 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加 | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 現在入寮している | 99 | 6 | 105 |
| | 94.3% | 5.7% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 21 | 2 | 23 |
| | 91.3% | 8.7% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 54 | 5 | 59 |
| | 91.5% | 8.5% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 106 | 13 | 119 |
| | 89.1% | 10.9% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 30 | 2 | 32 |
| | 93.8% | 6.3% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 413 | 34 | 447 |
| | 92.4% | 7.6% | 100.0% |
| | 723 | 62 | 785 |
| | 92.1% | 7.9% | 100.0% |

学生寮の利用状況にかかわらず、学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加をした者は１割程度であり、有意差もみられなかった。

両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では100.0％と極めて高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では50.0％であった。

図表2-34　学生寮の利用 × 就職情報資料室の利用

| | 就職情報資料室の利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 現在入寮している | 90 | 15 | 105 |
| | 85.7% | 14.3% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 18 | 5 | 23 |
| | 78.3% | 21.7% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 51 | 8 | 59 |
| | 86.4% | 13.6% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 99 | 20 | 119 |
| | 83.2% | 16.8% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 29 | 3 | 32 |
| | 90.6% | 9.4% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 398 | 49 | 447 |
| | 89.0% | 11.0% | 100.0% |
| | 685 | 100 | 785 |
| | 87.3% | 12.7% | 100.0% |

学生寮の利用状況にかかわらず、就職情報資料室の利用をした者は１～２割程度であり、有意差もみられなかった。

なお、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では66.7％と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では44.9％であった。

図表2-35 学生寮の利用 × キャリアレポート放送局の利用

| | キャリアレポート放送局の利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 現在入寮している | 103 | 2 | 105 |
| | 98.1% | 1.9% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 23 | 0 | 23 |
| | 100.0% | .0% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 59 | 0 | 59 |
| | 100.0% | .0% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 118 | 1 | 119 |
| | 99.2% | .8% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 29 | 3 | 32 |
| | 90.6% | 9.4% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 441 | 6 | 447 |
| | 98.7% | 1.3% | 100.0% |
| | 773 | 12 | 785 |
| | 98.5% | 1.5% | 100.0% |

キャリアレポート放送局の利用をした者は全体の1.5％と極めて少ないため、あくまで参考値であるが、学生寮の利用状況による有意差が示された（$p<.05$）。「入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている」者の利用がおよそ１割と他に比べて明らかに高いことがみてとれる。

両支援利用者が極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者、「入寮を考えたことはない」者ともに50.0％であった。

図表2-36　学生寮の利用 × キャリアカフェの利用

| | キャリアカフェの利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 現在入寮している | 100 | 5 | 105 |
| | 95.2% | 4.8% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 22 | 1 | 23 |
| | 95.7% | 4.3% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 57 | 2 | 59 |
| | 96.6% | 3.4% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 110 | 9 | 119 |
| | 92.4% | 7.6% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 29 | 3 | 32 |
| | 90.6% | 9.4% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 421 | 26 | 447 |
| | 94.2% | 5.8% | 100.0% |
| | 739 | 46 | 785 |
| | 94.1% | 5.9% | 100.0% |

学生寮の利用状況にかかわらず、キャリアカフェの利用をした者は１割に満たず、有意差もみられなかった。

両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では80.0％と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では34.6％であった。

図表2-37　学生寮の利用 × 就活パスポート（本学Webシステム）の利用

| | 就活パスポート(本学Webシステム)の利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | |
| 現在入寮している | 101 | 4 | 105 |
| | 96.2% | 3.8% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 22 | 1 | 23 |
| | 95.7% | 4.3% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 58 | 1 | 59 |
| | 98.3% | 1.7% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 116 | 3 | 119 |
| | 97.5% | 2.5% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 30 | 2 | 32 |
| | 93.8% | 6.3% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 436 | 11 | 447 |
| | 97.5% | 2.5% | 100.0% |
| | 763 | 22 | 785 |
| | 97.2% | 2.8% | 100.0% |

学生寮の利用状況にかかわらず、就活パスポート（本学Webシステム）の利用をした者は５％に満たず、有意差もみられなかった。

両支援利用者が極めて少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では100.0％と極めて高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では27.3％であった。

図表2-38　学生寮の利用 × キャリア支援センターのホームページを見る

| | キャリア支援センターのホームページを見る | | |
|---|---|---|---|
| | いいえ | はい | 合計 |
| 現在入寮している | 95 | 10 | 105 |
| | 90.5% | 9.5% | 100.0% |
| 入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない | 20 | 3 | 23 |
| | 87.0% | 13.0% | 100.0% |
| 入寮を申請したが、許可されなかった | 56 | 3 | 59 |
| | 94.9% | 5.1% | 100.0% |
| 入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない | 106 | 13 | 119 |
| | 89.1% | 10.9% | 100.0% |
| 入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている | 31 | 1 | 32 |
| | 96.9% | 3.1% | 100.0% |
| 入寮を考えたことはない | 424 | 23 | 447 |
| | 94.9% | 5.1% | 100.0% |
| | 732 | 53 | 785 |
| | 93.2% | 6.8% | 100.0% |

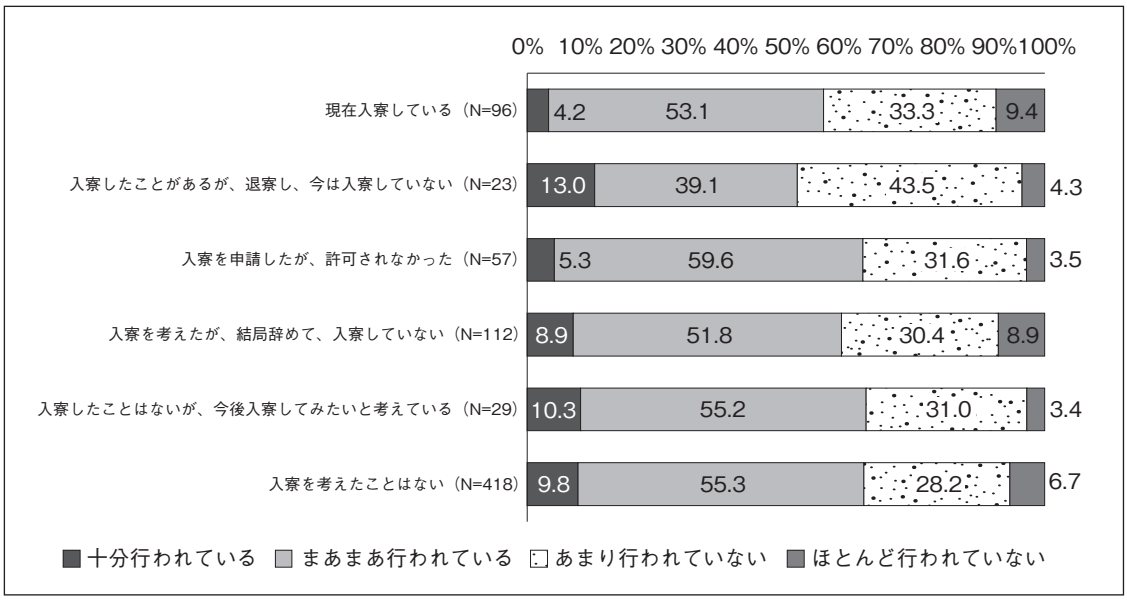
有意差はみられないが、「入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている」者や「入寮を考えたことはない」者、「入寮を申請したが、許可されなかった」者の利用は５％程度と他の者と比べると低く、これに対して、「入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」者の利用は13％と他に比べて高い。

両支援利用者が少ないため、あくまで参考値であるが、利用者に対する有益性は、「現在入寮している」者では60.0％と高い結果が示されたのに対し、「入寮を考えたことはない」者では39.1％であった。

## ２）学生寮の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連

では、本学のキャリア支援全体に対する評価と学生寮の利用状況には関連がみられるのであろうか。両者の関連を示したものが図表2-39である。

図表2-39　学生寮の利用状況とキャリア支援に対する評価の関連




本学のキャリア支援の評価率（「十分行われている」+「まあまあ行われている」）は、学生寮の利用状況にかかわらず、いずれも５～６割であり、有意差も示されなかった。

ただし、先に言及したように、本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加をした者、本学の教員・指導教員等への相談をした者、本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談をした者、就職情報資料室の利用をした者などは、それぞれのキャリア支援の有益性からみると、現在入寮しているか、入寮を考えたことは

ないかによる違いが示されており、いずれの場合でも、現在入寮している者が入寮を考えたことがない者よりも有益であると感じている点は、今後の支援のあり方を検討する上で特筆すべき点である。

## ⑸おわりに

本章では、本学の学生の経済･生活支援の利用状況を概観したうえで、その利用状況と、本学で行っている就職・進学のためのキャリア支援の利用状況との関連について、キャリア支援を利用している者に対する有益性にも目を向けながら示すとともに、キャリア支援に対する評価との関連についても示してきた。

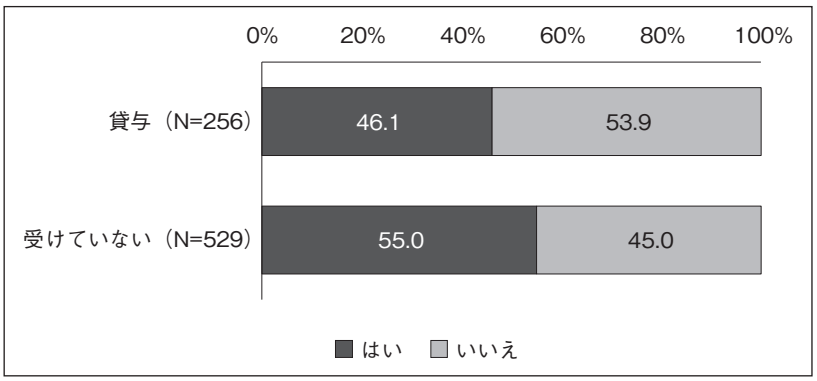
その結果、経済・生活支援の利用状況とキャリア支援の利用状況や評価には有意な関連は見出せないものの、個々のキャリア支援の有益性に関しては、経済・生活支援の利用状況との関連が有意に示されたものもみられた。

本章で取り上げたキャリア支援の利用状況は、学生の学年や卒業後の進路希望などの影響を強く受けることは言うまでもなく、その知見は慎重に解釈する必要があるだろう。その点に留意し、分析をさらに深めながら、経済･生活支援やキャリア支援を有効に、かつ、統合的に行うための具体的な方策を検討し、実践にあたりたいと考えている。

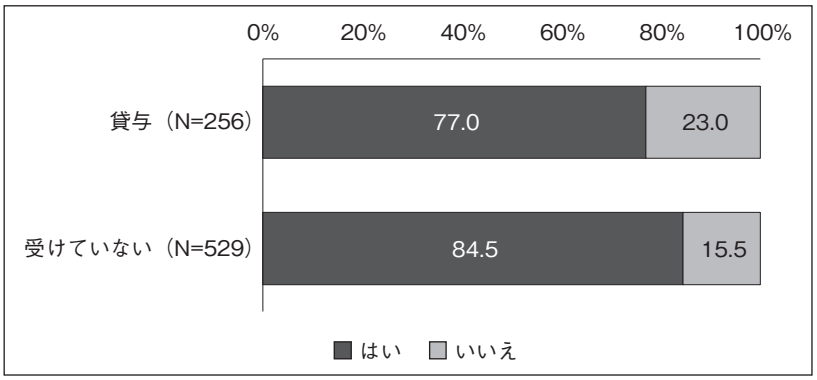
さらにいえば、本章の直接的な問題関心からは若干外れるが、経済的支援の利用者は非利用者に比べて、キャリアに関する相談を両親にしていない傾向も明らかになっている。

図表2-40および図表2-41は、日本学生支援機構の奨学金制度の利用状況と「キャリアについての相談相手（父親・母親）」の関連をそれぞれ示したものである。

**図表2-40　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 × 父親へのキャリアについての相談**



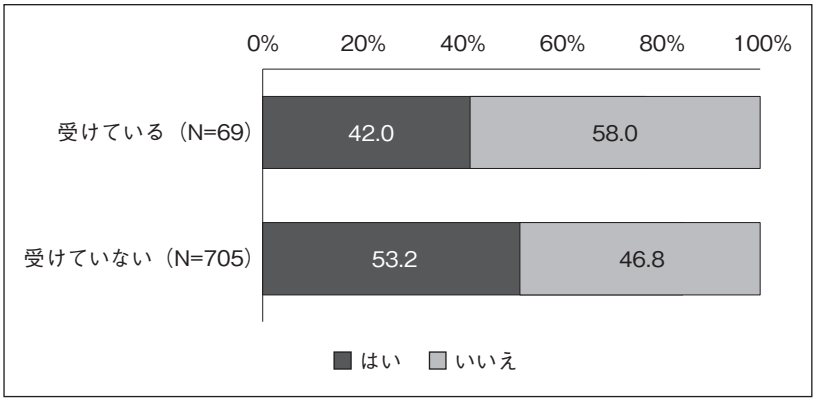

**図表2-41　日本学生支援機構の奨学金制度の利用 × 母親へのキャリアについての相談**



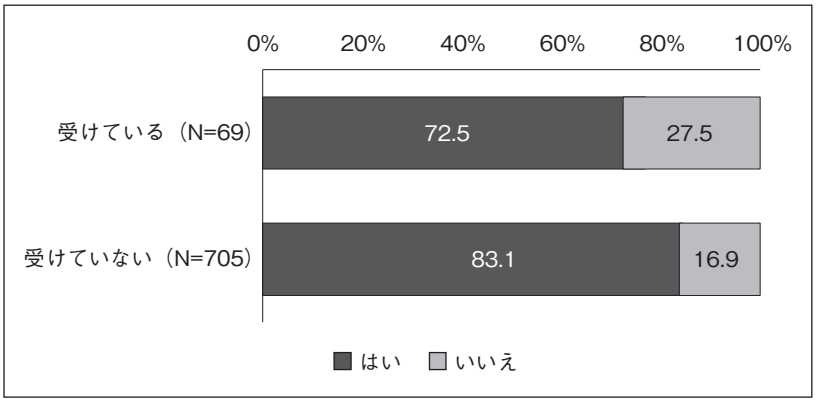
その結果、奨学金制度の利用者は非利用者よりもキャリアについての相談を父親や母親にしていない傾向が有意に示された（父親$p<.05$、母親$p<.01$）。

同様に、図表2-42および図表2-43は、授業料免除制度の利用状況との関連を示したものである。

**図表2-42　授業料免除制度の利用 × 父親へのキャリアについての相談**




**図表2-43　授業料免除制度の利用 × 母親へのキャリアについての相談**




その結果、奨学金制度同様、授業料免除制度の利用者は非利用者よりもキャリアについての相談を父親や母親にしていない傾向が有意に示された（父親$p<.10$、母親$p<.05$）。

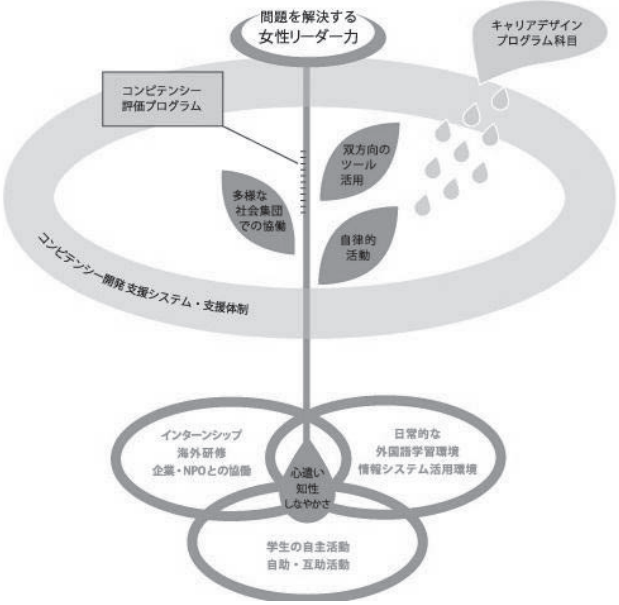
奨学金制度や授業料免除制度といった経済的支援を利用している者が、大学でも家庭でも、自身のキャリアについて相談できずに一人で抱え込むことがないよう、彼女たちに対する意図的な支援を検討する必要もあるだろう。

# 第３章　キャリア関連科目受講状況と キャリア形成・キャリア支援との関連

本章では、本学の学生（本調査の回答者）のキャリアデザインプログラム基幹科目群の受講状況を学年、学部、学科の別に分析、キャリア関連授業が本学においてどのような形で浸透しているかについて捉える。また、受講状況と学生のキャリア形成の関連について分析することで、今後の授業運営を効果的に行うための示唆を得ることを目的とする。

## ⑴キャリア関連科目とは

本学は平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に選定され、「女性リーダーのためのコンピテンシー開発」という名のもと、女性の地位の向上をはじめとする社会的課題の解決に貢献する高度な就業力を育成するための取り組みを行っている。コンピテンシーとは多元的な学士力養成のなかで習得される諸能力を必要に応じて組み合わせることによって問題を解決する力であり、本学ではその諸能力を＜心遣い・知性・しなやかさ＞という思考・行動特性を核にして捉え、そこから芽生える「双方向のツール活用」「自律的活動」「多様な社会集団での協働」という３分野のコンピテンシーを状況に応じて組み合わせながら問題に取り組む力であるとしている。




本事業は、「キャリアデザインプログラム」と呼ばれ、授業を通したコンピテンシー育成と、評価プログラム（ポートフォリオシステム）を使用した学生の学修を通してのコンピテンシー育成の２つに主軸を置いた取り組みが展開されている。

| 科目名 |
|---|
| お茶の水女子大学論 |
| 女性リーダーへの道(入門編) |
| 女性リーダーへの道(ロールモデル入門編) |
| 女性リーダーへの道(実践入門編) |
| 情報コミュニケーション技術と創発性 |
| キャリアプランニングⅠ(キャリアプランとライフプランⅠ) |
| キャリアプランニングⅡ(キャリアプランとライフプランⅡ) |
| ことばと世界12　知能環境論 |
| キャリアプランニング実習 |
| インターンシップ |

＜授業を根幹とするコンピテンシー育成＞

授業を通してのコンピテンシー育成は、キャリアデザインプログラム「基幹科目群」（新規開講）と「関連科目群」（全学の既存科目からコンピテンシーを養成する科目を選んだもの：2012年度より構成されることを予定）を中心に行われる。本年度、基幹科目については左図の10科目が開講されている。これらの授業は女性のキャリアプランやライフプランを考える、あるいは企業からゲストを招き実際的な課題制作を行うといった構成の授業を展開しており、また、インターンシップなども含まれており、学生が大学生活の多様な側面においてキャリアについて幅広い見地から捉え考えることが出来るよう工夫されている。学生は、これらの「基幹科目群」から８単位、「関連科目群」から12単位の合計20単位を履修し、また、評価プログラムに参加することによってプログラムを修了することができる。また、これら一連の科目群の本年度の履修者は496人（延べ人数：2011年１月現在）であり、在籍学生2,019人中（2011年５月１日調べ）約1/4を占めている。履修者は１年生が232人と最も多く、続いて２年生が121人、３年生が78人、４年生が64人となっている（2011年度キャリア支援

センター調べ)。

＜評価プログラムを通したコンピテンシー育成＞

評価プログラムとは、学生がウェブ上で自らのキャリア関連授業の履修プロセスを見ることができるだけでなく、学生自身が客観的基準でその力を測り自律的に向上するための仕組みである。学生が自分の現在の状態を分析、記録していくことで大学生活４年間での自己の変化についてより分かりやすく理解し、次に必要なステップを自らが決めていくことを目的としており、2012年度に運用を開始する予定である。

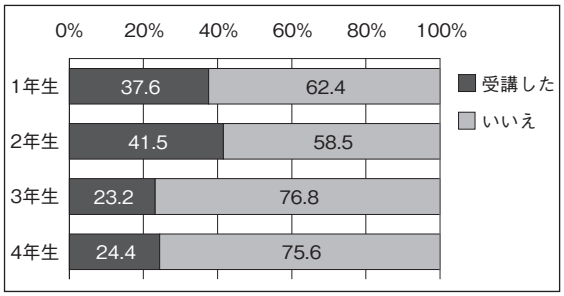
## ⑵キャリア関連科目の受講状況

では、以上のような目的に基づいて作られたキャリアデザインプログラム基幹科目が現在本学においてどのように受容されているのか。本章ではこれら科目の受講状況、受講率、受講授業の内訳について学年、学部の別に着目して概観していく。

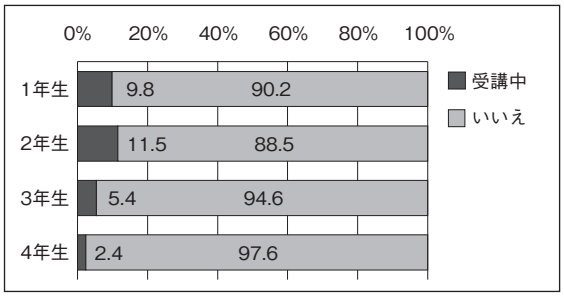
### 1）キャリアデザインプログラム基幹科目の学年別受講状況

まず、キャリアデザインプログラム基幹科目群（新規開講科目を含む）の受講者の属性について分類する。図表3-1、3-2は、これらの授業について「受講した」あるいは「受講中」であるという回答を学年別に表示したものである。

図表3-1　学年別基幹科目受講状況「受講した」



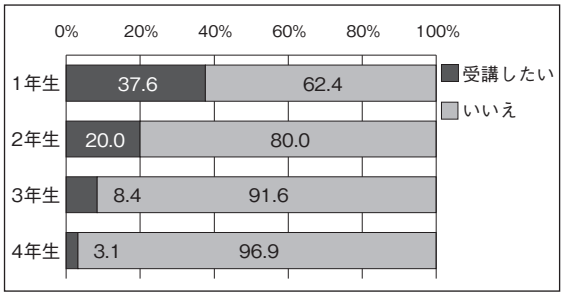

図表3-2　学年別基幹科目受講状況「受講中」



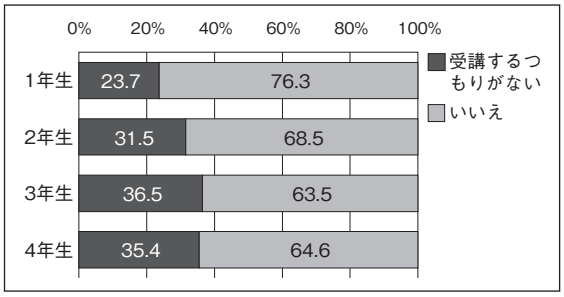

これまでに何らかのキャリア関連授業を「受講した」と回答したのは、２年生が最も多く（41.5％）、次いで１年生37.6％、４年生24.4％という結果となっている。最も少ないのは３年生であるが、それでも23.2％が「受講した」と回答している。現在「受講中である」と答えた学生は各学年ともに少ないが、「受講した」と同じく、受講中であると最も多く回答しているのは２年生である。

続いて、今後の受講希望者と受講するつもりがないと回答した学生について、学年別に分類した結果を図表3-3と図表3-4で示す。

図表3-3　学年別基幹科目受講状況
「これから受講したい」

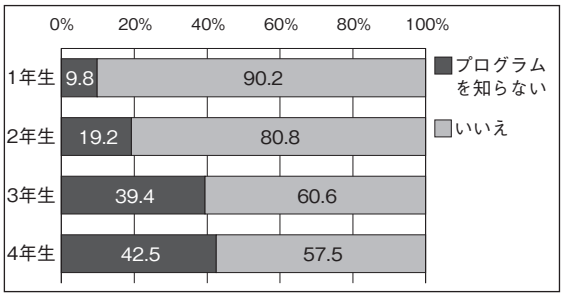



図表3-4　学年別基幹科目受講状況
「受講するつもりが無い」




今後の受講希望については、１年生が最も多く37.6％、２年生が20.0％という結果となった。２年生は、学部生中受講経験、また現在受講中の学生が最も多かったが、「これから受講したい」という意見が「受講した」に比べ少ない結果となっている。また、受講意志がないと答えた回答者について、学年別に分類したものを図表3-5で示す。第１章第３節４）キャリア関連の授業の受講率（図表1-46）によると、31.8％がキャリア関連の授業を「受講するつもりがない」と答えているが、それはどのような内訳になっているのだろうか。結果は、１年生が最も少なく23.7％、２年生31.5％、３年生が最も高く36.5％、４年生では35.4％であった。

図表3-5　学年別基幹科目受講状況「プログラムを知らない」



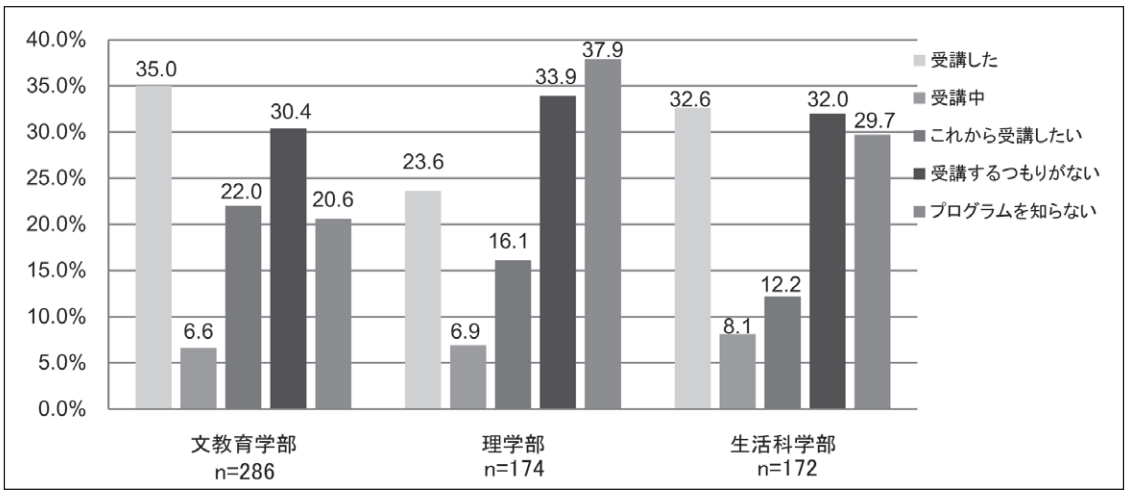

上記の図表3-5は、今回の調査において「プログラムを知らない」と答えた27.8%（$n$＝633）を学年別に分類したものである。学年が上がるごとに認知度が下がるという結果となっており、３年生・４年生ではほぼ４割がプログラムを知らないと回答している。

キャリアデザインプログラム基幹科目は､「お茶の水女子大学論」や「インターンシップ」のように以前から開講されていた科目も含まれているものの、実際の運用については本年度（2011年度）から開始されており、新規科目も本年度開講のものが多い。そのため、３年生、４年生の認知度が低かったのだろうということが考えられる。対して１年生で「プログラムを知らない」は学年全体の１割以下である。これは、2011年４月の入学時のオリエンテーションにおいて、プログラムの説明があったためでなないかということが考えられる。入学後の出来るだけ早い時期にプログラムの周知を進めることが今後の認知度の向上につながると考えることができるのではないだろうか。

## ２）キャリアデザインプログラム基幹科目の学部・学年別受講状況

学年別の分析では、学年と認知度が反比例する結果となったが、学部ごとの受講状況はどのようになっているのだろうか。結果を図表3-6に示す。

図表3-6　学部別受講状況（複数回答）

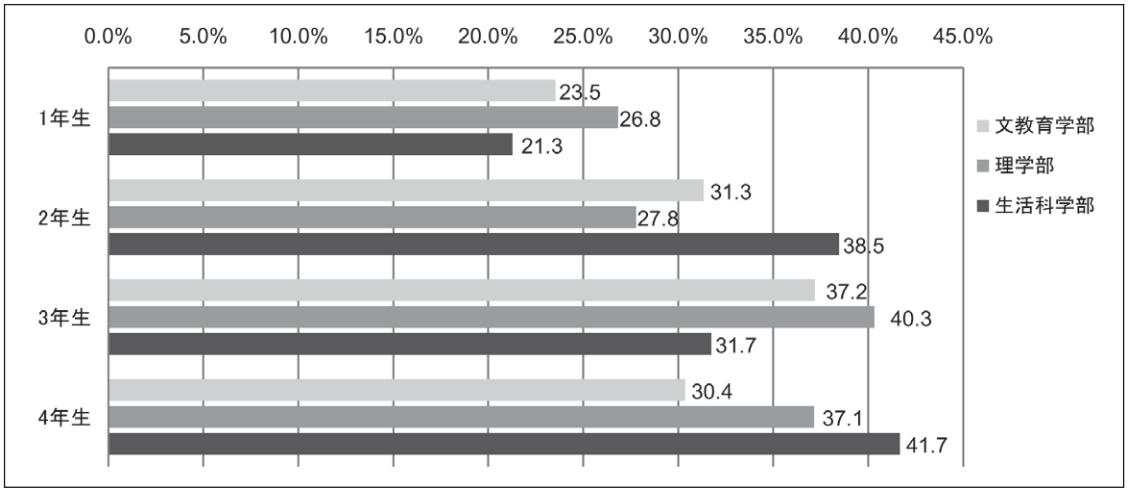



「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」ともに最も値が高かったのは理学部で、同時に「受講した」が23.6%と他学部より低い結果となっている。しかし、今後の受講意志については16.1%であり、文教育学部の22%より低いものの生活科学部の12.2%より高い。

「受講した」は文教育学部が35.0%、生活科学部が32.6%と、いずれも３割以上がこれまでにキャリア関連授業を受講したことがあると答えている。しかし、全ての学部に共通して３割以上が受講するつもりがないと回答している。「受講するつもりがない」は学年別でみると差が見られたが、学部別に目立つ違いがみられない結果となった。

次の図表3-7では受講意志がないと回答した学部生を学部・学年別に分類した結果を示す。

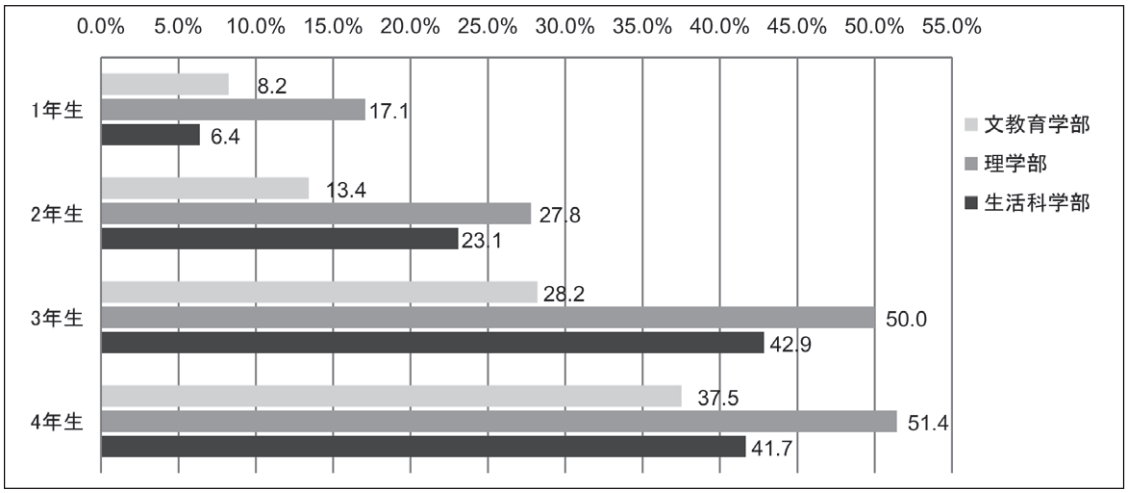
**図表3-7　学部・学年別「受講するつもりがない」**




文教育学部は、１年生が23.5％と比較的低いものの２年生から４年生については30％以上が受講しないと回答しており、中でも３年生の37.2％が最も高い数値となっている。理学部においてプログラムの認知度は１年生で高い結果となっているものの（図表3-8参照）、26.8％が受講しないと回答しており、３年生では40.3％と理学部において最も高い結果となった。生活科学部は１年生で21.3％と学部・学年別分類の中で最も低い値となっているものの、２年生では38.5％、３年生31.7％、４年生41.7％であり、他学部より高い割合で受講意志がない、という結果となる。

次に「プログラムを知らない」という回答について、学部学年別に分類したものを図表3-8で示す。

**図表3-8　「プログラムを知らない」**



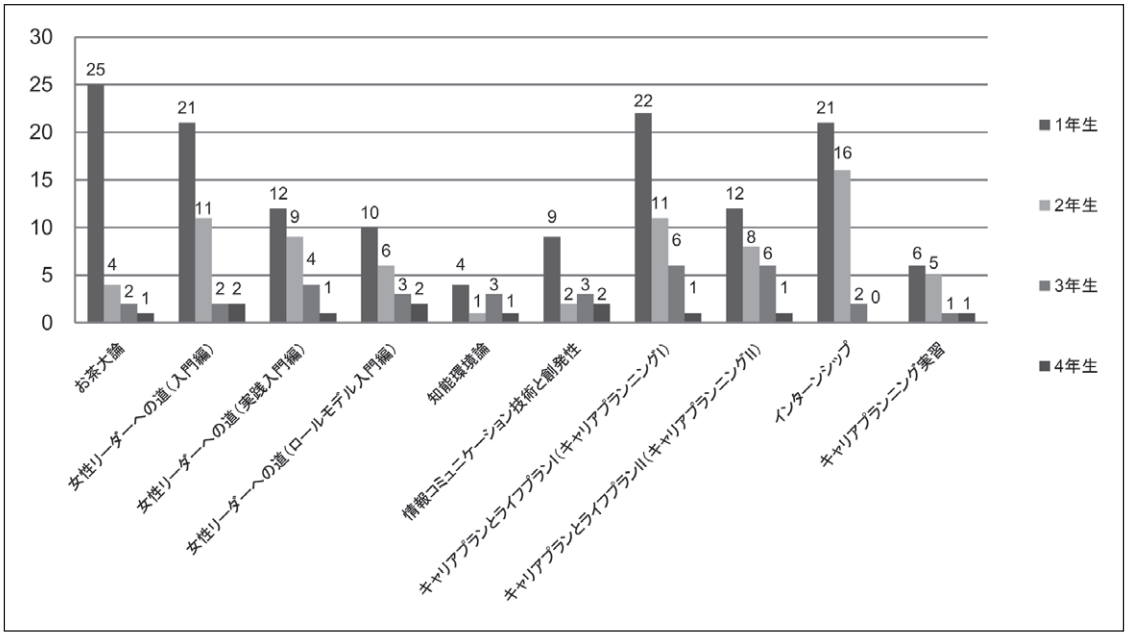

第１章：図表1-46で示されているように、本調査では27.8％が「プログラムを知らない」と回答している。更に、その中でも理学部では全ての学年を通して、他学部よりのプログラムの認知度が低いことがわかる。特に理学部の３年生、４年生については半数が「知らない」と回答しており、今後のキャリアデザインプログラムの全学普及に際して理学部への対応が急務となるのではないかということが伺える。対して文教育学部は、３学部の中でも「知らない」が学年別に見ても少なく、１年生で8.2％、２年生では13.4％、３年生が28.2％、４年生では37.5％であり、１年生を除いて最も低い結果となっている。また生活科学部では１年生の6.4％が学部・学年を通して最も低い値であるのにも関わらず２年生

では23.1％が、また３年生、４年生では40％以上が知らないという結果となっている。

### ３）学生が受講したい授業とは

図表3-9では、今後どのようなキャリアデザインプログラム基幹科目を受講したいかについて、複数回答可でたずねた結果を学年別で分類している。

**図表3-9　学年別これから受講したい授業（度数）（複数回答）**




これから受講したいと答えた学生が最も多かった授業は「キャリアプランとライフプランⅠ（キャリアプランニングⅠ）」の40人、続いて「インターンシップ」の39人であった。その他、30人以上の学生が「受講したい」と答えた授業は、「女性リーダーへの道（入門編）」（36人）と「お茶の水女子大学論」（32人）であった。お茶の水女子大学論の受講希望者のほぼ８割は１年生であり、また、全ての科目において１年生の希望が最も多い。また、「女性リーダーへの道」は入門編の受講希望者が最も多かったが、実践入門編には26人、ロールモデル入門編には21人の希望者がおり、また、全ての学年に受講希望者がいる。

今回の調査において「インターンシップ」の受講希望者が39人と多く、またそのほとんどが１年生と２年生であった。しかし、実際の履修者を見ると、本年度の履修は13人、また、そのほとんどは３年生である（2011年12月現在）。インターンシップに関しては受講希望が実際の履修につながるかという点が、今後の課題になるのではないだろうか。また、受講希望者が最も多かった「キャリアプランとライフプランⅠ（キャリアプランニングⅠ）」であるが、「キャリアプランとライフプランⅡ（キャリアプランニングⅡ）」の受講希望者と合わせると、有効回答数112の内半数以上の学生が受講したいと考えているということが分かった。これらの科目は「お茶の水女子大学論」のような大講義と性質を異にする少数運営のクラスであり、履修可能な学生数に限りがあるため、受講希望者と履修数のバランスをとることが今後必要とされるのではないかと思われる。

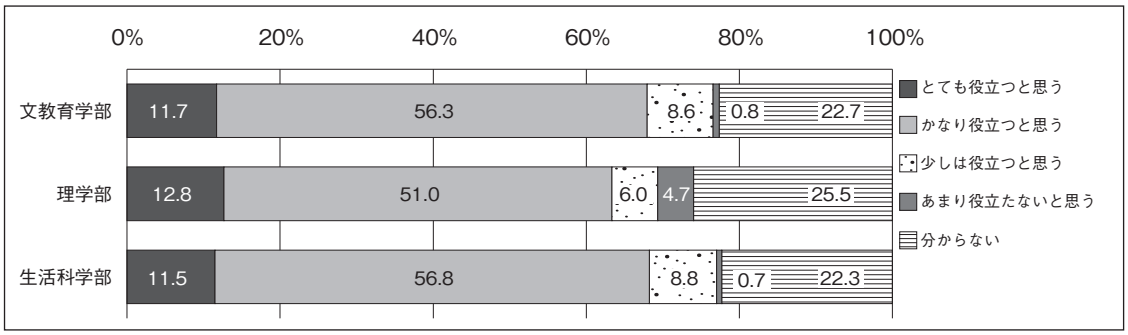
## ⑶キャリア関連科目の役立ち度について

本節ではキャリアデザインプログラム基幹科目受講状況と、学生がこれらの授業のキャリア形成への有効性についてどのように考えているかについての考察を進める。

### 1）キャリアデザインプログラム基幹科目の学部・学年別「役立ち度」

学部生対象に本学のキャリア関連の授業が今後のキャリア形成の役に立つかについて、「とても役立つと思う」「かなり役立つと思う」「少しは役立つと思う」「あまり役立たないと思う」「分らない」の５肢択一での回答を学部別に分類する（図表3-10）。

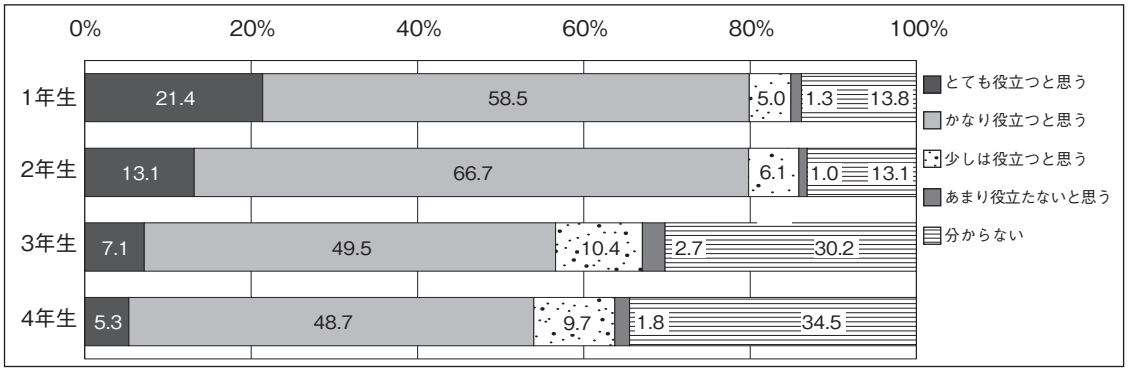
図表3-10　学部別キャリア関連授業の役立ち度




各学部ともに、「とても役立つ」と「かなり役立つ」との回答が全体の６割以上を占める結果となっている。次に、「少しは役立つと思う」は文教育学部で8.6％、理学部で6.0％、生活科学部では8.8％であった。対して、「あまり役立たないと思う」は文教育学部、生活科学部ではそれぞれ0.8％、0.7％と１％以下だったが、理学部は4.7％と比較的高い値となっている。また、「分らない」については文教育学部、生活科学部が22％台なのに対して、理学部は25.5％となっている。理学部ではプログラムの認知度も低いが、同時に他学部に比べキャリア関連プログラムを有効だと思っていないということがうかがえる。ただし、これらの結果は回答全体の結果と一致している（第１章：図表1-49）。

続いてキャリアデザインプログラム基幹科目群の役立ち度について学年別に分類したものを図表3-11で示す。学年別に概観すると、認知度と同じく学年が下がるのと反比例して役立ち度が上がるという結果となっている。まず、「とても役に立つと思う」であるが、１年生の21.4％に対して、４年生は5.3％であった。また、１年生、２年生においては、「とても役に立つ」「かなり役に立つ」の回答が学年全体のほぼ８割を占めているが、３年生、４年生では50％台にとどまっている。同様に３年生と４年生では（役立ち度が）「分らない」との回答も30％以上という結果となった。

図表3-11　学年別キャリア関連科目役立ち度

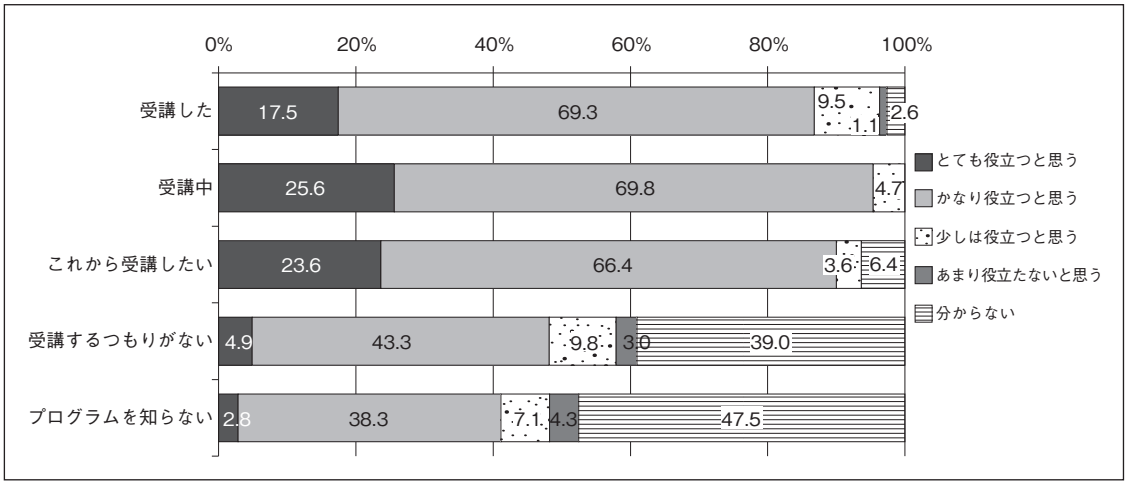


学年とプログラムの認知度が反比例することからも、学年が上がるにつれキャリア関連授業の役立ち度について分らないという回答が増えるのは十分考えられるため、今後、キャリアデザインプログラムについて知っている学生の学年が上がっていけば、役立ち度についての評価は変化するのではないかということが予測される。

### 2）キャリアデザインプログラム基幹科目受講状況と役立ち度

では、キャリア関連授業の受講状況と学生の授業の役立ち度についての捉え方はどのように関連しているのだろうか。

**図表3-12　受講状況 × キャリア関連授業の役立ち度**




図表3-12は受講状況と役立ち度を分類した結果を示している。受講したと回答した学生の内、「とても役立つと思う」は17.5%、「かなり役立つと思う」は69.3%を占め、また「少しは役立つと思う」は9.5%という結果となった。つまり、受講経験のある学生の内、95%以上がキャリア関連授業について程度の違いはあれ役に立つと思っており、対して「役に立たないと思う」は１%程にとどまっている。また、役立ち度が「分らない」も2.6%と低い。現在受講中であると回答した学生については更にはっきりとした傾向があり、「あまり役立たないと思う」「分らない」が共に０%という結果となった。受講中の学生は受講の意義を感じているのである。今後の受講を考えている学生のうち、９割はキャリア関連授業が役に立つと考えているようである。同様に「受講するつもりがない」においても、「とても役に立つ」「かなり役に立つ」「少しは役に立つ」を合わせると６割ほどになる結果となった。

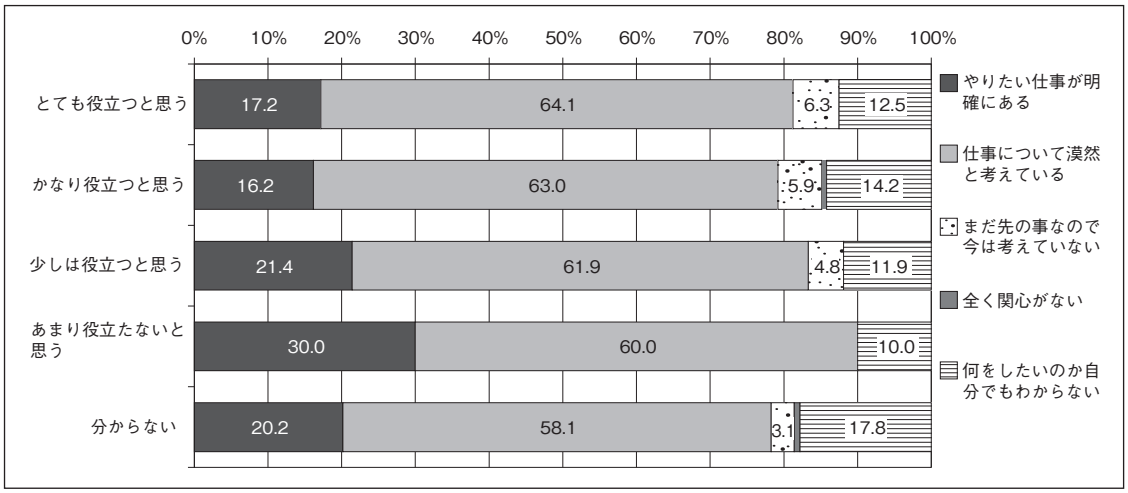
また、受講するつもりがなく、「あまり役に立たない」と回答した学生は３%であり、プログラムを知らず「あまり役に立たない」の4.3%よりも低い。対して受講するつもりがなく、キャリア関連授業の役立ち度についても「分らない」は39%で、受講の意志のない学生でもその理由は積極的にキャリア関連授業を無価値なものと否定しているのではなく、どのように役に立つのかよく分からないと思っているということが言えるだろう。

「分らない」が最も多かったのは「プログラムを知らない」の47.5%であった。このカテゴリーでは、「あまり役に立たない」の値も4.3%と他と比べて高い結果となっている。この点から見ても、プログラムの認知度を上げ、受講者が増えることで、プログラムの有効性についても学生の間で確認されることのなるのではないか。

### 3）キャリアデザインプログラム基幹科目の「役立ち度」とキャリア意識

図表3-13はキャリア関連授業の役立ち度を学生の将来のキャリアについての分類別に示している。

図表3-13　キャリア関連授業の役立ち度 × キャリア意識



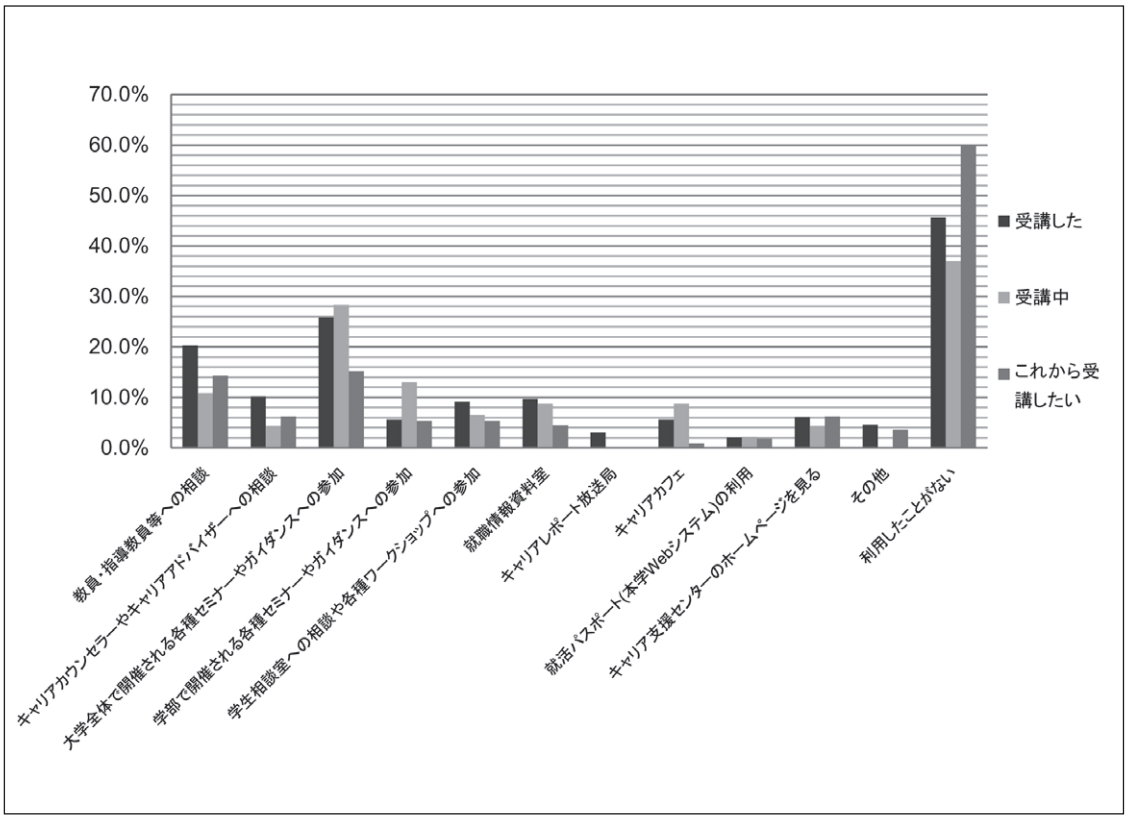

役立ち度の感じ方にかかわらず、「仕事について漠然と考えている」が最も多くを占めている（58％～64％）。その中で「やりたい仕事が明確にある」が最も高かったのは「あまり役立たないと思う」では30％という結果となっており、「仕事について漠然と考えている」と合わせると９割を占めている。また、「あまり役立たないと思う」では、「先の事なので今は考えていない」が０％、「何をしたいかが自分でもわからない」が10％と最も少ない。「役に立たない」との回答は全体の1.8％と大変少ない（第１章：図表1-49参照）が、自分の将来について明確な希望を持っている学生に対しては授業のアピール度が低いのかもしれないということが考えられる。

## ⑷キャリア関連科目の受講とキャリア支援の利用について

次にキャリア関連授業の受講状況と本学のキャリア支援の利用について概観する。

図表3-14はキャリア関連授業を「受講した」「受講中」「これから受講したい」をこれまで利用したキャリア支援の別に分類したものである。

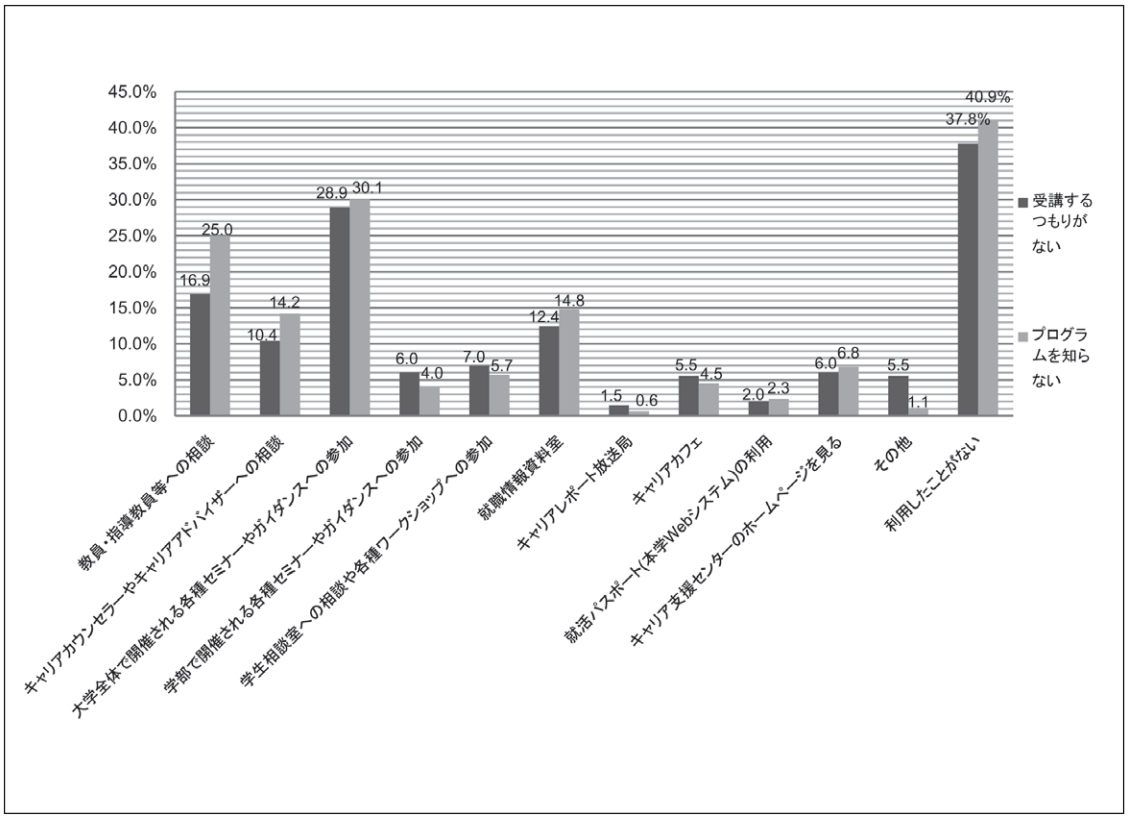
**図表3-14　受講状況とキャリア支援の利用⑴（複数回答）**




キャリア関連授業受講者・受講希望者の本学のキャリア支援の使用では「利用したことがない」が最も高く「受講した」45.7％、「受講中」37％、「これから受講したい」59.8％という結果となった。続いて大学全体で開催されるセミナー等への参加、続いて教員・指導教員への相談という順になっており、全学の結果と同じであることが分かる（第１章：図表1-43参照）。

続いて「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」をキャリア支援の使用という観点から分類する（図表3-15）。

図表3-15　受講状況とキャリア支援の利用（複数回答）




「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」においても、本学のキャリア支援について利用したことがないとの回答がもっと多く（「受講するつもりがない」37.8%、「プログラムを知らない」40.9%）、続いて大学全体で開催されるセミナーなどへの参加、教員・指導教員への相談という順で選択されており、全学の結果と同じになっている。

また、上記の結果を概観するに当たり、キャリア関連授業の受講状況によって本学のキャリア支援の利用に積極的な変化がみられるということは現時点では言えないようである。

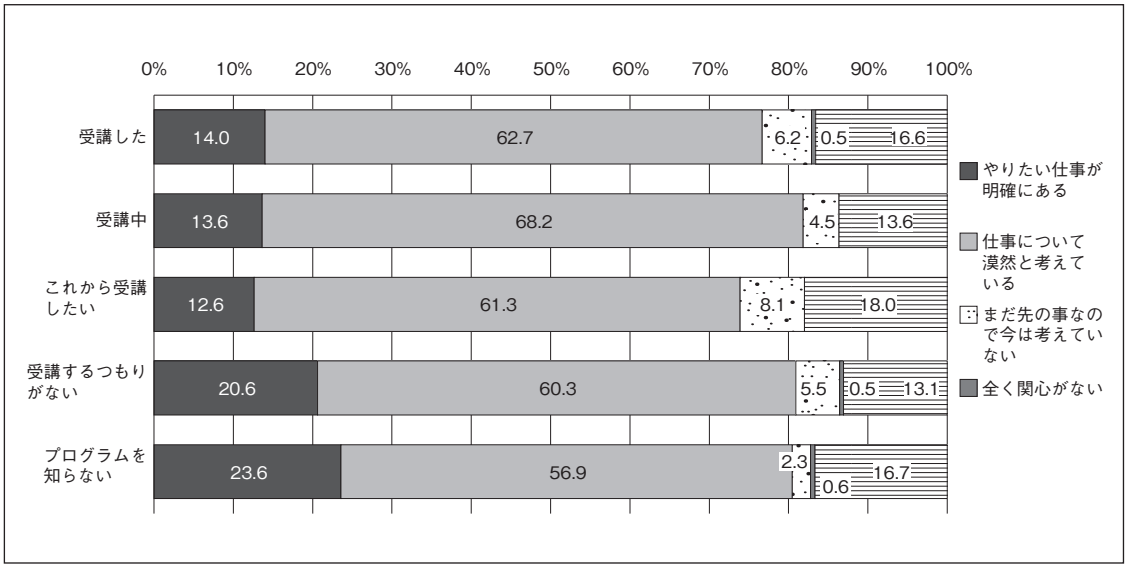
## ⑸キャリア関連科目の受講状況とキャリア形成について

本節では、キャリア関連科目の受講と学生のキャリア意識形成について、キャリア意識、希望の進路、希望する就業形態との関連に着目し分析を進める。

### 1）キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況とキャリア意識

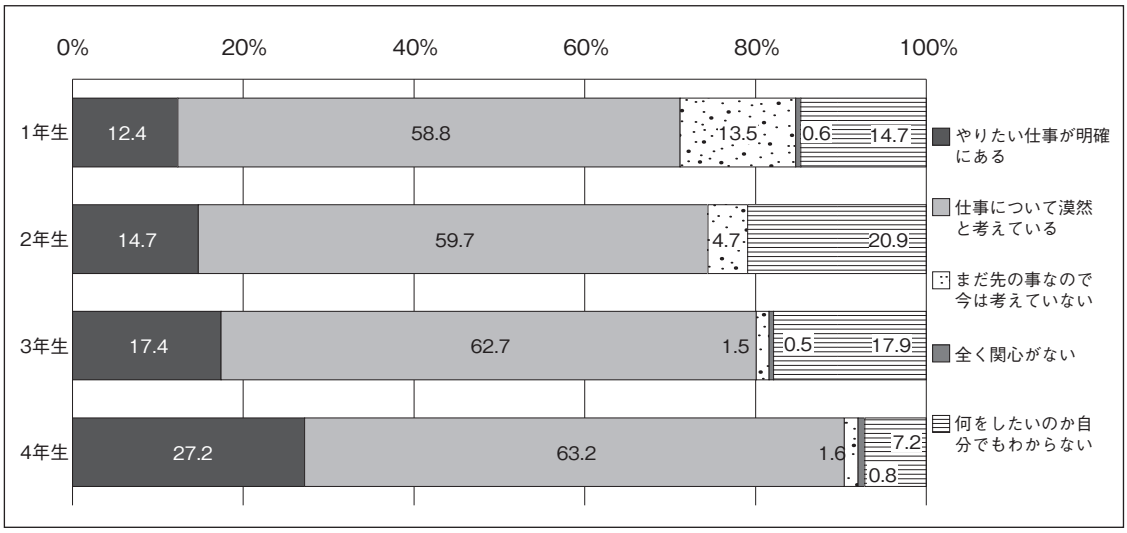
図表3-16はキャリア関連授業の受講状況と学生のキャリア意識（将来の職業についてどのように考えているか）の関連を示したものである。

**図表3-16　キャリア関連科目受講状況 × キャリア意識**




受講状況にかかわらず、６割前後の回答者が「仕事について漠然と考えている」と答えている。また、やりたい仕事が明確にあるとの回答は、「受講した」14％、「受講中」13.6％、「これから受講したい」12.6％と12～13％台であるのに対し、「受講するつもりがない」で20.6％、「プログラムを知らない」では23.8％（受講した、受講中、これから受講したいと５～10％ほどの違いがみられる）という結果となっている。

**図表3-17　キャリア意識 × 学年**




図表3-17はキャリア意識について学年別に分類した表であるが、学年が上がるにつれ「やりたい仕事が明確にある」「仕事について漠然と考えている」と回答する割合が多くなってきていることが分かる。図表3-18において「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」に「やりたい仕事が明確にある」「仕事について漠然と考えている」の割合が高かっ

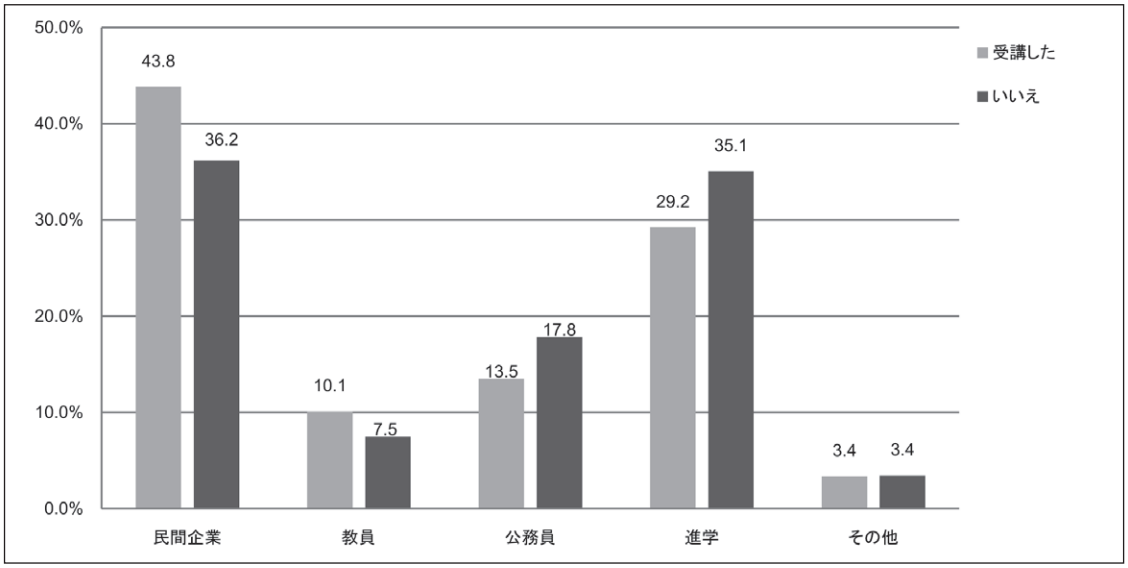
たのは、これらの回答に３年生、４年生が多く含まれているからだと思われる。

### ２）キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況と進路希望先

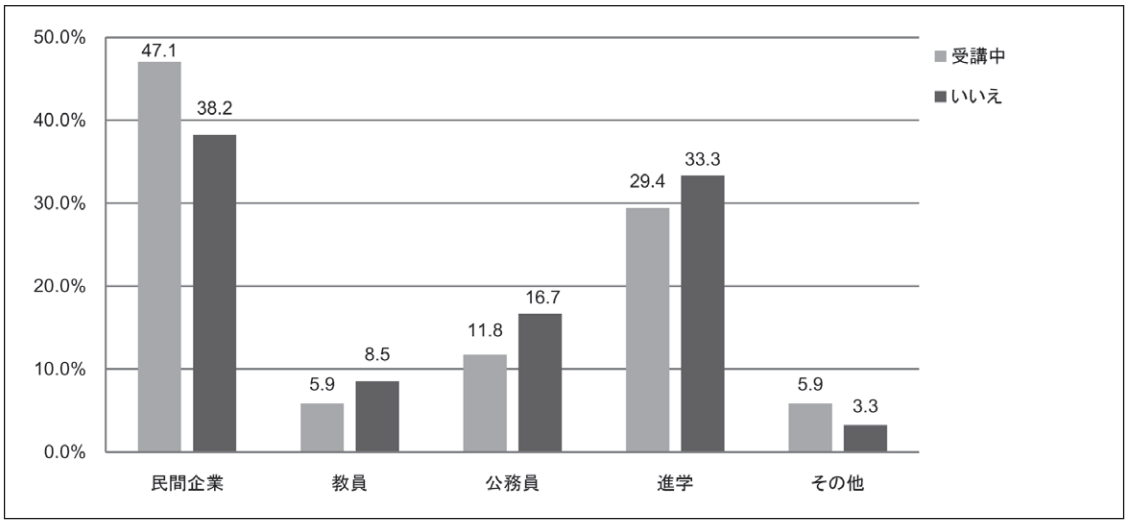
学生の進路選択状況について「一番希望している進路」をキャリア関連授業の受講状況別に分類したものを図表3-18、3-19、3-20、3-21、3-22で示す。進路希望先は、受講状況に関わらず民間企業が最も多かった。

まず、図表3-18と3-19では「受講した」「受講中」と最も希望する進路について分類した。「受講した」は民間企業希望が43.8％、進学が29.2％、公務員13.5％、教員10.1％、その他が3.4％という結果であり、「受講中」では民間企業が47.1％、進学29.4％、公務員11.8％、教員5.9％、その他が5.9％であった。結果として「受講した」「受講中」の進路希望先は酷似している。また「公務員」、「進学」希望者には受講者が少ない結果となっている。

**図表3-18　受講した × 最も希望する進路**　＊無回答を除く

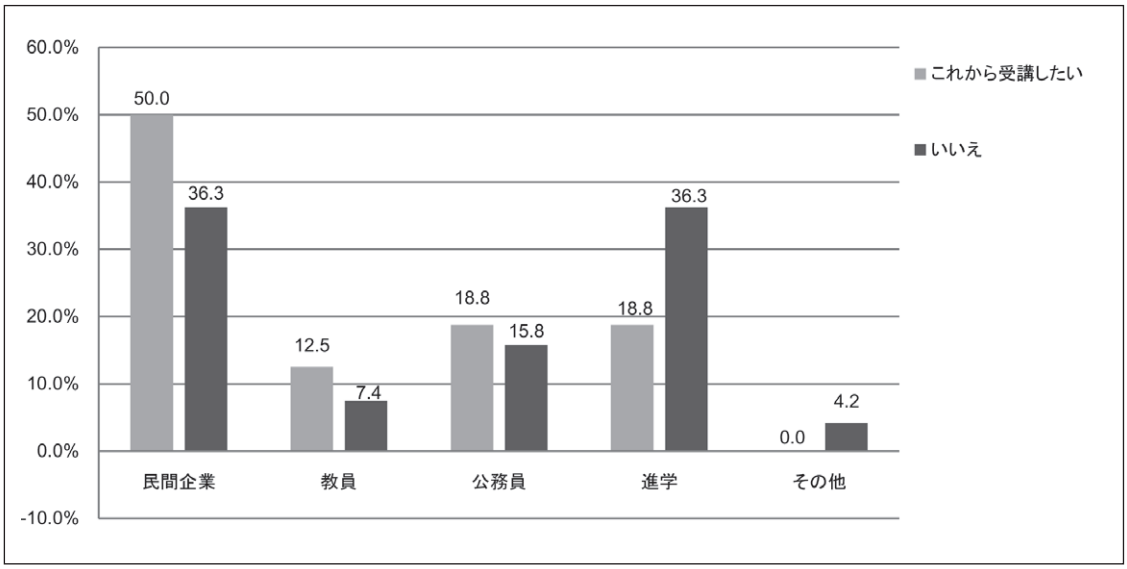



**図表3-19　受講中 × 最も希望する進路**　＊無回答を除く




図表3-20は、キャリア関連科目を今後受講したいと考えている学生の進路希望を示したものである。

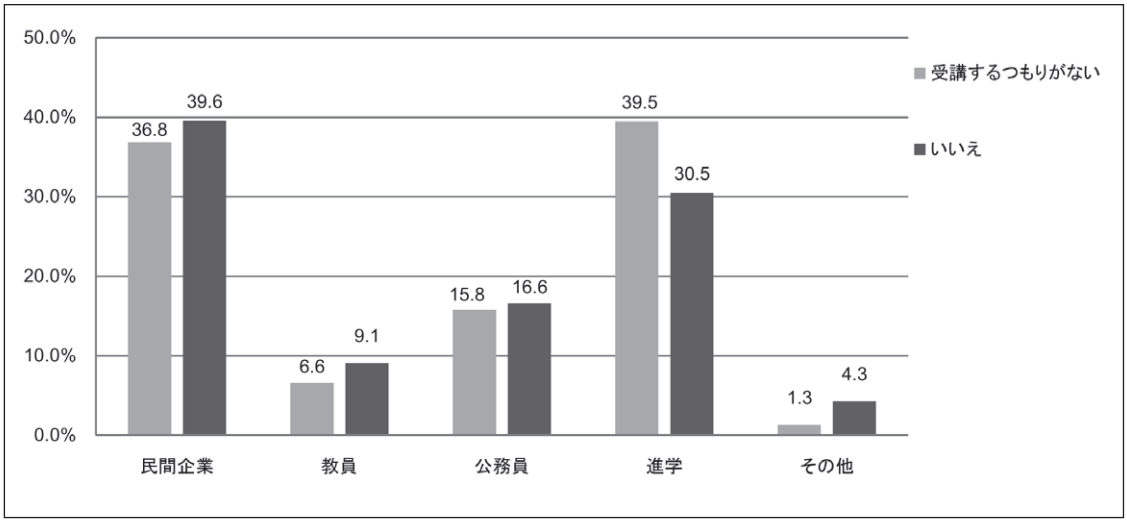
図表　3-20　受講したい × 最も希望する進路　＊無回答を除く



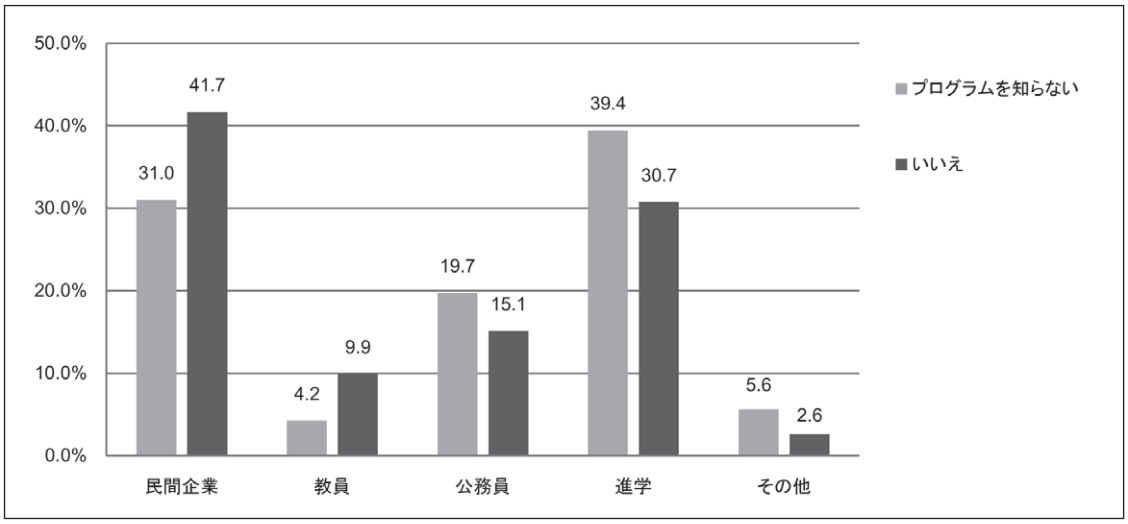

「これから受講したい」では公務員志望が18.8％、進学も18.8％と、民間企業に続いて高い値となっており、教員が12.5％という結果となった。また「その他」の希望が０％だった。

図表3-21、3-22では、キャリア関連科目を今後受講したい、あるいは受講するつもりがないと考えている学生の進路希望の分類を示す。まず、「受講したい」では民間企業就職希望者者が50％と最も多く、進学希望者が18.8％と少ないのに対し、「受講するつもりがない」では進学希望者が最も多く39.5％、次いで民間企業が36.8％という結果となっている。

図表3-21　受講するつもりがない × 最も希望する進路　＊無回答を除く



図表3-22　プログラムを知らない × 最も希望する進路　＊無回答を除く



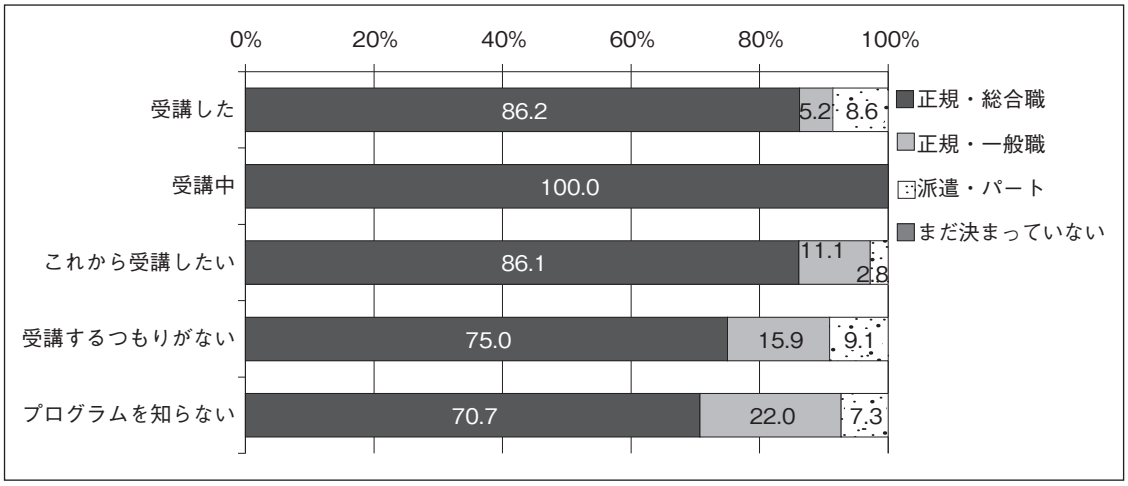

「プログラムを知らない」においても「受講するつもりがない」と同様に進学希望が39.4％と最も多く、次いで民間企業が31％、公務員が19.7％、教員が4.2％でその他が5.6％という結果となった。「プログラムを知らない」は理学部が最も多く（図表3-6参照）、また、理学部は特に進学希望者が多い（第１章：図表1-13参照）ことからこのような結果となったと考えられる。

「受講した」「受講中」「これから受講したい」に民間企業就職希望者が多く、「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」に進学希望者が多いという点から、学生にとってのキャリアデザインプログラム基幹科目群は、民間企業への就職と関連付けられており、コンピテンシーの育成が進学や公務員・教員等の進路を選ぶ際にも必要な能力であるという認識が学生にはあまり浸透していないのではないかということが伺える。

### ３）キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況と希望する就業形態

図表3-23はキャリア関連授業の受講状況と民間企業への就職希望者の望む就業形態を表す。

図表3-23　受講状況と希望する就業形態




まず、「派遣・パート」の希望はどのカテゴリーにおいても０％という結果となった。最も多かったのが正規・総合職（企画や営業、管理業務など業務全般に従事する）への希望であり、「受講中」においては100％となっている。正規･一般職（事務や定型的な仕事、営業アシスタント的な職務）希望については「受講中」で5.2％、「受講したい」11.1％であるのに対し、「受講するつもりがない」では15.9％、「プログラムを知らない」では22％となっている。また、就業形態の希望がまだないという回答は「受講するつもりがない」で最も多く9.1％、続いて「受講した」で8.6％、「プログラムを知らない」で7.3％、「これ

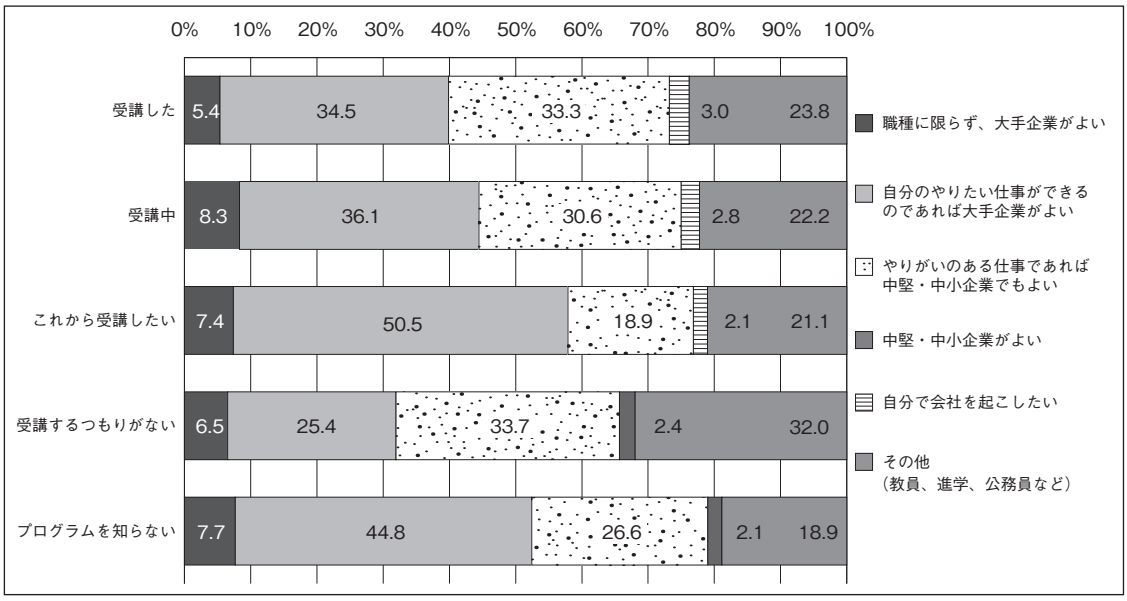
から受講したい」では2.8％であった。

キャリアデザインプログラム基幹科目群を受講した・している、あるいは受講したいと考えている学生の86％以上が正規・総合職を希望しているという結果は、学部生の総合結果である79.5％より僅かではあるが高い値となっている。正規・総合職希望が高いと同時に、キャリア関連授業受講者、受講希望者では、正規・一般職の希望が「受講した」5.2％、「受講中」０％、「受講したい」11.1％と学部全体の割合である13％を下回る結果となっている。（第１章：図表1-16参照）。また、希望する就業形態に関して未決定であるとの回答は、「受講した」「受講中」「これから受講したい」では約６％、「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」では約８％と受講状況の差による違いがあまりない。

### ４）キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況と企業志向

図表3-24では、キャリア関連科目の受講状況と回答者の企業志向についてまとめている。

**図表3-24　受講状況と企業志向**




受講したかどうかに関わらず、全てのカテゴリーの５％～８％ほどが大手企業を希望していることが分かる。また、「やりたい仕事ができるのであれば大手企業が良い」は「受講した」「受講中」で34.5％、36.1％とほぼ変わらないが、「これから受講したい」では50.5％と高くなっている。また、「やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」という回答は、「受講した」「受講中」「受講するつもりがない」では全体の1/3を占めているが、「これから受講したい」では18.9％と少なくなっている。

積極的に「中堅･中小企業が良い」という回答は「受講するつもりがない」（2.4％）、「プログラムを知らない」（2.1％）と極僅かしか見られず、受講経験・受講意志のある学生では０％という結果となっている。対して、起業したいという回答については、「受講した」で３％、「受講中」2.8％、「これから受講したい」2.1％となっており、「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」では０％という結果となっている。学部生全体で起業したいという回答は全体の1.1％と大変少ない中で、僅かであっても受講した・受講中の学生の内３％前後が起業したいと答えていることは興味深い。

また、「受講するつもりがない」では「その他」が32％と最も多い事からも（「その他」が学部生全体では24.2％となっている（第１章：図表1-17参照））、キャリア関連授業は学部生の間では民間企業就職と結びついており、その他の進路との結びつきが弱いということ推測される。

## ⑹おわりに

本章では、キャリア関連科目の受講状況を概観し、キャリア意識や進路希望との関連について示してきた。その結果、本学でのキャリアデザインプログラムの認識度は学年が高くなるにつれ低くなり、受講ども同様の結果となることが分かった。また、学部別にみると理学部において「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」という回答が他学部よりも多い結果となっているが、それは理学部が特に進路として進学希望が多いということと重なる。

受講経験者･受講希望者の進路希望などからも、進学や公務員などの希望進路選択とキャリアデザイン基幹科目との結びつきは、民間企業とのそれと薄いということが伺える。キャリアデザインプログラムにおいて育成されるべきコンピテンシーとは民間企業への就職のために必要な能力というよりも、あらゆる進路の可能性を含む「キャリア」を学生自らの力で切り開いていく力であり、一般的な「就活力」と定義を異とする。学生間にはこのコンセプト自体が未だ浸透しておらず、今後の課題とされるのではないかと考えられる。

# 第４章　大学生活および経済・生活支援と キャリア行動、キャリア意識との関連

本章では、学生の大学生活や経済･生活支援の利用状況をふまえて、キャリア行動やキャリア意識に違いが見られるかについて検討する。

１節では、大学生活とキャリア支援の利用との関連を示し、どのような大学生活を送る学生がキャリア支援を積極的に利用しているかを検討する。２節では、経済・生活支援とキャリア意識との関連を示し、経済・生活支援を受けている学生がどのようなキャリア意識を持っているかを検討し、これらに基づいて、大学での支援の在り方についての示唆を得ることとしたい。

## ⑴大学生活、学業成績とキャリア支援の利用との関連

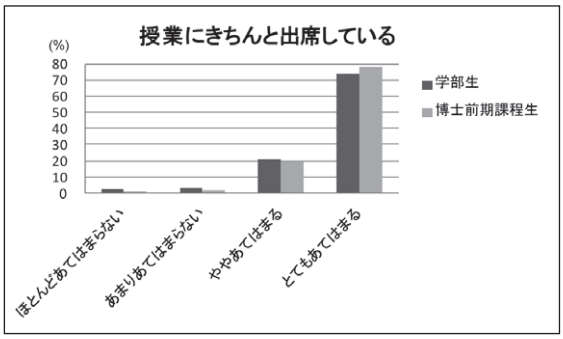
本節では、①大学生活に対する態度、②学業成績の集計結果を示した後、これらとキャリア支援の利用との関連を示す。

### １）大学生活に対する態度、学業成績

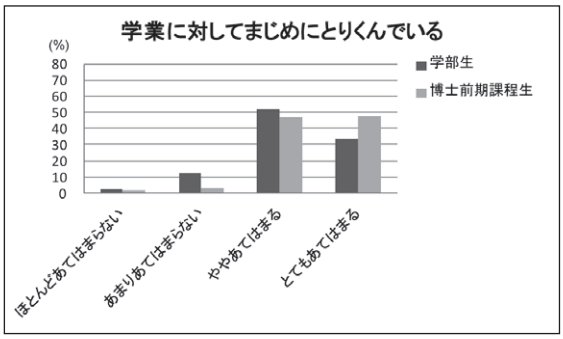
大学生活に対する態度について、「１　ほとんどあてはまらない」「２　あまりあてはまらない」「３　ややあてはまる」「４　とてもあてはまる」の４肢択一で回答を求めた。結果を図表4-1～6に示す。

また、前年度の成績について、「１　よくない」「２　あまりよくない」「３　中間ぐらい」「４　まあよい」「５　よい」の５肢択一で回答を求めた。結果を図表4-7に示す。

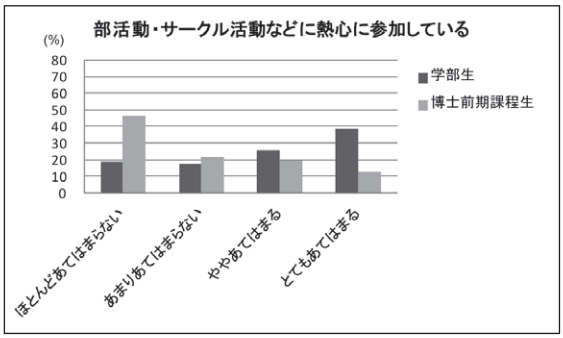
図表4-1



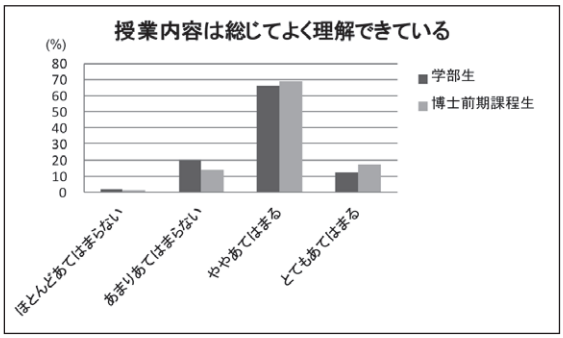

図表4-2



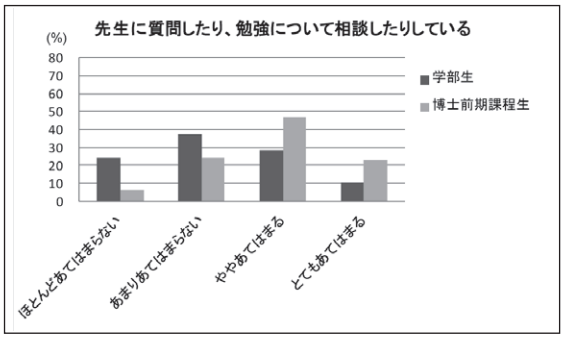

図表4-3



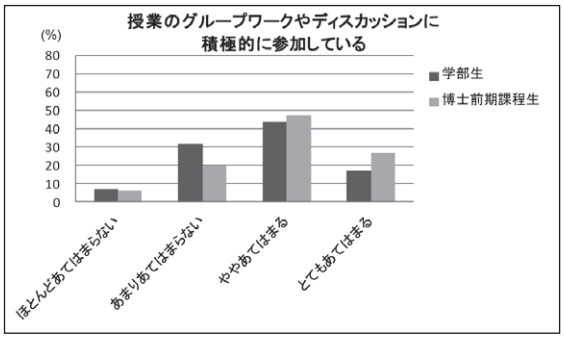

図表4-4



図表4-5

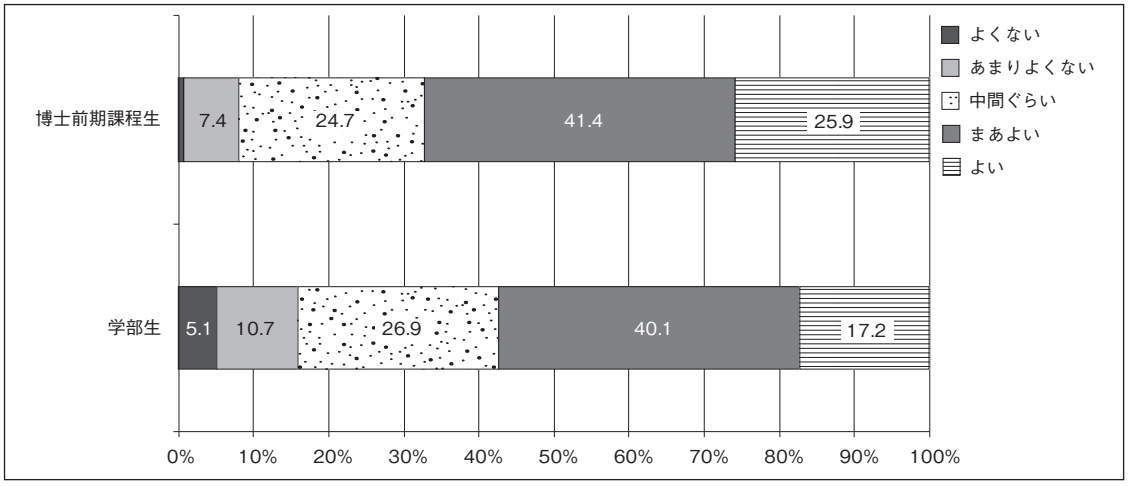



図表4-6




学部生、博士前期課程生とも、「授業にきちんと出席している」「学業に対してまじめにとりくんでいる」「授業内容は総じてよく理解できている」は「ややあてはまる」「とてもあてはまる」の割合が高いことが示された。一方、学部生より博士前期課程生のほうが「ややあてはまる」「とてもあてはまる」の割合が高かった項目は、「先生に質問したり、勉強について相談したりしている」「授業のグループワークやディスカッションに積極的に参加している」であり、博士前期課程生より学部生のほうが高かった項目は「部活動・サークル活動などに熱心に参加している」であった。したがって、これらの項目では、学部生と博士前期課程生の取り組み方に違いがあるものと考えられる。

図表4-7　学業成績




学業成績では、学部生、博士前期課程生とも、「まあよい」がそれぞれ40.1％、41.4％で最も多かった。学部生より博士前期課程生のほうが「よい」の比率が高く示されているが、学部生と博士前期課程生では、評価の基準が異なることが影響している可能性もあると考えられる。

### 2）大学生活に対する態度、学業成績とキャリア支援の利用との関連

大学生活に対する態度とキャリア支援の利用との関連を検討するため、大学生活に対する態度の合計得点を算出し、50％にあたる13点を基準にし、12点以下を低群、13点以上を高群として、この２群のキャリア支援の利用を比較した。キャリア支援の利用としては、「１ 本学の教員・指導教員等への相談」「２ 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」「３ 本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「４ 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「５ 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加」「６ 就職情報資料室の利用」「７ キャリアレポート放送局の利用」「８ キャリアカフェの利用」「９ 就活パスポート（本学Webシステム）の利用」「10 キャリア支援センターのホームページを見る」それぞれの利用あり・なしの２群とした。結果を図表4-8～18に示す。

図表4-8　態度得点 × 本学の教員・指導教員等への相談

| | | 本学の教員・指導教員等への相談 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 態度得点低群 | 度数 | 364 | 60 | 424 |
| | 総和の % | 85.8% | 14.2% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 251 | 119 | 370 |
| | 総和の % | 67.8% | 32.2% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 615 | 179 | 794 |
| | 総和の % | 77.5% | 22.5% | 100.0% |

（$p<.05$）

図表4-9　態度得点 × 本学のキャリアカウンセラーやアドバイザーへの相談

| | | 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 態度得点低群 | 度数 | 376 | 48 | 424 |
| | 総和の % | 88.7% | 11.3% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 315 | 55 | 370 |
| | 総和の % | 85.1% | 14.9% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 691 | 103 | 794 |
| | 総和の % | 87.0% | 13.0% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-10　態度得点 × 本学（全体）で開催されるセミナーやガイダンスへの参加

| | | 本学(大学全体)で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 態度得点低群 | 度数 | 302 | 122 | 424 |
| | 総和の % | 71.2% | 28.8% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 246 | 124 | 370 |
| | 総和の % | 66.5% | 33.5% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 548 | 246 | 794 |
| | 総和の % | 69.0% | 31.0% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-11　態度得点 × 本学（学部）で開催されるセミナーやガイダンスへの参加

| | | 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 態度得点低群 | 度数 | 399 | 25 | 424 |
| | 総和の % | 94.1% | 5.9% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 354 | 16 | 370 |
| | 総和の % | 95.7% | 4.3% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 753 | 41 | 794 |
| | 総和の % | 94.8% | 5.2% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-12　態度得点 × 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加

| | | 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 態度得点低群 | 度数 | 394 | 30 | 424 |
| | 総和の % | 92.9% | 7.1% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 338 | 32 | 370 |
| | 総和の % | 91.4% | 8.6% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 732 | 62 | 794 |
| | 総和の % | 92.2% | 7.8% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-13　態度得点 × 就職情報資料室の利用

| | | 就職情報資料室の利用 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 態度得点低群 | 度数 | 370 | 54 | 424 |
| | 総和の % | 87.3% | 12.7% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 324 | 46 | 370 |
| | 総和の % | 87.6% | 12.4% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 694 | 100 | 794 |
| | 総和の % | 87.4% | 12.6% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-14　態度得点 × キャリアレポート放送局の利用

| | | キャリアレポート放送局の利用 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 態度得点低群 | 度数 | 421 | 3 | 424 |
| | 総和の % | 99.3% | .7% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 361 | 9 | 370 |
| | 総和の % | 97.6% | 2.4% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 782 | 12 | 794 |
| | 総和の % | 98.5% | 1.5% | 100.0% |

（$p<.05$）

図表4-15　態度得点 × キャリアカフェの利用

| | | キャリアカフェの利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | |
| 態度得点低群 | 度数 | 407 | 17 | 424 |
| | 総和の % | 96.0% | 4.0% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 341 | 29 | 370 |
| | 総和の % | 92.2% | 7.8% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 748 | 46 | 794 |
| | 総和の % | 94.2% | 5.8% | 100.0% |

($p$<.05)

図表4-16　態度得点 × 就活パスポートの利用

| | | 就活パスポート（本学 Web システム）の利用 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | |
| 態度得点低群 | 度数 | 420 | 4 | 424 |
| | 総和の % | 99.1% | .9% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 354 | 16 | 370 |
| | 総和の % | 95.7% | 4.3% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 774 | 20 | 794 |
| | 総和の % | 97.5% | 2.5% | 100.0% |

($p$<.05)

図表4-17　態度得点 × キャリア支援センターのホームページを見る

| | | キャリア支援センターのホームページを見る | | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | |
| 態度得点低群 | 度数 | 396 | 28 | 424 |
| | 総和の % | 93.4% | 6.6% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 344 | 26 | 370 |
| | 総和の % | 93.0% | 7.0% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 740 | 54 | 794 |
| | 総和の % | 93.2% | 6.8% | 100.0% |

(*n. s.*)

図表4-18　態度得点 × その他のキャリア支援の利用

| | | その他 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | |
| 態度得点低群 | 度数 | 411 | 13 | 424 |
| | 総和の % | 96.9% | 3.1% | 100.0% |
| 態度得点高群 | 度数 | 360 | 10 | 370 |
| | 総和の % | 97.3% | 2.7% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 771 | 23 | 794 |
| | 総和の % | 97.1% | 2.9% | 100.0% |

（*n. s.*）

分析の結果、大学生活に対する態度得点低群より高群のほうが、「本学の教員・指導教員等への相談」、「キャリアレポート放送局の利用」、「キャリアカフェの利用」、「就活パスポートの利用」をより多く行っていることが示された（図表4-8～18, $p<.05$）。その他のキャリア支援の利用では、大学生活に対する態度得点低群と高群との有意差は見られなかった。

このことから、大学生活に積極的に取り組んでいる学生は、上記のキャリア支援の利用も積極的に行っているものと考えられる。

次に、学業成績とキャリア支援の利用との関連を検討するため、学業成績の「よくない」「あまりよくない」をあわせて学業成績低群とし、「まあよい」「よい」を学業成績高群として、この２群のキャリア支援の利用を比較した。キャリア支援の利用としては、「１ 本学の教員･指導教員等への相談」「２ 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」「３ 本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「４ 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「５ 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加」「６ 就職情報資料室の利用」「７ キャリアレポート放送局の利用」「８ キャリアカフェの利用」「９ 就活パスポート（本学Webシステム）の利用」「10 キャリア支援センターのホームページを見る」の利用あり・なしの２群とした。結果を図表4-19～29に示す。

図表4-19　学業成績 × 本学の教員・指導教員等への相談

| | | 本学の教員・指導教員等への相談 | | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | |
| 学業成績低群 | 度数 | 90 | 23 | 113 |
| | 総和の % | 79.6% | 20.4% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 359 | 116 | 475 |
| | 総和の % | 75.6% | 24.4% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 449 | 139 | 588 |
| | 総和の % | 76.4% | 23.6% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-20　学業成績 × 本学のキャリアカウンセラーやアドバイザーへの相談

| | | 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 学業成績低群 | 度数 | 97 | 16 | 113 |
| | 総和の % | 85.8% | 14.2% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 413 | 62 | 475 |
| | 総和の % | 86.9% | 13.1% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 510 | 78 | 588 |
| | 総和の % | 86.7% | 13.3% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-21　学業成績 × 本学（全体）で開催されるセミナーやガイダンスへの参加

| | | 本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 学業成績低群 | 度数 | 81 | 32 | 113 |
| | 総和の % | 71.7% | 28.3% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 325 | 150 | 475 |
| | 総和の % | 68.4% | 31.6% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 406 | 182 | 588 |
| | 総和の % | 69.0% | 31.0% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-22　学業成績 × 本学（学部）で開催されるセミナーやガイダンスへの参加

| | | 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 学業成績低群 | 度数 | 102 | 11 | 113 |
| | 総和の % | 90.3% | 9.7% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 456 | 19 | 475 |
| | 総和の % | 96.0% | 4.0% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 558 | 30 | 588 |
| | 総和の % | 94.9% | 5.1% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-23　学業成績 × 学生相談室への相談やワークショップへの参加

| | | 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 学業成績低群 | 度数 | 100 | 13 | 113 |
| | 総和の % | 88.5% | 11.5% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 444 | 31 | 475 |
| | 総和の % | 93.5% | 6.5% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 544 | 44 | 588 |
| | 総和の % | 92.5% | 7.5% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-24　学業成績 × 就職情報資料室の利用

| | | 就職情報資料室の利用 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 学業成績低群 | 度数 | 99 | 14 | 113 |
| | 総和の % | 87.6% | 12.4% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 413 | 62 | 475 |
| | 総和の % | 86.9% | 13.1% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 512 | 76 | 588 |
| | 総和の % | 87.1% | 12.9% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-25　学業成績 × キャリアレポート放送局の利用

| | | キャリアレポート放送局の利用 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 学業成績低群 | 度数 | 113 | 0 | 113 |
| | 総和の % | 100.0% | .0% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 467 | 8 | 475 |
| | 総和の % | 98.3% | 1.7% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 580 | 8 | 588 |
| | 総和の % | 98.6% | 1.4% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-26　学業成績 × キャリアカフェの利用

| | | キャリアカフェの利用 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 学業成績低群 | 度数 | 107 | 6 | 113 |
| | 総和の % | 94.7% | 5.3% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 445 | 30 | 475 |
| | 総和の % | 93.7% | 6.3% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 552 | 36 | 588 |
| | 総和の % | 93.9% | 6.1% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-27　学業成績 × 就活パスポートの利用

| | | 就活パスポート（本学 Web システム）の利用 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 学業成績低群 | 度数 | 112 | 1 | 113 |
| | 総和の % | 99.1% | .9% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 459 | 16 | 475 |
| | 総和の % | 96.6% | 3.4% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 571 | 17 | 588 |
| | 総和の % | 97.1% | 2.9% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-28　学業成績 × キャリア支援センターのホームページを見る

| | | キャリア支援センターのホームページを見る | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 学業成績低群 | 度数 | 106 | 7 | 113 |
| | 総和の % | 93.8% | 6.2% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 446 | 29 | 475 |
| | 総和の % | 93.9% | 6.1% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 552 | 36 | 588 |
| | 総和の % | 93.9% | 6.1% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-29　学業成績 × その他のキャリア支援の利用

| | | その他 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 利用していない | 利用した | 合計 |
| 学業成績低群 | 度数 | 106 | 7 | 113 |
| | 総和の % | 93.8% | 6.2% | 100.0% |
| 学業成績高群 | 度数 | 462 | 13 | 475 |
| | 総和の % | 97.3% | 2.7% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 568 | 20 | 588 |
| | 総和の % | 96.6% | 3.4% | 100.0% |

（*n. s.*）

その結果、全ての項目で有意な効果は見られなかった（図表4-19～29）。このことから、学業成績とキャリア支援の利用との関連は、あまり認められないものと考えられる。

先述したように、大学生活に対する態度とキャリア支援の利用との関連が認められたことを踏まえると、キャリア支援の利用に積極的かどうかは、学業成績ではなく、大学生活への積極性との関連が強いのではないかと考えられる。このことから、大学生活への積極性を伸ばすことが、キャリア支援の利用にもつながっていくといえるのではないだろうか。

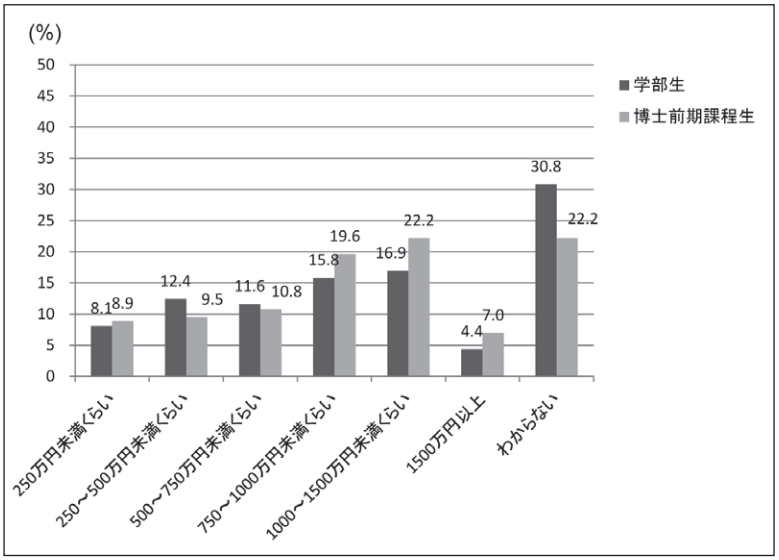
## ⑵経済・生活支援とキャリア意識との関連

本節では、経済・生活支援の状況に着目し、①世帯年収、②奨学金制度の利用状況、③授業料免除制度の利用状況、④学生寮への入寮状況についての集計結果を示した後、これらとキャリア意識との関連を示す。

### １）世帯年収

世帯年収について、「１ 250万円未満くらい」「２ 250万円～500万円未満くらい」「３ 500万円以上750万円未満くらい」「４ 750万円以上1,000万円未満くらい」「５ 1,000万円以上1,500万円未満くらい」「６ 1,500万円以上」「７ わからない」の７肢択一で回答を求めた。結果を図表4-30に示す。

図表4-30　世帯年収




「わからない」を除いて、もっとも多いのは、学部生、博士前期課程生とも、「1,000万円以上1,500万円未満くらい」（それぞれ、16.9％、22.2％）であり、次いで「750万円以上1,000万円未満くらい」（それぞれ、15.8％、19.6％）であった。

日本学生支援機構による「平成20年度学生生活調査」によれば、世帯年収の平均は、全体では822万円、国立大学・女子に限れば793万円であり（図表4-31）、本学の結果は、国立大学・女子の年間平均収入よりも高いことがうかがえる。

図表4-31　家庭の年間収入別学生数の割合（大学昼間部）

（単位：％）

| 区分 | | 家庭の年間収入 | | | | | | | | | | | | | | | | （参考） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 200万円未満 | 200～300 | 300～400 | 400～500 | 500～600 | 600～700 | 700～800 | 800～900 | 900～1,000 | 1,000～1,100 | 1,100～1,200 | 1,200～1,300 | 1,300～1,400 | 1,400～1,500 | 1,500万円以上 | 計 | 平均年間収入額 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 千円 |
| 男 | 国立 | 3.3 | 4.0 | 6.1 | 9.1 | 9.0 | 10.4 | 17.4 | 11.4 | 6.0 | 9.5 | 1.6 | 3.6 | 1.5 | 0.7 | 6.2 | 100.0 | 7,910 |
| 男 | 公立 | 2.6 | 5.9 | 8.5 | 9.8 | 9.8 | 12.3 | 19.1 | 9.6 | 6.4 | 7.1 | 1.6 | 1.8 | 1.2 | 0.4 | 3.8 | 100.0 | 7,020 |
| 男 | 私立 | 2.3 | 3.9 | 6.4 | 8.8 | 10.0 | 10.1 | 9.6 | 20.3 | 5.6 | 9.9 | 1.7 | 2.9 | 1.1 | 0.7 | 6.7 | 100.0 | 8,170 |
| 女 | 国立 | 4.8 | 4.5 | 6.7 | 8.8 | 8.0 | 8.1 | 9.7 | 19.7 | 5.8 | 9.8 | 1.7 | 2.0 | 2.2 | 1.5 | 6.7 | 100.0 | 7,930 |
| 女 | 公立 | 4.2 | 4.2 | 7.3 | 8.6 | 11.1 | 9.8 | 19.9 | 10.0 | 5.4 | 7.9 | 2.4 | 2.4 | 1.1 | 0.9 | 4.7 | 100.0 | 7,400 |
| 女 | 私立 | 3.0 | 3.9 | 5.5 | 6.9 | 9.3 | 8.7 | 9.6 | 21.0 | 6.7 | 9.5 | 2.2 | 3.3 | 1.7 | 0.8 | 7.8 | 100.0 | 8,540 |
| 平均 | 国立 | 3.9 | (8.1)<br>4.2 | (14.4)<br>6.3 | (23.4)<br>9.0 | (32.0)<br>8.6 | (41.5)<br>9.5 | (56.0)<br>14.5 | (70.5)<br>14.5 | (76.4)<br>5.9 | (86.0)<br>9.6 | (87.7)<br>1.7 | (90.7)<br>3.0 | (92.5)<br>1.8 | (93.5)<br>1.0 | (100.0)<br>6.5 | 100.0 | 7,920 |
| 平均 | 公立 | 3.5 | (8.4)<br>4.9 | (16.2)<br>7.8 | (25.3)<br>9.1 | (35.9)<br>10.6 | (46.8)<br>10.9 | (66.4)<br>19.6 | (76.3)<br>9.9 | (82.1)<br>5.8 | (89.7)<br>7.6 | (91.8)<br>2.1 | (93.9)<br>2.1 | (95.1)<br>1.2 | (95.8)<br>0.7 | (100.0)<br>4.2 | 100.0 | 7,240 |
| 平均 | 私立 | 2.7 | (6.6)<br>3.9 | (12.6)<br>6.0 | (20.5)<br>7.9 | (30.2)<br>9.7 | (39.6)<br>9.4 | (49.2)<br>9.6 | (69.8)<br>20.6 | (75.9)<br>6.1 | (85.6)<br>9.7 | (87.5)<br>1.9 | (90.6)<br>3.1 | (92.0)<br>1.4 | (92.8)<br>0.8 | (100.0)<br>7.2 | 100.0 | 8,340 |
| 平均 | 計 | 2.9 | (6.9)<br>4.0 | (13.0)<br>6.1 | (21.2)<br>8.2 | (30.7)<br>9.5 | (40.2)<br>9.5 | (51.1)<br>10.9 | (70.1)<br>19.0 | (76.2)<br>6.1 | (85.8)<br>9.6 | (87.7)<br>1.9 | (90.7)<br>3.0 | (92.1)<br>1.4 | (92.9)<br>0.8 | (100.0)<br>7.1 | 100.0 | 8,220 |

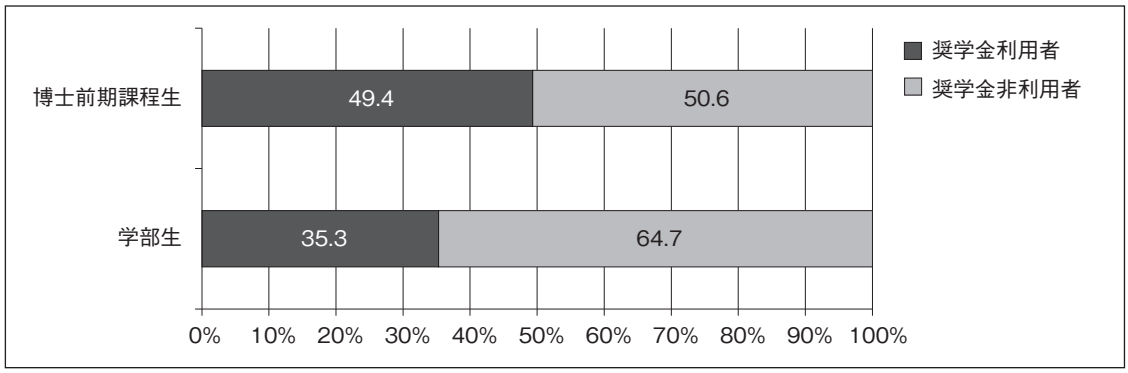
（注）（　　）は、家庭の収入階層別学生数の割合の累計を示す。

（出典）日本学生支援機構「平成20年度学生生活調査」

### ２）奨学金制度の利用状況

奨学金制度の利用状況について、「日本学生支援機構の奨学金」「地方公共団体の奨学金」「本学独自の奨学金」「民間奨学団体の奨学金」「その他の奨学金」のそれぞれについて、「１：給付」「２：貸与（ある場合のみ）」「３：受けていない」から回答を求めた（集計結果は、２章p27参照）。ここでは、これらの奨学金制度を一つでも利用しているものを奨学金利用者群とし、利用したことがないものを奨学金非利用者群として、結果を図表4-32に示す。

図表4-32　奨学金制度の利用状況

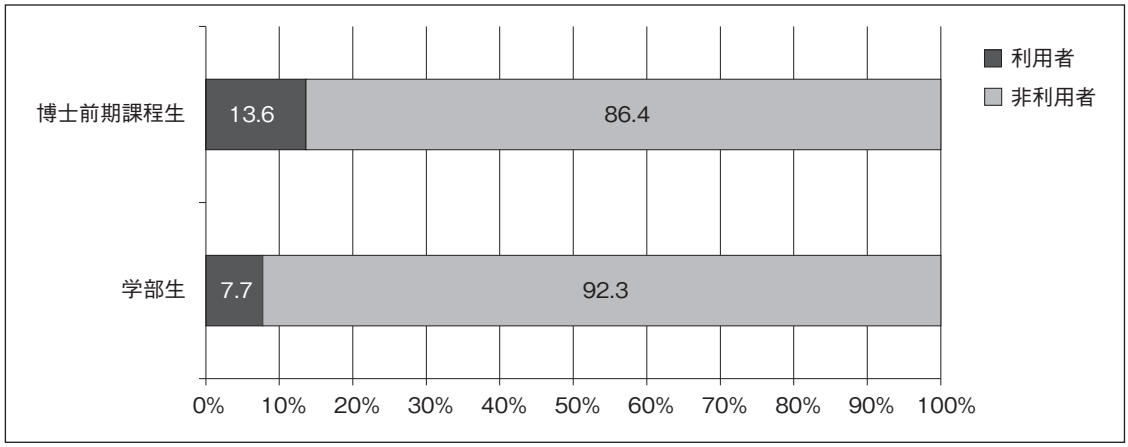



奨学金制度を１つでも利用している者は、学部生では35.3％、博士前期課程生では49.4％であった。このことから、奨学金制度の利用者は、学部生より、博士前期課程生のほうが多いといえる。

### ３）授業料免除制度の利用状況

授業料免除制度の利用状況について、「１　受けている」「２　受けていない」から回答を求めた。結果を図表4-33に示す。

図表4-33　授業料免除制度の利用状況



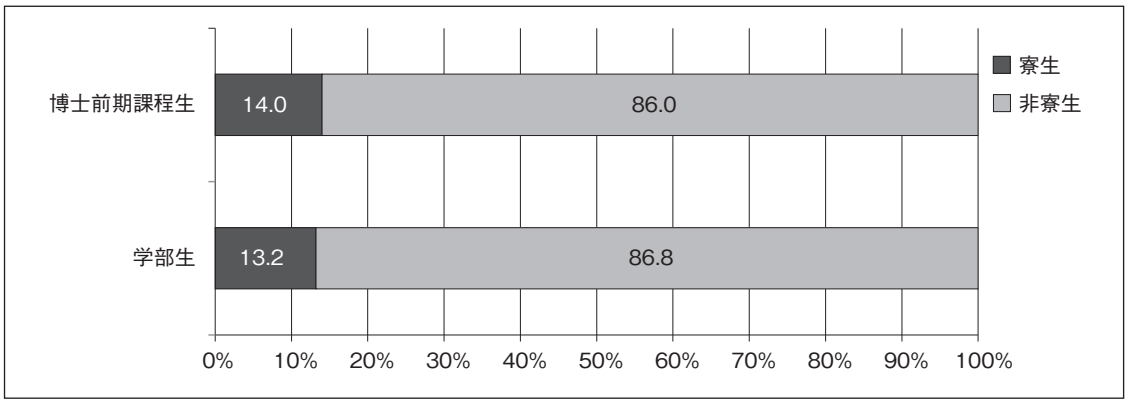

授業料免除制度を利用している者は、学部生では7.7％、博士前期課程生では13.6％であった。このことから、奨学金制度ほどではないものの、授業料免除制度の利用にも、学部生と博士前期課程生との差異があるといえる。

### ４）学生寮への入寮状況

学生寮への入寮状況について、「１　現在入寮している」「２　入寮したことがあるが、退寮し、今は入寮していない」「３　入寮を申請したが、許可されなかった」「４　入寮を考えたが、結局辞めて、入寮していない」「５　入寮したことはないが、今後入寮してみたいと考えている」「６　入寮を考えたことはない」の６肢択一で回答を求めた。また、「入寮している」と回答した者には、「１　国際学生宿舎」「２　小石川寮」「３　お茶大SCC」から選択するように求めた（集計結果は２章p28参照）。ここでは、入寮しているものを寮生とし、

入寮していないものを非寮生として、結果を図表4-34に示す。

図表4-34　学生寮への入寮状況




学生寮に入寮している者は、学部生では13.2％であり、博士前期課程生では14.0％であった。このことから、学生寮への入寮については、学部生と博士前期課程生とで、同様の傾向が認められた。

### 5）経済・生活支援と将来のキャリアに対する意識との関連

経済・生活支援と将来のキャリアに対する意識との関連を検討するため、経済・生活支援（①世帯年収、②奨学金制度の利用状況、③授業料免除制度の利用状況、④学生寮への入寮状況）×将来のキャリアに対する意識のクロス表を作成した。結果を図表4-35～42に示す。

図表4-35　世帯年収 × キャリアに対する意識

| | | | 自分のキャリアについてどう考えているか | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | やりたい仕事が明確にある | 仕事について漠然と考えている | まだ先の事なので今は考えていない | 全く関心がない | 何をしたいのか自分でもわからない | |
| 年収 | 250万円未満くらい | 度数 | 16 | 36 | 3 | 1 | 8 | 64 |
| | | 総和の ％ | 25.0% | 56.3% | 4.7% | 1.6% | 12.5% | 100.0% |
| | 250万円～500万円未満くらい | 度数 | 21 | 54 | 4 | 0 | 13 | 92 |
| | | 総和の ％ | 22.8% | 58.7% | 4.3% | .0% | 14.1% | 100.0% |
| | 500万円～750万円未満くらい | 度数 | 20 | 57 | 2 | 0 | 9 | 88 |
| | | 総和の ％ | 22.7% | 64.8% | 2.3% | .0% | 10.2% | 100.0% |
| | 750万円～1000万円未満くらい | 度数 | 25 | 81 | 3 | 0 | 17 | 126 |
| | | 総和の ％ | 19.8% | 64.3% | 2.4% | .0% | 13.5% | 100.0% |
| | 1000万円～1500万円未満くらい | 度数 | 32 | 82 | 9 | 0 | 16 | 139 |
| | | 総和の ％ | 23.0% | 59.0% | 6.5% | .0% | 11.5% | 100.0% |
| | 1500万円以上 | 度数 | 7 | 22 | 2 | 0 | 6 | 37 |
| | | 総和の ％ | 18.9% | 59.5% | 5.4% | .0% | 16.2% | 100.0% |
| | わからない | 度数 | 39 | 133 | 14 | 2 | 35 | 223 |
| | | 総和の ％ | 17.5% | 59.6% | 6.3% | .9% | 15.7% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 160 | 465 | 37 | 3 | 104 | 769 |
| | | 総和の ％ | 20.8% | 60.5% | 4.8% | .4% | 13.5% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-36　奨学金受給状況 × キャリアに対する意識

| | | | 自分のキャリアについてどう考えているか | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | やりたい仕事が明確にある | 仕事について漠然と考えている | まだ先の事なので今は考えていない | 全く関心がない | 何をしたいのか自分でもわからない | |
| 奨学金受給状況 | 受けている | 度数 | 63 | 185 | 11 | 1 | 35 | 295 |
| | | 総和の ％ | 21.4% | 62.7% | 3.7% | .3% | 11.9% | 100.0% |
| | 受けていない | 度数 | 97 | 286 | 27 | 2 | 72 | 484 |
| | | 総和の ％ | 20.0% | 59.1% | 5.6% | .4% | 14.9% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 160 | 471 | 38 | 3 | 107 | 779 |
| | | 総和の ％ | 20.5% | 60.5% | 4.9% | .4% | 13.7% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-37　授業料免除 × キャリアに対する意識

| | | | 自分のキャリアについてどう考えているか | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | やりたい仕事が明確にある | 仕事について漠然と考えている | まだ先の事なので今は考えていない | 全く関心がない | 何をしたいのか自分でもわからない | |
| 授業料免除 | 受けている | 度数 | 24 | 35 | 3 | 0 | 7 | 69 |
| | | 総和の % | 34.8% | 50.7% | 4.3% | .0% | 10.1% | 100.0% |
| | 受けていない | 度数 | 135 | 428 | 34 | 3 | 97 | 697 |
| | | 総和の % | 19.4% | 61.4% | 4.9% | .4% | 13.9% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 159 | 463 | 37 | 3 | 104 | 766 |
| | | 総和の % | 20.8% | 60.4% | 4.8% | .4% | 13.6% | 100.0% |

（$p$<.05）

図表4-38　入寮状況 × キャリアに対する意識

| | | | 自分のキャリアについてどう考えているか | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | やりたい仕事が明確にある | 仕事について漠然と考えている | まだ先の事なので今は考えていない | 全く関心がない | 何をしたいのか自分でもわからない | |
| 入寮状況 | 寮生 | 度数 | 27 | 53 | 5 | 1 | 17 | 103 |
| | | 総和の % | 26.2% | 51.5% | 4.9% | 1.0% | 16.5% | 100.0% |
| | 非寮生 | 度数 | 132 | 416 | 33 | 2 | 91 | 674 |
| | | 総和の % | 19.6% | 61.7% | 4.9% | .3% | 13.5% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 159 | 469 | 38 | 3 | 108 | 777 |
| | | 総和の % | 20.5% | 60.4% | 4.9% | .4% | 13.9% | 100.0% |

（*n. s.*）

分析の結果、授業料免除を受けていない学生より受けている学生のほうが、「やりたい仕事が明確にある」の割合が高いことが示された（図表2-8, $p$<.05）。その他の経済・生活支援では、有意差は見られなかった。このことから、経済・生活支援によるキャリアに対する意識の違いはあまり見られないものの、一部で、現在、生活支援を受けている学生のほうが、キャリアに対する意識がより明確である可能性が示唆された。

### 6）経済・生活支援と希望進路との関連

経済・生活支援と希望進路との関連を検討するため、経済・生活支援（①世帯年収、②奨学金制度の利用状況、③授業料免除制度の利用状況、④学生寮への入寮状況）×希望進路のクロス表を作成した。結果を図表4-39～13に示す。

図表4-39　世帯年収 × 希望進路

| | | | 一番希望している就職先 | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 民間企業 | 教員 | 公務員 | 進学 | その他 | |
| 年収 | 250万円未満くらい | 度数 | 11 | 1 | 4 | 8 | 1 | 25 |
| | | 総和の % | 44.0% | 4.0% | 16.0% | 32.0% | 4.0% | 100.0% |
| | 250万円～500万円未満くらい | 度数 | 13 | 3 | 5 | 10 | 0 | 31 |
| | | 総和の % | 41.9% | 9.7% | 16.1% | 32.3% | .0% | 100.0% |
| | 500万円～750万円未満くらい | 度数 | 20 | 4 | 9 | 9 | 0 | 42 |
| | | 総和の % | 47.6% | 9.5% | 21.4% | 21.4% | .0% | 100.0% |
| | 750万円～1000万円未満くらい | 度数 | 30 | 7 | 10 | 14 | 3 | 64 |
| | | 総和の % | 46.9% | 10.9% | 15.6% | 21.9% | 4.7% | 100.0% |
| | 1000万円～1500万円未満くらい | 度数 | 25 | 4 | 5 | 20 | 4 | 58 |
| | | 総和の % | 43.1% | 6.9% | 8.6% | 34.5% | 6.9% | 100.0% |
| | 1500万円以上 | 度数 | 9 | 1 | 0 | 7 | 0 | 17 |
| | | 総和の % | 52.9% | 5.9% | .0% | 41.2% | .0% | 100.0% |
| | わからない | 度数 | 30 | 9 | 16 | 30 | 4 | 89 |
| | | 総和の % | 33.7% | 10.1% | 18.0% | 33.7% | 4.5% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 138 | 29 | 49 | 98 | 12 | 326 |
| | | 総和の % | 42.3% | 8.9% | 15.0% | 30.1% | 3.7% | 100.0% |

（*n. s.*）

図表4-40　奨学金受給状況 × 希望進路

| | | | 一番希望している就職先 | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 民間企業 | 教員 | 公務員 | 進学 | その他 | |
| 奨学金受給状況 | 受けている | 度数 | 62 | 5 | 21 | 42 | 3 | 133 |
| | | 総和の % | 46.6% | 3.8% | 15.8% | 31.6% | 2.3% | 100.0% |
| | 受けていない | 度数 | 77 | 23 | 28 | 57 | 9 | 194 |
| | | 総和の % | 39.7% | 11.9% | 14.4% | 29.4% | 4.6% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 139 | 28 | 49 | 99 | 12 | 327 |
| | | 総和の % | 42.5% | 8.6% | 15.0% | 30.3% | 3.7% | 100.0% |

*(n. s.)*

図表4-41　授業料免除 × 希望進路

| | | | 一番希望している就職先 | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 民間企業 | 教員 | 公務員 | 進学 | その他 | |
| 授業料免除 | 受けている | 度数 | 7 | 0 | 6 | 11 | 0 | 24 |
| | | 総和の % | 29.2% | .0% | 25.0% | 45.8% | .0% | 100.0% |
| | 受けていない | 度数 | 132 | 28 | 41 | 84 | 12 | 297 |
| | | 総和の % | 44.4% | 9.4% | 13.8% | 28.3% | 4.0% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 139 | 28 | 47 | 95 | 12 | 321 |
| | | 総和の % | 43.3% | 8.7% | 14.6% | 29.6% | 3.7% | 100.0% |

*(n. s.)*

図表4-42　入寮状況 × 希望進路

| | | | 一番希望している就職先 | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 民間企業 | 教員 | 公務員 | 進学 | その他 | |
| 入寮状況 | 寮生 | 度数 | 23 | 4 | 8 | 9 | 2 | 46 |
| | | 総和の % | 50.0% | 8.7% | 17.4% | 19.6% | 4.3% | 100.0% |
| | 非寮生 | 度数 | 116 | 25 | 40 | 90 | 10 | 281 |
| | | 総和の % | 41.3% | 8.9% | 14.2% | 32.0% | 3.6% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 139 | 29 | 48 | 99 | 12 | 327 |
| | | 総和の % | 42.5% | 8.9% | 14.7% | 30.3% | 3.7% | 100.0% |

*(n. s.)*

分析の結果、経済・生活支援と希望進路の関連では、有意差は見られなかった。このことから、経済・生活支援の利用状況によって、希望する進路に違いは見られないものと考えられる。

先述したように、キャリアに対する意識では、経済・生活支援の利用状況による違いは全体的には見られなかったが、一部で、生活支援を受けている学生のほうが、キャリアに対する意識がより明確であることが示された。このことを踏まえると、生活支援を受けている学生は、大学での支援を始めとした情報への関心が高く、キャリアに関する情報も自ら得ており、意識も高いのではないかと考えられる。ただし、経済・生活支援は、所得等による制限も加味されているため、そうした要因も影響している可能性もあるが、大学での支援についての情報発信を多様な学生に効果的に行うことは、今後の支援の在り方を検討する上でも考慮する必要があるだろう。

平成23年度　キャリア意識調査報告書

発行日：平成24年３月

発　行：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生支援センター
東京都文京区大塚２－１－１
ＴＥＬ　０３－５９７８－２６４６
ＦＡＸ　０３－５９７８－５８９４
メールアドレス　gakusei@cc.ocha.ac.jp

2012. 3. 200